

オフィスシリーズ **Type-HX**

User's Manual

ユーザーズ マニュアル

本機を使用開始するまでの手順を説明します。
必ずお読みください。

標準装備されている装置や機能と、取り付け
可能な装置について説明しています。

添付されているソフトウェアの使用方法や
インストール方法について説明しています。



EPSON

ご使用の前に

ご使用の際は、必ず「マニュアル」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
「マニュアル」は、不明な点をいつでも解決できるように、すぐに取り出して見られる場所に保管してください。

安全にお使いいただくために

このマニュアルおよび製品には、製品を安全に正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために絵表示が使われています。

その表示と意味は次のとおりです。内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



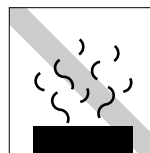
注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

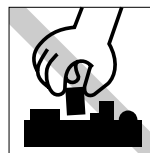


警告

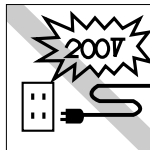
煙が出たり、変な臭いや音がするなど異常状態のまま使用しないでください。
感電・火災の原因となります。
すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談ください。
お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。



マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。
けがや感電・火災の原因となります。



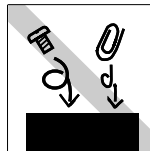
表示されている電源（交流100V）以外では使用しないでください。
指定外の電源を使うと、感電・火災の原因となります。



ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となります。



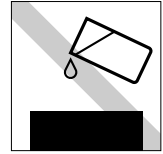
通風孔など開口部から内部に金属類や燃えやすいものを差し込んだり、落としたりしないでください。
感電・火災の原因となります。



⚠ 警告

異物や水などの液体が内部に入った場合は、そのまま使用しないでください。
感電・火災の原因となります。

すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、販売店、サービスセンター
または修理センターにご相談ください。

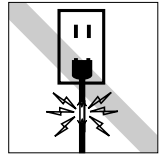


破損した電源コードを使用しないでください。感電・火災の原因となります。

電源コードを取り扱う際は、次の点を守ってください。

- ・電源コードを加工しない。
- ・無理に曲げたり、ねじったり、引っばったりしない。
- ・電源コードの上に重いものを載せない。
- ・熱器具の近くに配線しない。

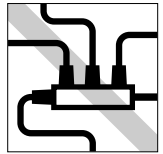
電源コードが破損したら、販売店、サービスセンターまたは修理センターにご相談
ください。



電源コードのたこ足配線はしないでください。

発熱し、火災の原因となります。

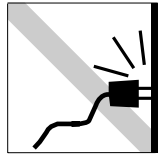
家庭用電源コンセント（交流100V）から電源を直接取ってください。



電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。

取り扱いを誤ると、火災の原因となります。

- ・電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
- ・電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。



電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。

感電・火傷の原因となります。



小さなお子様の手の届く場所で、内蔵リチウム電池の着脱、保管をしないでくださ
い。

飲み込むと化学物質による被害の原因となります。

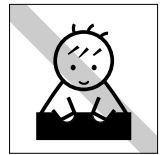
万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。



⚠ 注意

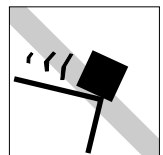
小さなお子様の手の届くところには設置、保管しないでください。

落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



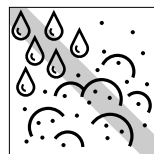
不安定な場所（ぐらついた台の上や傾いた所など）に置かないでください。

落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



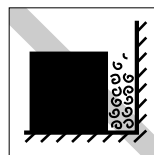
⚠ 注意

湿気やほこりの多い場所に置かないでください。
感電・火災の危険があります。

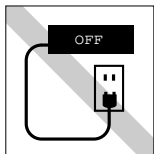


本製品の通風孔をふさがないでください。
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。
次のような場所には設置しないでください。

- ・押し入れや本箱など風通しの悪いところ。
- ・じゅうたんや布団の上
- ・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。

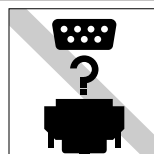


連休や旅行等で長期間ご使用にならないときは、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

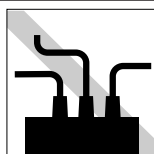


各種コード（ケーブル）は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。

配線を誤ると、火災の危険があります。

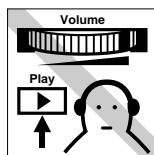


本製品を移動させる場合は、電源を切り、電源プラグをコンセントから抜き、すべての配線を外したことを確認してから行ってください。



ヘッドフォンやスピーカは、ボリュームを最小に調節してから接続し、接続後に音量を調節してください。

ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量で聴覚障害の原因となります。



長時間あるいは不自然な姿勢でのコンピュータ操作は避けてください。
肩こり、腰痛、目の疲れ、腱鞘炎などの危険があります。

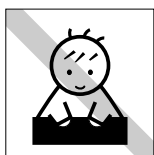


本製品は重いので、開梱や移動する場合は一人で行わないでください。
必ず2人以上で行ってください。



イジェクトピンは、小さなお子様の手の届くところには保管しないでください。
目をついたり、口に入れたりして、けがをする危険があります。

（光磁気ディスクドライブ内蔵機種）



使い始めるまでの準備

コンピュータの接続方法、電源の入れ方、切り方やセットアップについて説明します。

コンピュータの基本操作

キーボード、マウスやフロッピーディスクなど、コンピュータの基本的な操作方法について説明します。

システムの拡張

コンピュータに内蔵オプション装置を装着して機能を拡張する方法を説明します。

BIOSの設定

BIOS Setupユーティリティを使用し、BIOSの設定を変更する方法について説明します。

ソフトウェアの再インストール

ソフトウェアを再インストールする手順について説明します。

こんなときは

困ったときに

警告メッセージが表示されたら

付録

お手入れ方法、CMOS RAMの初期化、リチウム電池の交換、HDD領域の変更方法や仕様などについて説明します。

目次

マニュアル中の記号の意味	(7)
--------------	-----

製品保護上の注意	(8)
----------	-----

使用・保管時の注意	(8)
-----------	-----

記録メディア	(9)
--------	-----

マウス	(10)
-----	------

使い始めるまでの準備

ご使用の前に	2
--------	---

コンピュータを使い始めるまでの手順	.. 2
-------------------	------

システムの特長 3
---------	---------

添付ソフトウェアの概要 4
-------------	---------

各部の名称と働き	6
----------	---

コンピュータの設置	8
-----------	---

電源の入れ方とWindowsの セットアップ	12
---------------------------	----

電源を入れる前に 12
----------	----------

電源の入れ方とWindowsのセットアップ	.. 13
-----------------------	-------

Windows98のセットアップ 14
------------------	----------

Windows98起動ディスクの作成 17
--------------------	----------

WindowsNT4.0のセットアップ 18
---------------------	----------

電源の切り方	22
--------	----

Windows98の終了と電源の切り方	... 22
---------------------	--------

WindowsNT4.0の終了と電源の切り方	.. 23
------------------------	-------

リセット 23
------	----------

コンピュータの基本操作

キーボードを使う	26
----------	----

キーの種類と役割 26
----------	----------

マウスを使う	29
--------	----

マウスの操作 29
--------	----------

マウスの設定変更 29
----------	----------

フロッピーディスクドライブ (FDD) を使う	30
-------------------------	----

FDのセットと取り出し 31
-------------	----------

FDのフォーマット 32
-----------	----------

データのバックアップ 32
------------	----------

ライトプロテクト (書き込み禁止)	32
-------------------	----

1.2MB FDを使用する 33
---------------	----------

ハードディスクドライブ (HDD) を使う	34
-----------------------	----

HDDのバックアップ 34
------------	----------

HDDのフォーマット 35
------------	----------

HDDからの起動 35
----------	----------

CD-ROMドライブを使う	36
---------------	----

CD-ROMのセットと取り出し 36
-----------------	----------

強制的なCD-ROMの取り出し 37
-----------------	----------

光磁気ディスクドライブを使う	38
----------------	----

MOのセットと取り出し 38
-------------	----------

MOのフォーマット 39
-----------	----------

ライトプロテクト (書き込み禁止)	39
-------------------	----

強制的なMOの取り出し 40
-------------	----------

解像度や表示色を変更する	41
--------------	----

Windows98の場合 41
--------------	----------

WindowsNT4.0の場合 42
-----------------	----------

その他の機能	43
--------	----

パラレルコネクタの設定 43
-------------	----------

シリアルコネクタの設定 43
-------------	----------

USBコネクタの設定 44
------------	----------

コンピュータウィルスの検索・駆除	.. 44
------------------	-------

パワーマネージメント機能 45
--------------	----------

システムの拡張	
拡張できる装置	48
作業時の注意	49
本体カバーの装着と外し方	50
本体カバーの外し方	50
本体カバーの装着	51
DIMMの増設	52
DIMMの仕様	52
DIMMの取り付け	53
拡張カードの装着	56
拡張スロットの仕様	56
拡張カードの装着	57
3.5型ドライブベイへの装着	59
5.25型ドライブベイへの装着	63
HDDベイへの装着	66
本体正面側HDDベイへの装着	66
本体背面側HDDベイへの装着	67
ドライブ装置の装着	69
ドライブ装置の種類	69
IDE装置の設定	70
SCSI装置の設定	72
ドライブ装置の接続例	73
BIOSの設定	
BIOSの設定を始める前に	76
BIOS Setupユーティリティの操作	77
BIOS Setupユーティリティの起動	77
BIOS Setupユーティリティの操作	77
BIOS Setupユーティリティの終了	79

BIOS Setupユーティリティの設定項目	80
Mainメニュー画面	80
Passwordの設定	82
Advancedメニュー画面	84
Powerメニュー画面	88
Bootメニュー画面	90
Exitメニュー画面	91
BIOSの設定値	91

ソフトウェアの再インストール	
Windows98を使う場合	96
インストールの準備	96
インストールの順番	97
インストール時の注意	97
基本MS-DOS領域のフォーマット	98
Windows98のインストール	99
DMA転送の設定	101
マウスドライバのインストール	102
3モードFDDドライバのインストール	103
各種ドライバのインストール	104
WindowsNT4.0を使う場合	105
インストールの準備	105
インストールの順番	106
インストール時の注意	106
WindowsNT4.0のインストール	107
WindowsNT4.0のアップデート	110
マウスドライバのインストール	111
3モードFDDドライバのインストール	113
各種ドライバのインストール	114

こんなときは	
困ったときに	116
起動時の不具合	116
キーボードの不具合	117

マウスの不具合	118
ディスプレイの不具合	119
FDDの不具合	121
HDDの不具合	122
CD-ROMドライブの不具合	123
アプリケーションソフトの不具合	124
メモリの不具合	125
拡張カード、周辺装置の増設に 関する不具合	125
プリンタの不具合	126
スピーカの不具合	126
その他の不具合	126

警告メッセージが表示されたら	127
-----------------------	-----

付録

お手入れ	130
本機のお手入れ	130
マウスのお手入れ	130
FDDのお手入れ	131
CMOS RAMの初期化	132
リチウム電池の交換	133
使用中の資源 (割り込み、DMAなど)を確認する	135
ICUの実行	135
HDD領域の変更	137
MS-DOS領域の種類	137
HDD領域の変更	138
既存領域の削除	139
MS-DOS領域の作成	141
MS-DOS領域のフォーマット	143
コンピュータ内部のケーブル接続	144

コネクタ仕様	146
---------------	-----

機能仕様一覧	147
---------------	-----

用語集	148
------------	-----

マニュアル中の記号の意味

本書では次のような記号を使用しています。

安全に関する記号



この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

一般情報に関する記号



制限事項です。

機能または操作上の制限事項を記載してあります。



参考事項です。

覚えておく便利なことを記載してあります。



説明文が次ページに続くことを示します。



参照ページを示します。

1 2

操作手順です。

ある目的の作業を行うために、番号に従って操作します。



で囲んだマークはキーボード上のキーを表します。

はEnterキーを表します。また、 は のことです。このように必要な部分のみを記載しているため、実際のキートップの表示とは異なる場合があります。



+ の前のキーを押したまま + の後のキーを押します。

この例では、 を押したまま を押します。

DIR C:

キーボードから入力する文字を表します。 はスペース(空白)を表します。スペースはキーボード下部のスペースキー(横に細長いキー)を押すと入力できます。

オペレーションシステムに関する記述

本書ではオペレーションシステムの名称を次のように略して表記します。

Windows 98
Windows NT 4.0

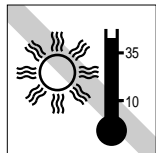
MS-DOS

Microsoft® Windows® 98 Operating system
Microsoft® Windows NT® Workstation Operating system
Version 4.0
Microsoft® MS-DOS® Operating system Version 6.2/V

製品保護上の注意

使用・保管時の注意

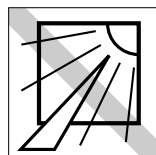
コンピュータは精密な機械です。故障や誤動作の原因となりますので、次の注意事項を必ず守って、本製品を正しく取り扱いってください。



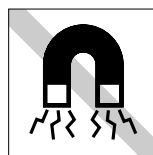
温度が高すぎる所や、温度が低すぎる所には置かないでください。また、急激な温度変化も避けてください。
故障、誤動作の原因になります。適切な温度の目安は10 ～ 35 です。



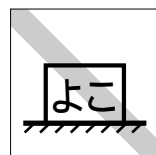
他の機械の振動が伝わる所など、振動しがちな場所には置かないでください。故障、誤動作の原因になります。



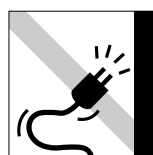
直射日光の当たる所や、発熱器具（暖房器具や調理器具など）の近くなど、高温・多湿となる所には置かないでください。
故障、誤動作の原因になります。



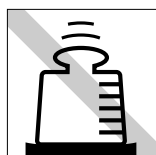
テレビやラジオ、磁石など、磁界を発生するものの近くに置かないでください。コンピュータの誤動作が生じたり、フロッピーディスクなどのデータが破壊されることがあります。逆に、コンピュータの影響でテレビやラジオに雑音が入ることもあります。



横置きにしないでください。
故障、誤動作の原因になります。本機は縦置き専用に設計されています。



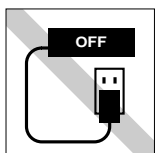
電源ケーブルが抜けやすい所（ケーブルに足が引っかかりやすい所や、ケーブルの長さがぎりぎりの所など）にコンピュータを置かないでください。
電源ケーブルが抜けると、それまでの作業データがメモリ上から消えてしまいます。



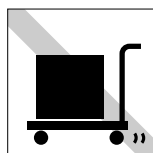
コンピュータ本体の上には重い物を載せないでください。
重圧により、故障や誤動作の原因となることがあります。



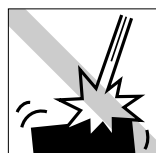
本製品の汚れを取るときは、ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。
変色や変形の可能性があります。柔らかい布に中性洗剤を滴らない程度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。



電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。
電源スイッチをオフにしても、コンピュータ内部に微少な電流が流れているため、ショートして故障の原因となります。



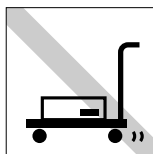
遠隔地に輸送するときや保管するときは、裸のままで行わないでください。
衝撃や振動、ホコリなどからコンピュータを守るため、専用の梱包箱に入れてください。



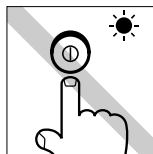
移動するときは、振動や衝撃を与えないようにしてください。
内蔵の周辺機器（ハードディスクドライブ、CD-ROMドライブなど）も含めて、故障、誤動作の原因となります。



コンピュータは一般ゴミとして廃棄しないでください。
廃棄するときは、お住まいの市区町村の条例または規則に従って、適切に処分してください。



輸送や保管をするときは、付属物を
セットしたままにしないでください。
配線ケーブル、フロッピーディスク、
CD-ROMなどは取り外してください。



アクセスランプが点灯中は、コン
ピュータの電源スイッチを押したり
、リセットしないでください。

記録メディア

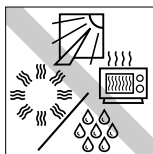
以下のような取り扱いをすると、次の記録メディアに登録されたデータが破壊されるおそれがあります。
記録メディアの種類は、次のとおりです。

フロッピーディスク **FD**

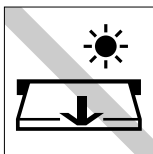
CD-ROM **CD**

光磁気ディスク **MO**

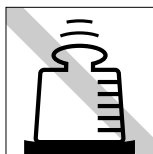
記録メディアの種類を指定していない場合は、すべての記録メディアに該当します。



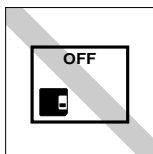
直射日光が当たる所、暖房器具の
近くなど、高温・多湿となる場所には
置かないでください。



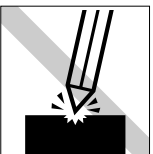
アクセスランプが点灯中は、記録メ
ディアを取り出したり、コンピュータの
電源スイッチを押したり、リセットをし
ないでください。



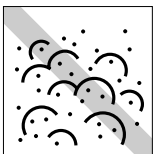
上に物を載せないでください。



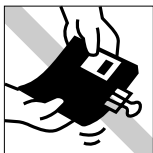
使用後は、コンピュータにセットした
ままにしたり、裸のまま放置したりしな
いでください。
専用のケースに入れて保管してくだ
さい。



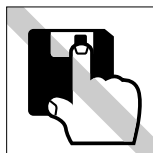
キズを付けないでください。



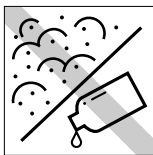
ゴミやホコリの多いところでは、使用
や保管しないでください。



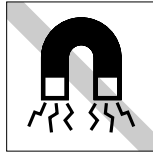
クリップではさむ、折り曲げるなど、無
理な力をかけないでください。



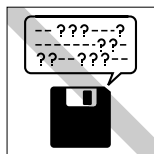
アクセスカバーを開けたり、磁性面
に触れたりしないでください。
FD MO



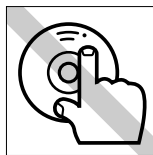
磁性面にホコリや水を付けないでく
ださい。
シンナーやアルコールなどの溶剤類
を近づけないでください。 **FD MO**



テレビやラジオ、磁石など、磁界を発
生するものに近づけないでください。
FD MO



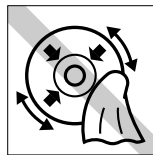
何度も読み書きしたフロッピーディスクは使わないでください。
磨耗したフロッピーディスクを使うと、読み書きでエラーが生じることがあります。 **FD**



信号面(文字などが印刷されていない面)に触れないでください。 **CD**



レコードやレンズ用のクリーナーなどは使わないでください。
クリーニングするときは、CD専用クリーナーを使ってください。 **CD**



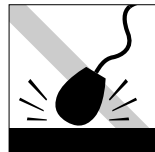
レコードのように回転させて拭かないでください。
CD-ROMは、内側から外側に向かって拭いてください。 **CD**



CD-ROMドライブのデータ読み取りレンズをクリーニングするCDは使わないでください。 **CD**

マウス

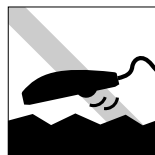
マウスは精密な機械です。次の点に注意して操作してください。



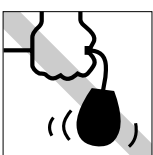
落したり、ぶつけたりして強い衝撃を与えないでください。



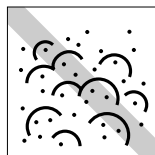
マウスボールを素手で触らないでください。



平らな場所で使用してください。でこぼこのある場所ではマウスボールの回転が不規則になり、マウスの動きがコンピュータに正確に伝わりません。



持ち運びはマウス本体を持ってください。ケーブルを持って運ばないでください。



ゴミやホコリの多いところでは、使用や保管しないでください。マウスボールにホコリやゴミが付いたまま使用すると、誤動作や故障の原因になります。

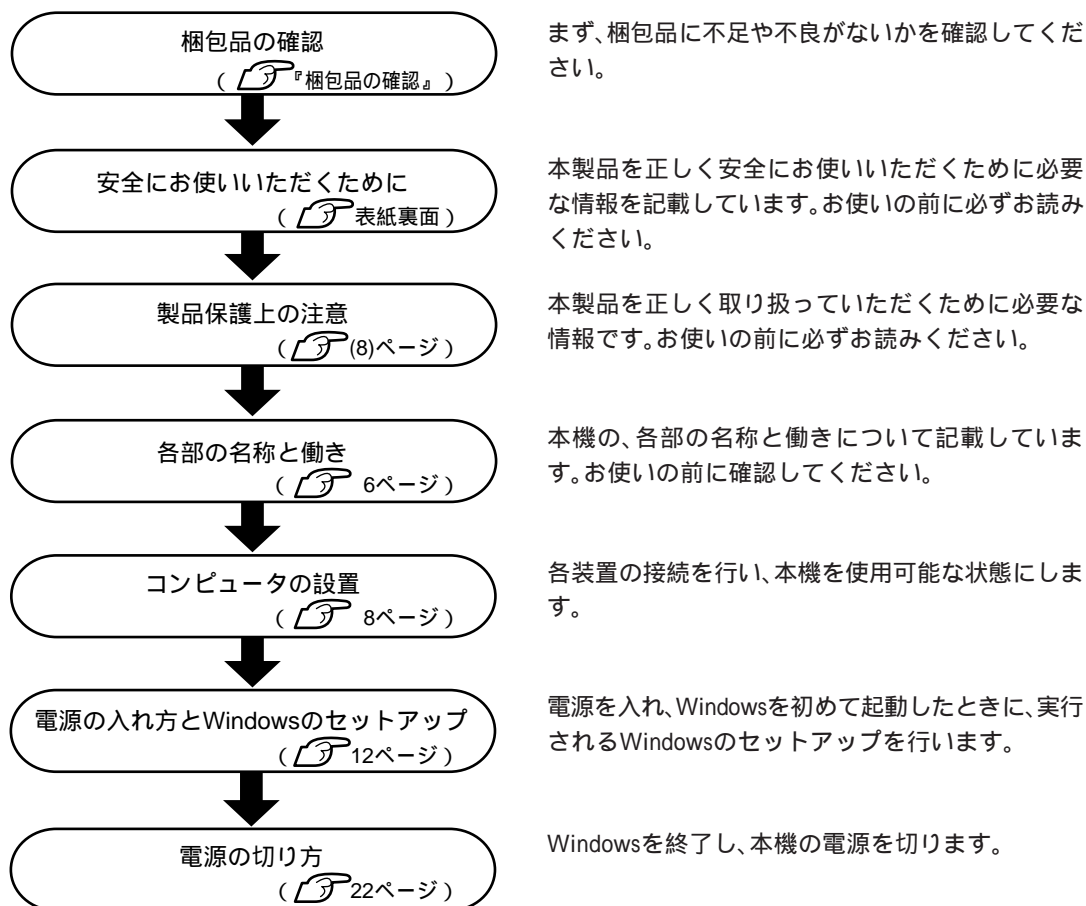
使い始めるまでの準備

コンピュータの接続方法、電源の入れ方、切り方やセットアップについて説明します。

ご使用の前に

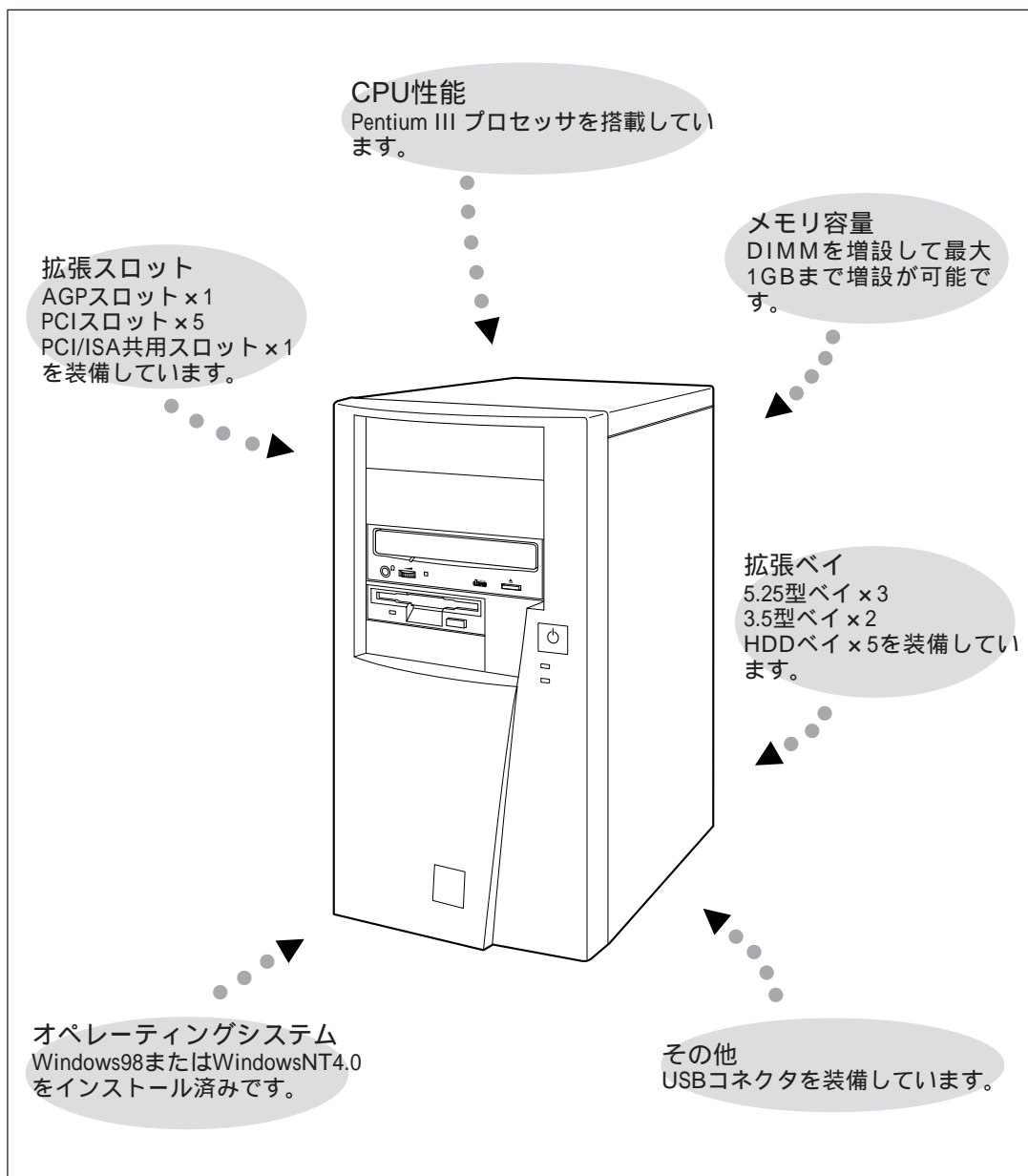
コンピュータを使い始めるまでの手順

購入後に初めて使用する場合は、次の手順で作業を行ってください。







システムの特長

本機のシステムの特長は、次のとおりです。











添付ソフトウェアの概要









本機に標準で添付されているソフトウェアは次のとおりです。購入時の仕様によってはこのほかにも添付されているソフトウェアがあります。

記号の見方	
インストール状態	添付状態
 : 内蔵HDDにプレインストールされています。	 : ディスクが添付されています。
 : インストールされていません。必要に応じてインストールしてください。	(B) : バックアップディスクの作成が必要です。  p.12「電源の入れ方とWindowsのセットアップ」

Windows98インストールモデル

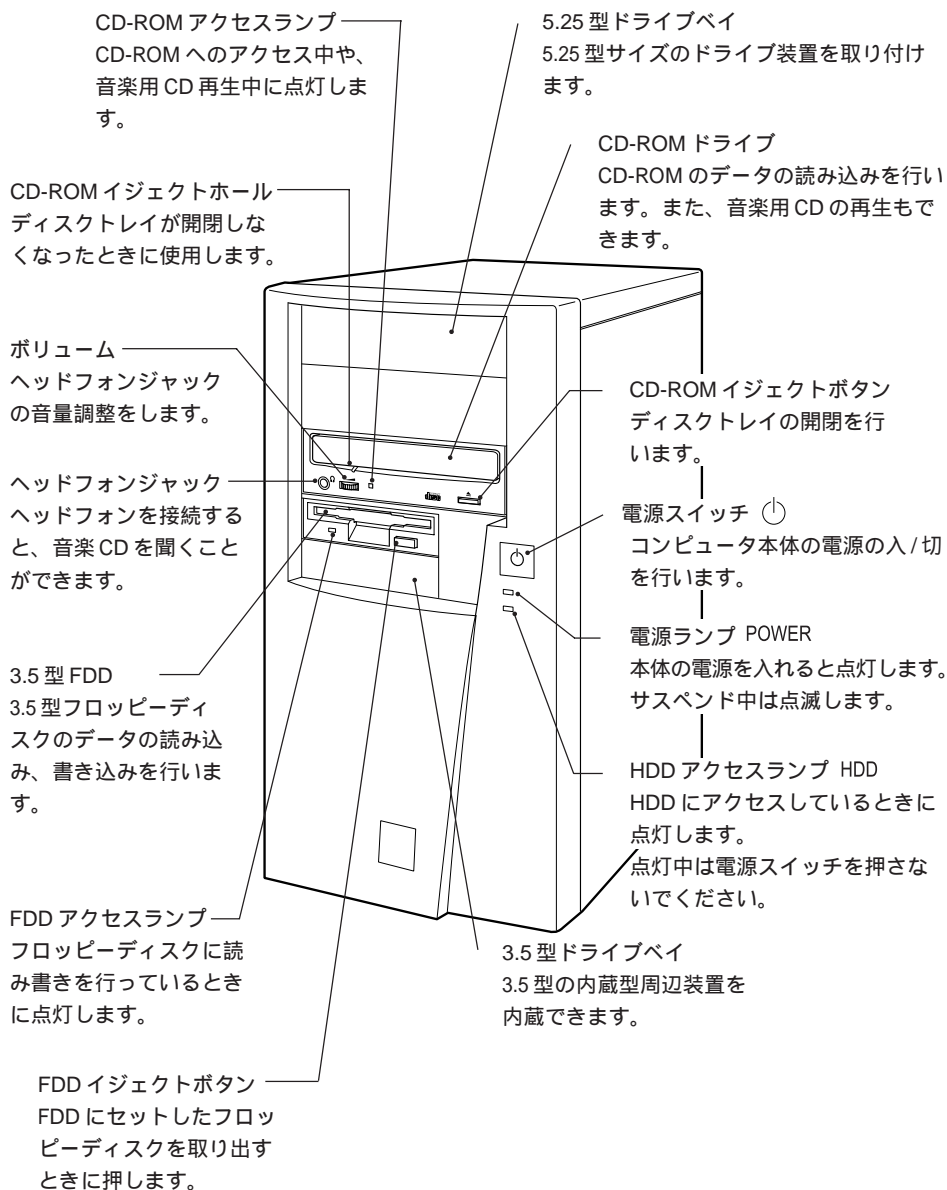
Windows98 Windowsは最新のものがインストールされています。  『Windowsファーストステップガイド』	
マウスドライバ ホイール付きマウスを使用するためのデバイスドライバです。	
3モードFDDドライバ 1.2MBフォーマットのフロッピーディスクを読み書きするためのデバイスドライバです。	
Virus Scan for Windows 最新マクロウイルスに対応し、ウイルス駆除もできる高機能なウイルス対策プログラムです。  『Virus Scan for Windowsユーザーズガイド(電子マニュアル)』	
Adobe Acrobat Reader 様々なアプリケーションソフトで作成した書類のデザインやレイアウトをそのまま再現するPDFファイルの表示やプリントができるソフトウェアです。	
マニュアル(PDFファイル) 「ユーザーズマニュアル(本書)」がPDFファイルで登録されています。	

WindowsNT4.0インストールモデル

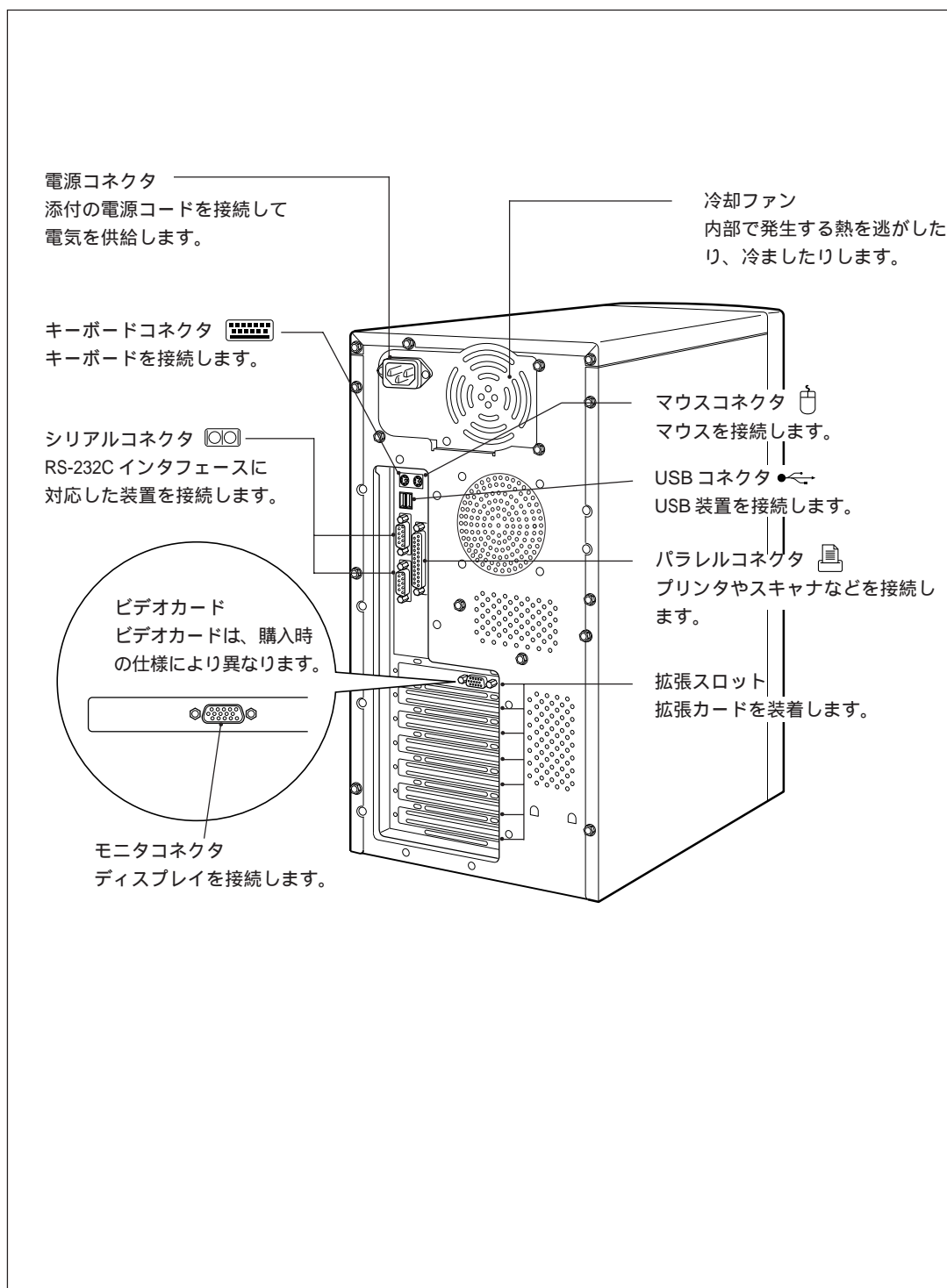
<p>WindowsNT4.0</p> <p>WindowsNT4.0は最新のものがインストールされています。</p> <p> 『WindowsNT4.0ファーストステップガイド』</p>	
<p>マウスドライバ</p> <p>ホイール付きマウスを使用するためのデバイスドライバです。</p>	
<p>3モードFDDドライバ</p> <p>1.2MBフォーマットのフロッピーディスクを読み書きするためのデバイスドライバです。</p>	
<p>Virus Scan for Windows</p> <p>最新マクロウイルスに対応し、ウイルス駆除もできる高機能なウイルス対策プログラムです。</p> <p> 『Virus Scan for Windowsユーザーズガイド(電子マニュアル)』</p>	
<p>Adobe Acrobat Reader</p> <p>様々なアプリケーションソフトで作成した書類のデザインやレイアウトをそのまま再現するPDFファイルの表示やプリントができるソフトウェアです。</p>	
<p>マニュアル(PDFファイル)</p> <p>「ユーザーズマニュアル(本書)」がPDFファイルで登録されています。</p>	

各部の名称と働き

本体正面



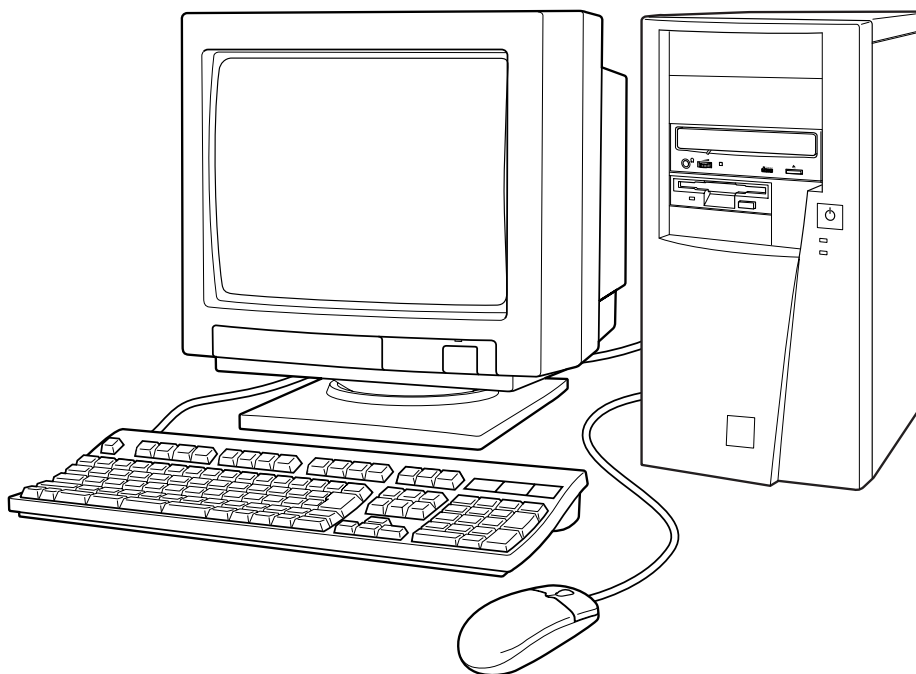
本体背面



コンピュータの設置

本機を安全な場所に設置し、キーボードやマウス、電源コードなどを接続して使用できる状態にする手順を説明します。

ここでの説明は標準的なシステム構成で行っています。周辺装置の接続方法は周辺装置に添付のマニュアルをご覧ください。



設置における注意



- 不安定な場所(ぐらついた台の上や傾いた所など)に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。
- 本製品の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の危険があります。次のような場所には設置しないでください。
 - ・押し入れや本箱などの風通しの悪いところ
 - ・じゅうたんや布団の上
 - ・毛布やテーブルクロスのような布をかけない。

故障や誤動作を防ぐため、「製品保護上の注意」にある注意事項を守って設置場所を決めてください。

各種コード(ケーブル)接続時の注意



警告

- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源コードのたこ足配線はしないでください。発熱し、火災の原因となります。家庭用電源コンセント(交流100V)から電源を直接取ってください。
- 電源プラグを取り扱う際は、次の点を守ってください。取り扱いを誤ると、火災の原因となります。
 - ・ 電源プラグはホコリなどの異物が付着したまま差し込まない。
 - ・ 電源プラグは刃の根元まで確実に差し込む。



注意

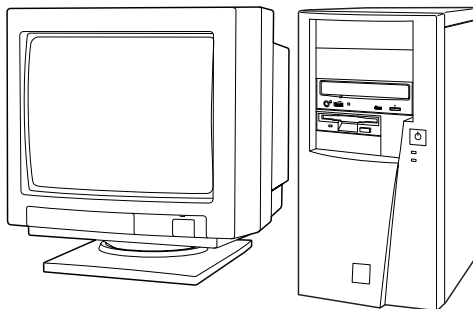
- 各種コード(ケーブル)は、マニュアルで指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、火災の危険があります。

設 置

1

本機を丈夫で水平な場所に置きます。

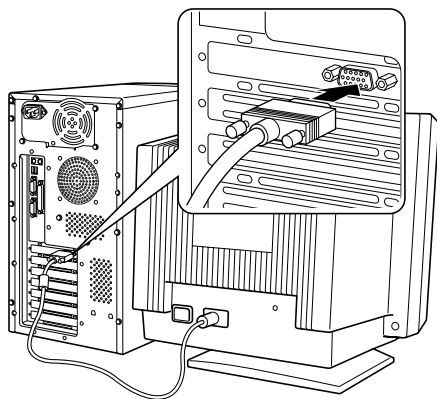
本機は横置きはできません。必ず縦置きに設置してお使いください。



ディスプレイの接続

2

ディスプレイの接続コードを、本機背面のモニタコネクタに接続します。

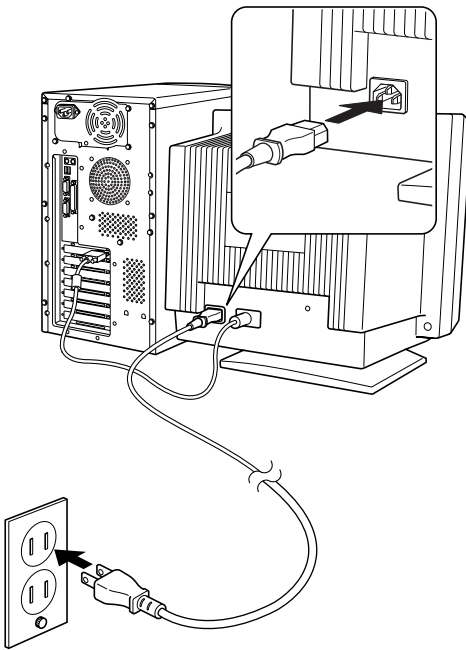


ディスプレイの形状は、お使いになるモデルにより異なります。

キーボードの接続

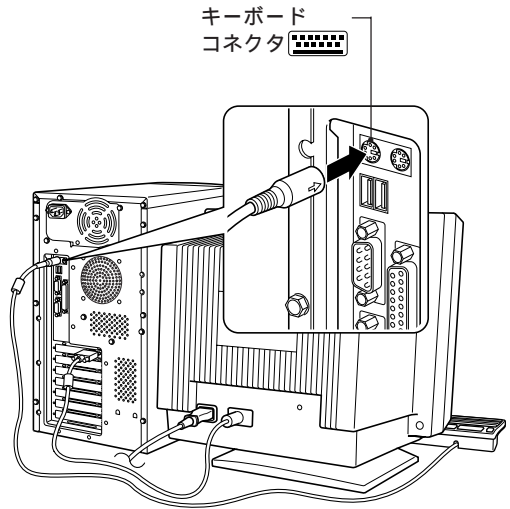
3

ディスプレイの電源コードをディスプレイの電源コネクタと家庭用電源コンセントに接続します。



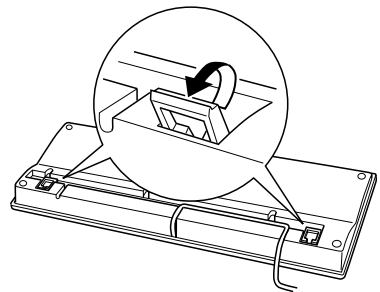
4

キーボードケーブルのコネクタの矢印を下図の方向に向けて、本機のキーボードコネクタに差し込みます。



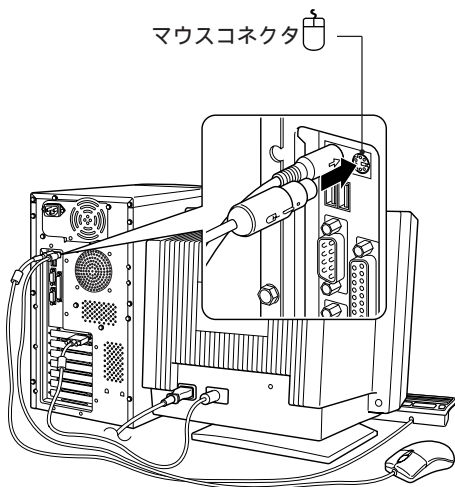
キーボードは操作しやすい位置に置き、次の調節をしてください。

- キーボードを傾斜させるときは両端の脚を起こします。
- キーボードコードを、底面の溝から引き出し、左右どちらかから出します。



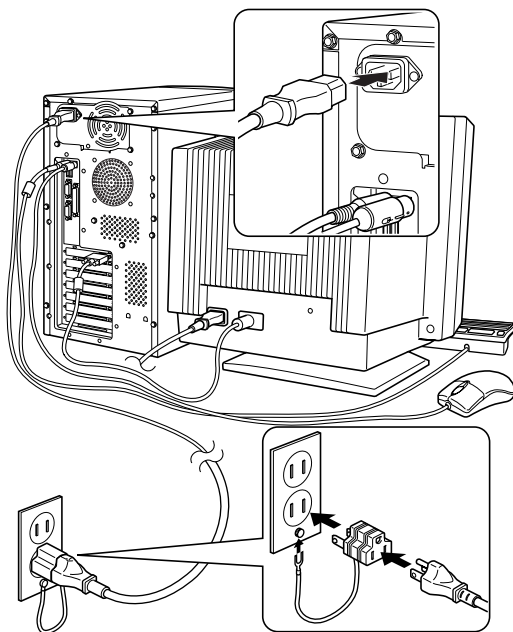
マウスの接続

- 5** マウスケーブルのコネクタの矢印を下図の方向に向けて、本機のマウスコネクタに差し込みます。



電源コードの接続

- 6** 家庭用電源コンセントに、添付の電源プラグ変換アダプタを接続してから、電源コードを接続します。



電源の入れ方とWindowsのセットアップ

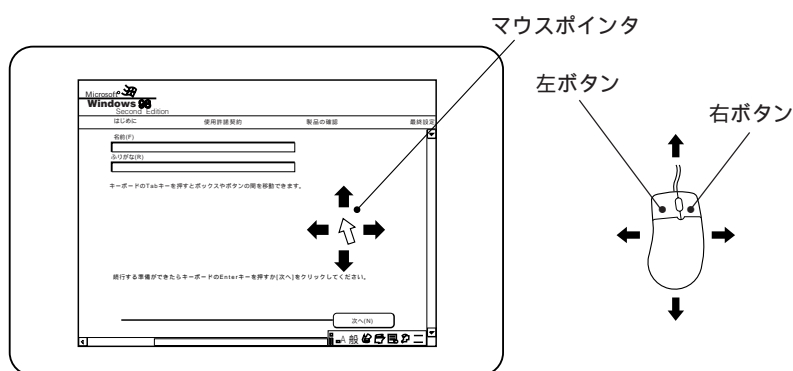
本章では、電源を入れる前に知っておいていただきたい内容と電源の入れ方について説明します。


電源を入れる前に

マウスの使い方

WindowsのセットアップおよびWindowsでの操作は、マウスで行います。以降の作業に必要なマウスの基本操作を説明します。

- 1 Windowsの画面では、次のようにマウスポインタが表示されます。マウスを机の上で前後左右に動かすと、動かした方向にマウスポインタが移動します。



- 2 画面に操作を選択するボタンなどが表示されています。これから行いたい操作のボタン上にマウスポインタの先端を合わせます。マウスポインタを合わせたらマウスの左ボタンを1回「カチッ」と押して離します。これで操作が選択され、実行します。以降このように左ボタンを1回押す操作を「クリック」といいます。
( p.29 マウスを使う)



Windows NT上で、3ボタンマウスをお使いになる場合は、アプリケーションソフトによって、中央のボタンが使用できない場合があります。

電源の入れ方とWindowsのセットアップ



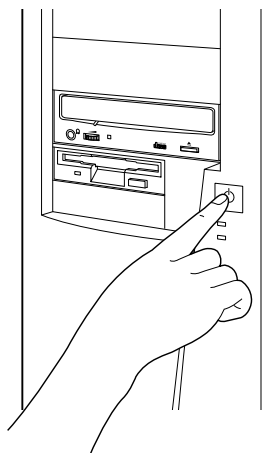
次のような状態を確認して、本機の電源が切れていることを確認します。

- ・電源ランプが消えている。
- ・何かキーを押しても、画面が表示されない。

周辺装置(外部接続)を接続している場合は、周辺装置から電源を入れます。

本体の電源の入れ方は次のとおりです。

- 1 ディスプレイの電源スイッチを押します。
- 2 本体の電源スイッチを押します。電源ランプが点灯します。



- 3 画面にシステムの仕様などが表示され、しばらくするとWindowsが起動します。コンピュータが届いてから初めて電源を入れた場合には、Windowsが起動後、自動的に「Windowsセットアップ」が起動します。これは、初めて電源を入れたときに、1度だけ起動するソフトウェアです。お使いになるお客様の情報を記録したり、お使いのシステム環境に合わせて設定を行います。次ページからの手順をご覧ください。

電源を入れたときに、次のような現象が発生した場合は次の事項を確認してください。

電源ランプが点灯しない場合

電源コードが正しく接続されているか確認してください。

画面に何も表示されない場合

ディスプレイが正しく接続され、ディスプレイの電源が入っているか確認してください。

Windows 98のセットアップ

Windows98インストールモデルのセットアップは、次の手順で行います。

1

電源を入れた後、しばらくすると自動的に「Windows 98セットアップ」が実行されます。セットアップの作業の流れは次のとおりです。画面の指示にしたがって実行してください。

ようこそ



日本語入力システムIMEの説明が表示されます。

情報の収集



ユーザー情報として名前とふりがなを入力します。
名前を入力後 **[Tab]** を押すとふりがなの欄にポインタが移動します。

使用許諾契約への同意



画面に表示された契約内容に同意するかしないかを設定します。

プロダクトID番号



『Windows98 ファーストステップガイド』の表紙に記載されている「Product Key」を入力します。

インストールの完了



Windowsが正常にインストールされました。[完了]をクリックし、セットアップを続けてください。

日付と時刻の設定



「タイムゾーン」で地域を指定し、「日付と時刻」で現在の日時を設定します。

お知らせの確認



本機をお使いになる前に知っておいていただきたい内容が表示されます。必ずお読みください。

バックアップFD作成ユーティリティ

本機にインストールされているソフトウェアのバックアップディスクを作成します。詳しくは、下記の「バックアップディスクの作成」をご覧ください。

2 セットアップが終了し、Windows 98が起動すると、Windows 98のデスクトップが表示されます。

3 Windows 98セットアップ終了後に、次のソフトウェアのインストールが必要です。

VirusScan for Windowsのインストール

本機のHDDには、VirusScan for Windows98はインストールされていません。VirusScan for Windows98をお使いになる場合は、VirusScan for Windows98のインストールを行います。

 「VirusScan for Windowsをご使用前に」

以降は、添付の『Windows98ファーストステップガイド』やWindowsのヘルプをご覧ください。Windowsを使用してください。

購入時のHDD領域の設定について

購入時のHDDは次のように設定されています。

インストールモデル	ドライブ	ファイルシステム
Windows98	すべての領域 (C ドライブ)	FAT 32

バックアップディスクの作成

本機の内蔵ハードディスク(以降HDD)には、購入時にWindows98や各種ソフトウェアが登録されています。これらのディスクは「バックアップFD作成ユーティリティ」で作成します。このユーティリティはWindows98セットアップ作業中に自動的に動作します。



バックアップディスクを作成しないと、ソフトウェアを再インストールすることができません。

バックアップFD作成ユーティリティでは、次のプログラムのディスクを作成します。フロッピーディスクを必要枚数用意してください。

ディスクセット名	必要なFDの枚数
Windows98用3モードFDDドライバディスク	1枚
IntelliPointドライバディスク	1枚
マニュアルディスク	3枚

購入時の仕様によっては、これらのディスク以外にディスクの作成が必要な場合があります。バックアップFD作成ユーティリティの画面に表示されるすべてのディスクセットのバックアップディスクを作成してください。この場合も同様の手順で行ってください。ディスクが添付されている場合は、バックアップディスクの作成は必要ありません。



参考

バックアップディスクをあとから作成するには
Windows98のセットアップ作業中に、ディスクを作成しない場合は、あとから作成することもできます。セットアップディスクの作成は、「プログラム」-「アクセサリ」-「システムツール」-「バックアップFD作成ユーティリティ」で行います。

バックアップディスクの作成は、次の手順で行います。

- 1 バックアップFD作成ユーティリティが実行されると「作成するディスクセットの選択」が表示されます。
- 2 画面に表示されているディスクセットの中から作成したいディスクセットをクリックして、[次へ]をクリックするとバックアップディスクの作成が始まります。画面の説明にしたがってバックアップディスクを作成してください。
- 3 1つのディスクセットの作成が終わったら、同様に次のディスクセットを作成してください。作成したディスクには必ずディスク名を明記したラベルを貼り、ライトプロテクトをして大切に保管してください。

Windows 98 起動ディスクの作成

Windows98起動ディスクは、次のような場合に使用します。

Windows98を再インストールする場合。

Windows98がHDDから起動しなくなった場合。

HDDの領域変更をする場合。



制限

Windows98起動ディスクを作成しないと、Windows98を再インストールすることができません。

Windows98起動ディスクは、次の方法で作成します。あらかじめFDを2枚用意しておきます。

- 1 CD - ROMドライブに「Windows 98 CD - ROM」をセットします。
- 2 コントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」の「起動ディスク」タブをクリックします。
- 3 FDDにFDをセットして、「ディスクの作成」をクリックします。
- 4 画面の指示にしたがって、2枚の起動ディスクを作成します。
- 5 「Windows 98 起動ディスク 1、2」と書いたラベルを貼り、ライトプロテクトをして保管します。

Windows NT 4.0 のセットアップ

Windows NT4.0 インストールモデルのセットアップは、次の手順で行います。

- 1 電源を入れた後、しばらくするとWindows NT Workstationの画面が表示され、Windowsが起動します。
- 2 Windows NTが起動すると、自動的に「Windows NT セットアップ」が実行されます。
セットアップの流れは次のとおりです。画面の指示に従って実行してください。
なお、コンピュータをネットワークに接続している場合は、ネットワーク管理者の指示にしたがってセットアップ作業を行ってください。

情報の収集

ユーザー情報として、次の項目を入力します。

- ① 名前・組織名
- ② Product ID ... Windows NT4.0ファーストステップガイドの表紙に記載されている「Product ID」を入力します。
- ③ コンピュータ名
Tab を押すと次の欄にポインタが移動します。

Windows NT 4.0 のアップデート

「Internet Explorer 4.01 SP2のセットアップ」が行われ自動的に再起動します。

コンピュータの再起動

再起動するとWindows NTが起動します。オペレーティングシステムの選択では、[Windows NT Workstation Version 4.00]を選択します。

NTにログオンする

ここで **Ctrl** + **Alt** + **Delete** キーを押し、ログオン情報入力画面が表示されたら、ユーザー名、パスワードには次のように入力してください。

ユーザー名: administrator

パスワード: 何も入力せずに **OK** をクリックします。

これらの設定は、**[スタート] [プログラム] [管理ツール] [ユーザーマネージャ]** または Windows NT のヘルプから変更できます。

- 3 ログオンに成功すると、次の画面が表示されます。



- 4 Windows NT 4.0 セットアップ終了後に、次のソフトウェアのインストールが必要です。

ネットワークドライバのインストール(ネットワークカードを使用する場合のみ)

本機のHDDには、ネットワークドライバがインストールされていません。ネットワークをお使いになる場合は、ネットワークドライバのインストールを行います。

インストール方法についてはWindows NTのヘルプまたはネットワークカードに添付のマニュアルをご覧ください。


インストール時には、ネットワークに関するさまざまな情報が必要になります。これらの情報については、ネットワーク管理者に確認し、指示にしたがって作業を行ってください。

ネットワークの設定変更後に「再起動しますか?」と表示された場合は、「いいえ」を選択し、「Service Pack5」をインストールしてください。

 p.20「Windows NT Service Pack5のインストール」

マウスドライバのインストール

本機のHDDには、マウスドライバがインストールされていません。ホイール機能を使用する場合には、マウスドライバのインストールを行います。

 p.111「マウスドライバのインストール」

VirusScan for WindowsNT4.0のインストール

本機のHDDには、VirusScan for WindowsNT4.0は、インストールされていません。VirusScan for WindowsNT4.0をお使いになる場合はVirusScan for Windows NT4.0のインストールを行います。



「VirusScan for Windowsをご使用の前に」

WindowsNT ServicePack5のインストール

本機にネットワークドライバをインストールした場合や、新しくデバイスドライバを追加した場合には、インストール後に「ServicePack5」をインストールする必要があります。

ServicePack5のインストールは、次の手順で行います。

- ① [スタート]をクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- ② 「名前」に「C:¥SP5¥SP5I386」と入力して[OK]をクリックします。
(¥SP5I386 のIはアルファベット)
- ③ 画面の指示にしたがってインストールを行います。
「WindowsNTServicePackようこそ」画面では、「同意する」にチェックをつけ、「後で Service Pack をアンインストールできるように...」のチェックをはずします。
- ④ 「インストールは完了しました」と表示されたら[OK]をクリックして、Windows を再起動します。

WindowsNT4.0 Option Packのインストール

必要に応じて、「WindowsNT4.0 Option Pack」のインストールを行います。
以降は添付の『Microsoft WindowsNTファーストステップガイド』やWindows NTのヘルプをご覧になりWindowsを使用してください。

購入時のHDD領域
の設定について

購入時のHDDは次のように設定されています。

インストールモデル	ドライブ	ファイルシステム
WindowsNT4.0	最初の 2 GB (C ドライブ) 残りの領域	FAT 16 未設定

WindowsNT4.0インストールモデルでは、購入時に2GBを超える容量のHDDが接続されている場合は、先頭の2GBに基本MS-DOS領域(Cドライブ)を作成しWindowsをインストールしてあります。

WindowsNT4.0の未設定領域はこのままでは使用できません。「管理ツール」-「ディスクアドミニストレータ」を使用して、領域の作成を行ってください。

バックアップ ディスクの作成

本機の内蔵ハードディスク(以降HDD)には、購入時にWindowsNT4.0や各種ソフトウェアが登録されています。これらのソフトウェアの一部のバックアップディスクを作成する必要があります。バックアップディスクは「バックアップFD作成ユーティリティ」で作成します。



バックアップディスクを作成しないと、ソフトウェアを再インストールすることができません。必ず作成してください。

バックアップFD作成ユーティリティでは、次のプログラムのバックアップディスクを作成します。フロッピーディスクを必要枚数用意してください。

ディスクセット名	必要なFDの枚数
3モードFDDドライバディスク	1枚
マニュアルディスク	3枚

購入時の仕様によっては、これらのディスク以外にもディスクの作成が必要です。「バックアップFD作成ユーティリティ」の画面に表示されるすべてのディスクセットのバックアップディスクを作成してください。

バックアップディスクの作成は、次の手順で行います。

- 1 [スタート]をクリックして「プログラム」-「バックアップFD作成ユーティリティ」をクリックします。
- 2 バックアップFD作成ユーティリティが実行されると「作成するディスクセットの選択」が表示されます。
- 3 画面に表示されているディスクセットの中から作成したいディスクセットをクリックして、[次へ]をクリックするとバックアップディスクの作成が始まります。画面の説明にしたがってバックアップディスクを作成します。
- 4 1つのディスクセットの作成が終わったら、同様に次のディスクセットを作成します。作成したディスクには必ずディスク名を明記したラベルを貼り、ライトプロテクトをして大切に保管してください。

電源の切り方

本章では、電源の切り方について説明します。



電源スイッチをオフにしてからオンにする場合には、オンにするまで20秒程度の間隔を開けてください。本機には電源電圧などを管理するシステム管理機能が搭載されています。このため20秒以内に電源をオンにすると、電源が異常と判断され、正常にシステムが起動しなくなることがあります。このような場合には、一度電源をオフにし20秒以上待ってから電源をオンにすれば正常に起動します。

コンピュータがハングアップしてキーボードやマウスの操作を受け付けられないような状態になると、電源スイッチを押しても電源が切れないことがあります。このような場合はあわてずに5秒以上電源スイッチを押してください。これで電源が切れます。もう一度電源を入れ、下記の手順にしたがってシステムを正常終了してください。

HDDやFDDなどのアクセスランプ点灯中に電源スイッチをオフにすると、登録されているデータが破壊されるおそれがあります。

本機は電源スイッチをオフにしても、コンセントに接続されているとコンピュータ内部には微少な電流が流れています。本機の電源を完全に切るには、電源コンセントから電源プラグを抜いてください。

Windows 98の終了と電源の切り方

電源を切るときは、必ずWindows98を終了させてから電源を切ります。

- 1 [スタート]をクリックし、[Windowsの終了]をクリックします。
- 2 [Windowsの終了]ダイアログボックスで「電源を切れる状態にする」にマークが付いている状態で[OK]をクリックします。
- 3 Windows 98が終了し、自動的にコンピュータの電源が切れます。
- 4 ディスプレイや、接続している周辺装置の電源スイッチをオフにします。

Windows NT 4.0の終了と電源の切り方

電源を切るときは、必ずWindows NT 4.0を終了させてから電源を切ります。

- 1 [スタート] をクリックし、[シャットダウン] をクリックします。
- 2 [Windowsのシャットダウン] ダイアログボックスで「コンピュータをシャットダウンする」にマークが付いている状態で [はい] をクリックします。
- 3 「電源を切断しても安全です。」というメッセージが表示されたら、コンピュータの電源スイッチをオフにします。
- 4 ディスプレイや、接続している周辺装置の電源スイッチをオフにします。

リセット

コンピュータの電源スイッチがオンになっている状態で、コンピュータを再起動する場合に「リセット」を行います。リセットは次のような場合に行います。

使用しているソフトウェアで指示があった場合。

プログラムが暴走(キーボードやマウスからの入力を受け付けず、何も反応しなくなった状態)した場合。

リセットすると、メモリ上のデータはすべて消失します。プログラムが暴走した場合以外は、リセットを行う前に必要なデータをHDDなどに登録してください。

リセットは **Ctrl** + **Alt** + **Delete** を押して、離すと実行されます。



Windows使用時のリセット

WindowsNTは、**Ctrl** + **Alt** + **Delete** でリセットできません。WindowsNTがログオンされている状態で **Ctrl** + **Alt** + **Delete** を押すと「NTのセキュリティ」画面が表示されます。

リセットと電源スイッチ

電源スイッチを一度オフにしてからオンにする操作と、リセットする操作は、「コンピュータを起動し直す」という点では同じ結果になります。リセットの利点は、キーを押して離すだけなので、すばやく起動し直すことができる点です。ただし、ハードウェアを完全に初期化する場合には、電源スイッチをオフにしてください。



コンピュータの基本操作

キーボード、マウスやフロッピーディスクなど、コンピュータの基本的な操作方法について説明します。

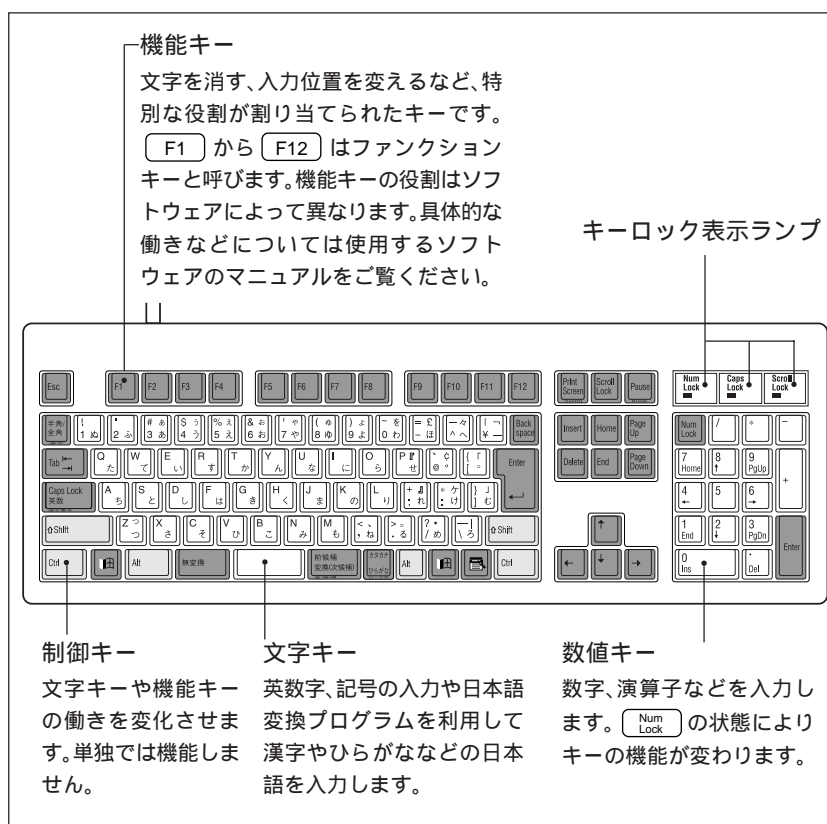
キーボードを使う

本機のキーボードは日本語対応109キーボードです。キーボードの接続方法についてはp.8「コンピュータの設置」をご覧ください。

キーの種類と役割

109個のキーには、それぞれ異なった機能が割り当てられていますが、大きく4つのグループに分けられます。








入力キー



キートップに表示された文字と実際に入力される文字が異なる場合もあります。

キーロック 表示ランプ

キーボード右上には次の3つのランプがあります。

- NumLock** :  の状態を示します。
 を押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。数値キーの役割を切り替えます。NumLockが点灯状態で、数値キーを押すと、キーの上側に印刷された数字が入力されます。NumLockが消灯状態では、数値キーの下側に印刷された矢印などの機能キーの役割になります。
- CapsLock** :  の状態を示します。
 +  を押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。文字キーで入力される文字の種類を切り替えます。点灯状態では大文字が入力され、消灯状態では小文字が入力されます。
- ScrollLock** :  の状態を示します。
 を押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。このキーはソフトウェアによって機能が異なります。
詳しい内容は、ご使用のソフトウェアのマニュアルをご覧ください。











参考

日本語変換プログラム

漢字などの日本語を入力する場合には日本語変換プログラムを使用します。WindowsにはMS-IMEがインストールされています。日本語変換プログラムの使用方は、ファーストステップガイドまたはMS-IMEのオンラインヘルプをご覧ください。

Windowsキーと組み合わせて使うキー

Windowsキーと他のキーを組み合わせることで、Windowsをより効率的に使うことができます。

キーの組み合わせ	機 能
 + F1	Windowsのヘルプが表示されます。
 + E	エクスプローラを起動します。ファイルやフォルダの内容が表示されます。
 + F	「検索:条件 = すべてのファイル」ウィンドウが表示されます。
 + Ctrl + F	「検索:コンピュータ」ウィンドウが表示されます。
 + M	表示されているウィンドウをすべて最小化します。
Shift +  + M	最小化されているウィンドウをすべて元のサイズに戻します。
 + R	「ファイル名を指定して実行」ウィンドウが表示されます。
 + Tab	タスクバーに表示されているボタン(アプリケーションやファイル)の選択を切り替えます。

マウスを使う

本機に標準で添付されているマウスには、左右のボタンのほかにホイールボタンがあります。

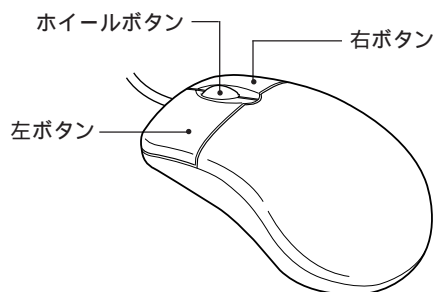
ホイール機能を使用するには専用のマウスドライバのインストールが必要です。マウスドライバは、工場出荷時にあらかじめインストールされています。(Windows NT4.0インストールモデルを除く。)

マウスの操作



制限

アプリケーションソフトによっては、ホイールボタンが使用できない場合があります。



マウスの基本的な操作は、次のとおりです。

- クリック : マウスカーソルを画面上の対象に合わせてボタンを1回カチッと押します。
- ダブルクリック : マウスカーソルを画面上の対象に合わせてボタンを2回続けてカチカチッと押します。
- ドラッグアンドドロップ : マウスカーソルを画面上の対象に合わせて左ボタンを押したままの状態をマウスを移動し、離します。
- スクロール : ホイールボタンを指先で回転させます。縦スクロール操作を行うことができます。

マウスの設定変更

マウスボタンの設定や使用環境を変更するときは、コントロールパネルから「マウスのプロパティ」を開いて、設定変更します。詳しくは、オンラインヘルプをご覧ください。



制限

アクティブデスクトップのとき、「マウスのプロパティ」で「簡略化」タブの「ウィンドウ選択」と「スマートスピード」項目が設定できません。デスクトップ上でマウスの右ボタンをクリックし、「アクティブデスクトップ」-「Webページで表示」のチェックを外すと、設定できるようになります。

フロッピーディスクドライブ(FDD)を使う

FDDは、FDにデータを書き込んだり、FDからデータを読み出したりする装置です。FDには、記憶できる容量の違いによって2HD、2DDの種類があります。内蔵FDDでは、次のどちらのFDも使用できます。

3.5型2HD : 1.44MBまたは1.2MBの記憶容量のメディアとして使用できます。

3.5型2DD : 720KBの記憶容量のメディアとして使用できます。

メディアの種類にあったフォーマットを行わないと、データの読み書きエラーが発生します。



制限

FDは消耗品です。読み書きを繰り返すことで、磁性面が摩耗して読み取りエラーや書き込みエラーが発生する原因になります。このような場合には新しいFDと交換してください。



参考

1.2 MBフォーマットのFDを読み書きするためには、「3モードFDDドライバ」をインストールする必要があります。本機を購入時には、「3モードFDDドライバ」はあらかじめインストールされています。

 p.103,113「3モードFDDドライバのインストール」

FDのセットと取り出し

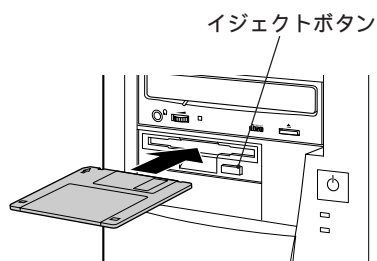


制限

アクセスランプ点灯中にFDを取り出したり、リセットしないでください。
電源スイッチをオフにする場合は、必ずFDを取り出してください。

セット方法

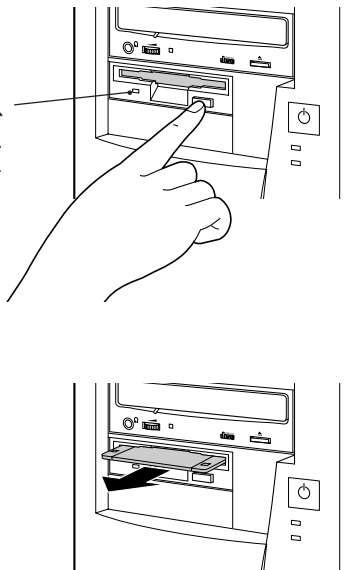
- 1 ラベル面を上にして、アクセスカバー側からFDDに「カチッ」と音がするまで押し込みます。
- 2 正しくセットされると、イジェクトボタンが飛び出します。



取り出し方法

- 1 FDDアクセスランプが点灯していないことを確認し、イジェクトボタンを押します。
- 2 FDが飛び出しますので、静かに引き抜きます。

FDDアクセス
ランプが消え
ていることを
確認



FDのフォーマット

フォーマットとは、FD上にデータを書き込むための領域を作成することで、初期化ともいいます。新しいFDを使用する場合や登録されているデータをすべて消去する場合にフォーマットします。



制限

FDをフォーマットすると、登録されているデータはすべて消失します。フォーマットする前に、重要なデータが登録されていないことを確認してください。

本機には1.2MBフォーマット用のユーティリティは添付されていません。

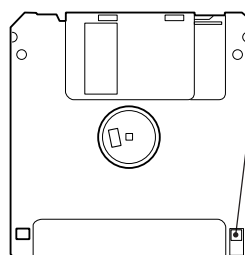
データのバックアップ

大切なデータは別のFDに登録して予備を作成(バックアップ)しておきます。万一データを消失してしまった場合でも、予備のディスクからデータを複写して使用できるので安心です。

ライトプロテクト(書き込み禁止)

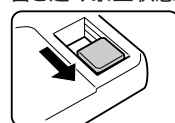
ライトプロテクトは、FDにデータを書き込めなくすることです。ライトプロテクトをしたFDには、データの書き込み、削除、フォーマットができなくなります。重要なデータを登録したFDはライトプロテクトをしておくで安心です。

FD裏面のライトプロテクトタブを、窓が開いている状態に動かすと書き込み禁止状態になります。窓を閉じる方向にタブを動かすと、データを書き込むことができます。



ライトプロテクトタブ

書き込み禁止状態



1.2MB FDを使用する

本機には、あらかじめ専用の3モードFDDドライバがインストールされており、1.2MBフォーマットのFDを使用することができます。

1.2MBフォーマットは、EPSON PCシリーズや日本電気(株)製PC-9801シリーズのコンピュータで標準的に使用されていたフォーマットです。

3モードFDDドライバの再インストールが必要になった場合は、「ソフトウェアの再インストール」をご覧ください。

3モードFDD ドライバ

- 1.2MBフォーマットのFDは1.44MBフォーマットのFDと同様にAドライブで使用することができます。
- 3モードFDDドライバは1.2MBのFDの読み書きのみをサポートします。1.2MBのフォーマットやディスクコピーなどは行えません。
- 512バイト/セクタでフォーマットされた1.2MBフォーマットのFDの読み書きは行えません。これは日本語MS-DOSのFORMATコマンドで/Eオプション(EQUITYフォーマット)でフォーマットされたディスクです。
- 1.2MBのフォーマットのFDで提供されているアプリケーションソフトをインストールすることはできません。

ハードディスクドライブ(HDD)を使う

本機には、HDDが内蔵されています。HDDは、大容量のデータを高速に記録する記憶装置です。FDに比べて、多くの情報を記録でき、データの読み書きが速いのが特長です。



制限

誤った操作で重要なデータを破壊しないように次の点に注意してください。

- ① HDDを分解しないでください。
- ② HDDアクセスランプ点灯中に、電源スイッチをオフにしたり、リセットしないでください。アクセスランプ点灯中は、コンピュータがHDDに対してデータの読み書きを行っています。この処理を中断すると、HDD内部のデータが破壊されるおそれがあります。

HDDが故障した場合、HDDのデータを修復することはできませんので注意してください。

HDDのバックアップ

HDDの重要なデータは、別のメディアに予備を作成(バックアップ)しておきます。万一HDDの故障などでデータが消失してしまった場合でも、バックアップを取ってあれば、被害を最低限に抑えることができます。

バックアップには、次のような方法があります。

重要なファイルを作成したら、必ずFDなど別のメディアにも登録しておく。
専用のバックアップソフトウェアを使用して複数のファイルを一度にバックアップする。



参考

バックアップのためのソフトウェア

Windowsにはバックアップソフトウェアが添付されています。

Windows 98 : 「アクセサリ」-「システムツール」-「バックアップ」

Windows NT : 「管理ツール」の「バックアップ」(テープドライブのみ)

HDDのフォーマット

HDDを最初に使用する場合にはフォーマットが必要です。また、登録されているデータをすべて消去する場合にもフォーマットします。購入時に装着されている内蔵HDDにはソフトウェアがあらかじめインストールされていますので、フォーマットの必要はありません。

 p.98「基本MS-DOS領域のフォーマット」

 p.143「MS-DOS領域のフォーマット」



制限

すでにデータが登録されているHDDをフォーマットすると、そのHDDに登録されていたすべてのデータが消失します。フォーマットする前に、重要なデータが登録されていないことを確認してください。



参考

購入時のHDD領域について

本機に、2GBを超える容量のHDDが接続されている場合は、WindowsNT4.0では先頭の2GBに基本MS-DOS領域(Cドライブ)を作成し、Windowsをインストールしてあります。購入時のHDDの領域は、次のように設定されています。

Windows98インストールモデル

すべての領域 :FAT32

WindowsNT4.0インストールモデル

先頭の2GB :FAT16

残り :未設定

HDDからの起動

本機は通常、IDE HDDから起動するように設定されています。起動HDDの順番は、BIOS Setupプログラムの「Bootメニュー画面」で設定します。IDE HDDとSCSI HDDの両方を装着している場合や、SCSI HDDだけを装着している場合は、起動するドライブの優先順位の設定を必要に応じて変更してください。

 p.89「Bootメニュー画面」

SCSI HDDだけが装着されている場合に、SCSI HDDからシステムを起動するには、SCSI BIOSが搭載されたSCSIカードが必要です。また起動するHDDを設定する必要があります。設定方法はSCSIカードの種類によって異なります。詳しくはSCSIカードのマニュアルをご覧ください。

CD-ROMドライブを使う

CD-ROMドライブは、データの入ったデータCDのほかに、音楽CD、ビデオCDやフォトCDなどを使用するための装置です。これらのCD-ROMの中には、別途専用ソフトウェアが必要なものもあります。

CD-ROMのセットと取り出し



CD-ROMアクセスランプ点灯中にCD-ROMを取り出したり、リセットしないでください。

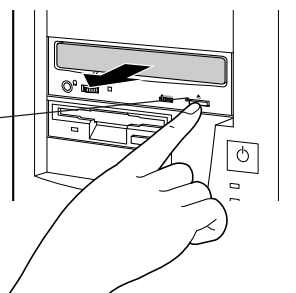
セット方法

機種によりCD-ROMドライブの形状が異なりますが、基本的な操作は同じです。

1

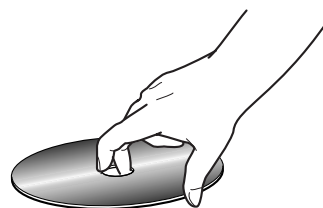
イジェクトボタンを押して、
ディスクトレイを開きます。

イジェクトボタン



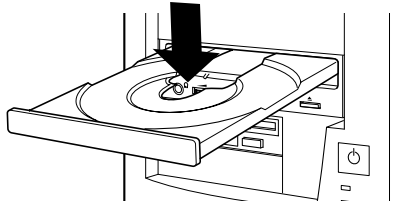
2

印刷面を上にしてCD-ROMを
ディスクトレイのくぼみに上に
載せます。



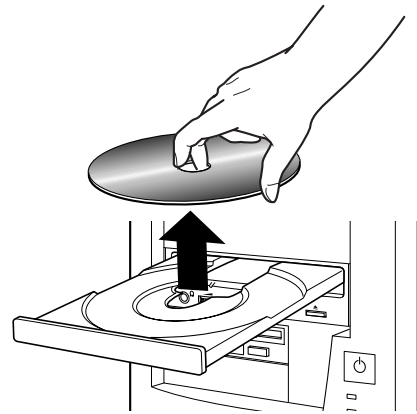
3

イジェクトボタンを押して、
ディスクトレイを閉じます。



取り出し方法

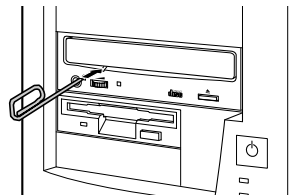
- 1 CD-ROMアクセスランプが点灯していないことを確認し、イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを開きます。
- 2 CD-ROMをディスクトレイから取り出します。
- 3 イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを閉じます。



強制的なCD-ROMの取り出し

CD-ROMドライブが故障して、CD-ROMが取り出せなくなった場合には強制的にディスクトレイを引き出すことができます。

- 1 コンピュータの電源スイッチを切ります。
- 2 イジェクトホールに丈夫な先の細いもの(ゼムクリップを引きのばしたようなもの)を差し込みます。
機種によりイジェクトホールの位置が異なります。



- 3 ディスクトレイが少し飛び出します。そのまま手でまっすぐ引き出します。

光磁気ディスクドライブを使う

(光磁気ディスクドライブ搭載モデルのみ)

光磁気ディスクドライブ(以降、MOドライブと記載します)は、3.5インチ光磁気ディスク(以降、MOと記載します)の読み書きを行う装置です。

MOはFDのように携帯性にも優れており、画像ファイルなど大容量データやプログラムの登録、HDDのバックアップなどに利用します。

MOのセットと取り出し

機種によりMOドライブの位置や形状が異なりますが、基本的な操作は同じです。

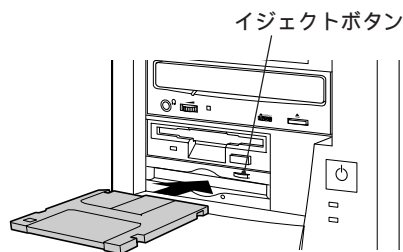


イジェクトランプ(アクセスランプ)点灯中にMOを取り出したり、リセットしないでください。

電源スイッチをオフにする場合は、必ずMOを取り出してください。

セット方法

- 1 MOの文字が印刷されているシャッタ面を上にして、MOドライブに「カチッ」と音がするまで静かに押し込みます。

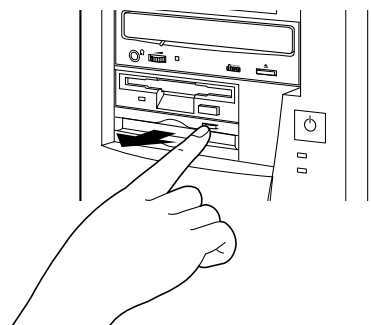


- 2 イジェクトランプが点滅し、消灯すればMOのセットは完了です。

取り出し方法

- 1 イジェクトランプが点灯していないことを確認し、イジェクトボタンを押します。

- 2 MOが少し飛び出しますので、まっすぐに引き抜きます。

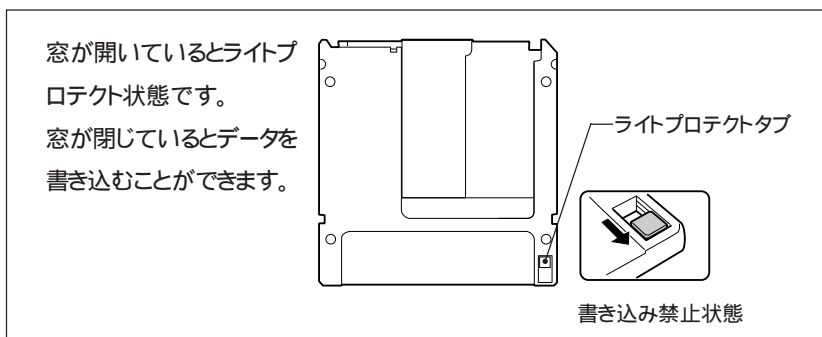


MOのフォーマット

フォーマットとは、MO上にデータを書き込むための領域を作成することで、初期化ともいいます。新しいMOを使用する場合や登録されているデータをすべて消去する場合にフォーマットします。MOをフォーマットすると、登録されているデータはすべて消失します。フォーマットする前に、重要なデータが登録されていないことを確認してください。

ライトプロテクト（書き込み禁止）

ライトプロテクトは、MOにデータを書き込めなくすることです。ライトプロテクトしたMOには、データの書き込み、削除、フォーマットができなくなります。重要なデータを登録したMOはライトプロテクトしておくで安心です。ライトプロテクトするには、MO裏面のライトプロテクトタブを操作します。



強制的なMOの取り出し

以下のような場合には、強制的にMOを取り出します。

MOドライブが故障して、MOが取り出せないとき。

MOを挿入したまま、コンピュータの電源スイッチをオフにしてしまった場合。

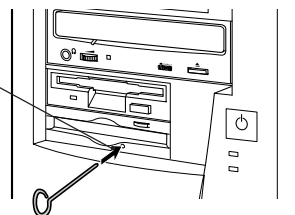


イジェクトピンは、小さなお子様の手の届くところには保管しないでください。目をついたり、口に入れたりして、けがをする危険があります。

- 1 コンピュータの電源スイッチをオフにし、約10秒程度待ちます。
これはMOドライブのモータが停止するのを待つためです。

- 2 添付されているイジェクトピンをイジェクトホールにまっすぐ押し込みます。
機種によりイジェクトホールの位置が異なります。

イジェクトホール



内部のロックが外れ、MOが少し飛び出します。

- 3 MOをそのまま、まっすぐに引き抜きます。


解像度や表示色を変更する

本機の画面の解像度や表示色数の変更は、次の手順で行います。画面に表示されるタブ、機能および本機で表示可能な解像度と表示色数などは、お使いになるビデオカードにより異なります。お使いになるビデオカードの仕様をご確認の上、設定変更を行ってください。詳しくは、ビデオカードに添付されているマニュアルをご覧ください。また、Windowsのヘルプも合わせて参照してください。



参考

Safeモードでの起動

接続されているディスプレイと異なったディスプレイを選択すると、ディスプレイによっては、Windowsが再起動したときに画面が乱れる、何も表示されないなどの現象が起こることがあります。このような場合は、Safeモード(Windows98)またはVGAモード(WindowsNT4.0)で起動して再設定を行ってください。  p.119「ディスプレイの不具合」

Windows98の場合

解像度や表示色
を変更するには

- 1 「コントロールパネル」の[画面]アイコンをダブルクリックします。
- 2 「設定」タブをクリックします。
- 3 「画面の領域」の「色」の項目を設定したい内容に変更します。

表示色を
設定します。



解像度を
設定します。

- 4 項目を変更したら、[OK]をクリックし、画面のメッセージにしたがって操作します。

ディスプレイの 設定

ディスプレイの設定が正しくないと、解像度を変更することができません。「画面」-「設定」タブ-「詳細」-「モニタ」タブで、接続されているディスプレイの設定を行ってください。

Windows NT 4.0 の場合

解像度や表示色
を変更するには

- 1 「コントロールパネル」の[画面]アイコンをダブルクリックします。
- 2 「ディスプレイの設定」タブをクリックします。
- 3 「デスクトップ領域」、「カラーパレット」などの項目を設定したい内容に変更します。



- 4 項目を変更したら、[テスト]をクリックし、画面のメッセージにしたがって操作します。

その他の機能

パラレルコネクタの設定

本機背面のパラレルコネクタには、プリンタなどを接続します。そのほか接続できるものについては、各周辺装置に添付のマニュアルをご覧ください。

パラレルポート の設定

パラレルコネクタは、コンピュータ内部のパラレルポートに接続されているコネクタです。本機ではパラレルポートの機能や使用するアドレスを変更することができます。通常はパラレルポートの設定を変更する必要はありません。使用する周辺装置で指定がある場合には、BIOS Setupユーティリティで変更してください。

 p.92「Advancedメニュー画面」の「I/O Device Configurationサブメニュー画面」

シリアルコネクタの設定

本機背面には、シリアルコネクタが2個用意されています。どちらのシリアルコネクタも同じ機能ですので、どちらを使用してもかまいません。ただしOSやアプリケーションソフトなどではCOM1、COM2などのデバイス名で区別されています。

シリアルポート の設定

シリアルコネクタは、コンピュータ内部のシリアルポートに接続されているコネクタです。本機ではシリアルポートで使用するアドレスや割り込み信号を変更することができます。通常はシリアルポートの設定を変更する必要はありません。使用する周辺装置で指定がある場合には、BIOS Setupユーティリティで変更してください。

 p.92「Advancedメニュー画面」の「I/O Device Configurationサブメニュー画面」

USBコネクタの設定

本機背面には、USBコネクタが2個用意されています。どちらのコネクタも同じ機能ですので、どちらを使用してもかまいません。USBコネクタを使用する場合は、接続する周辺装置に添付されているデバイスドライバが必要な場合や、BIOS Setupユーティリティの設定変更が必要な場合があります。詳しくは、接続する周辺装置のマニュアルをご覧ください。



このコネクタは、Windows NT4.0インストールモデルでは使用できません。

コンピュータウィルスの検索・駆除

本機には、コンピュータウィルスを検出し、駆除するためのソフトウェア「VirusScan for Windows」が添付されています。新しいコンピュータウィルスに対応するために、ウィルス情報のデータファイルの定期的な更新をおすすめします。詳しくは、VirusScanオンラインヘルプまたは『VirusScan for Windows ユーザーズガイド』をご覧ください。『VirusScan for Windows ユーザーズガイド』は添付のユーティリティCDに登録されています。

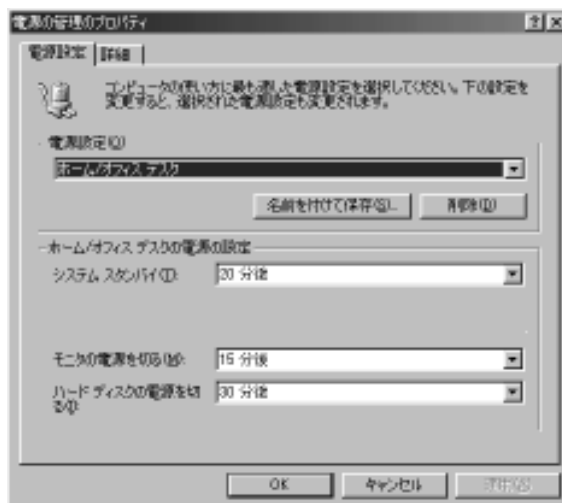
パワーマネージメント機能



WindowsNT4.0ではパワーマネージメント機能は使用できません。

Windows98で、パワーマネージメント機能を使用すると、コンピュータを使用していない間、モニタの電源を切ったり、スタンバイモードに設定して消費電力を抑えることができます。

パワーマネージメント機能は、「コントロールパネル」-「電源の管理のプロパティ」で行います。Windowsでの設定がBIOS Setupユーティリティの設定より優先されます。



スタンバイモード
からの復帰方法

本機がスタンバイモードから復帰する方法は、次のとおりです。

- ① キーボードのスペースキーを押します。
- ② 電源スイッチを押します(電源ランプ点滅時)。

システムの拡張


コンピュータに内蔵オプション装置を装着して機能を拡張する方法を説明します。

拡張できる装置

本機には、次の各部に装置を増設・交換して機能を拡張することができます。


3.5型ドライブベイ

3.5型サイズの装置(FDDやMOドライブなど)を2基装着することができます。FDDなどが装着済みのため、実際に使用可能なドライブの数はシステムの構成により異なります。

 p.59「3.5型ドライブベイへの装着」


5.25型ドライブベイ

5.25型サイズの装置(CD-ROMドライブなど)を3基装着することができます。CD-ROMドライブなどが装着済みのため、実際に使用可能なドライブの数はシステムの構成により異なります。

 p.63「5.25型ドライブベイへの装着」


HDDベイ(本体背面側)

3.5型HDDを増設するためのベイです。このベイには2基のHDDを装着することができます。

 p.66「HDDベイへの装着」


DIMMソケット

本機にはDIMMソケットが4本用意されており、内蔵メモリを1GBまで拡張することができます。

 p.52「DIMMの増設」


拡張スロット

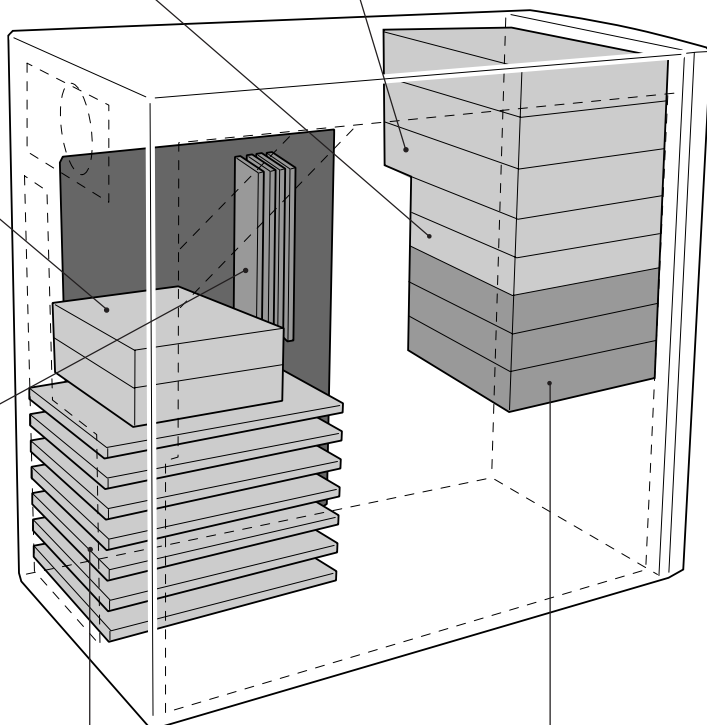
AGP、PCIまたはISA仕様の拡張カードが装着できます。工場出荷時に、いくつかの拡張カードが装着済みのため、実際に使用可能なスロットの数はシステムの構成により異なります。

 p.56「拡張カードの装着」

HDDベイ(本体正面側)

3.5型HDDを装着するためのベイです。このベイには3基のHDDを装着することができます。

 p.66「HDDベイへの装着」



作業時の注意

コンピュータ内部に装置を装着する場合は、必ず以下の点を確認してから作業を始めてください。



電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。
感電・火傷の原因となります。
マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。
けがや感電・火災の原因となります。



本機は電源スイッチをオフにしても、コンピュータ内部に微少な電流が流れています。必ず電源コンセントから電源プラグを外してください。



取り付ける装置に添付されているマニュアルを必ず参照してください。

コンピュータおよび接続している周辺機器の電源スイッチをオフにしてください。

作業直前までコンピュータを使用していた場合は、コンピュータ内部が高温になっています。内部が冷えるまで約10分以上お待ちください。

コンピュータ背面に接続されているケーブルをすべて外してください。

装置を装着するときは、裏表や前後を間違えないでください。間違えて装着すると故障の原因になります。本書や各装置に添付のマニュアルの指示にしたがって、正しく装着してください。

コンピュータ内部のケースや基盤には突起があります。装着作業の際には、けがをしないよう注意してください。

本体カバーの装着と外し方

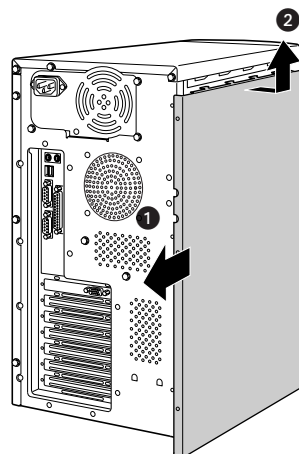
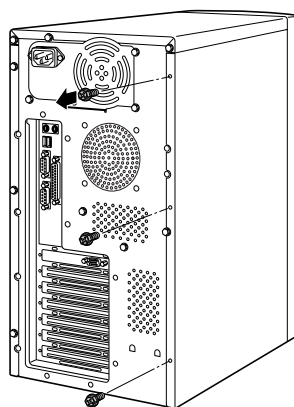


電源コンセントに電源プラグを接続したまま分解しないでください。
感電・火傷の原因となります。

本体カバーの外し方

本機の内部に装置を装着する場合は、本体のカバーを外す必要があります。
本体カバーは次の手順で外します。

- 1 コンピュータの電源を切ります。
作業直前までコンピュータが動作していた場合は、コンピュータの内部が冷えるまで10分以上放置してください。
- 2 電源コード、キーボード、ケーブルなど
コンピュータに接続されているケーブル類をすべて外します。
- 3 右側(本体背面から見て)のネジ(3本)を外します。
- 4 右側の本体カバーを外します。
 - ① 本体カバーを本体背面側に引きま
す。
 - ② 本体カバーを上に取り上げます。
- 5 必要に応じて本体左側の本体カバーを外
します。
DIMMや拡張カードを取り付ける場合は、左側
の本体カバーを外す必要はありません。

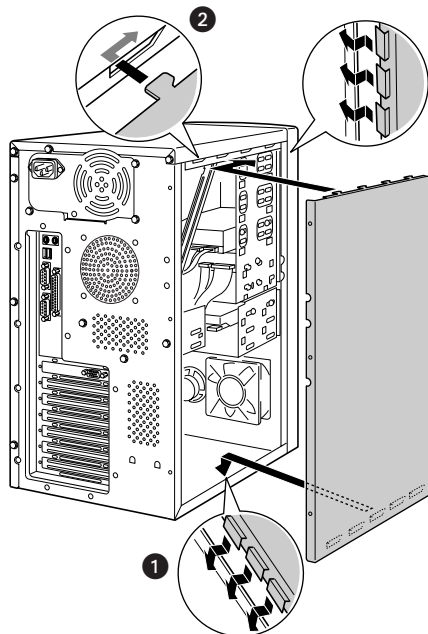


本体カバーの装着

外した本体カバーを取り付けます。

1 本体カバーをコンピュータにはめ込みます。

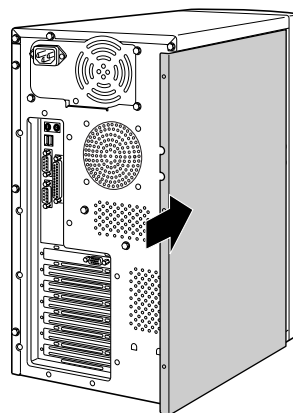
- ① 本体カバーの下側のつめをコンピュータ下側のへりにはめ込みます。
- ② 本体カバーの上側の突起をコンピュータ上側の切り欠きにはめ込みます。



2 本体カバーを本体正面側にスライドします。

3 ネジ(3本)で固定します。

4 本体カバーを取り付けたら、外したケーブル類をもとどおり接続します。

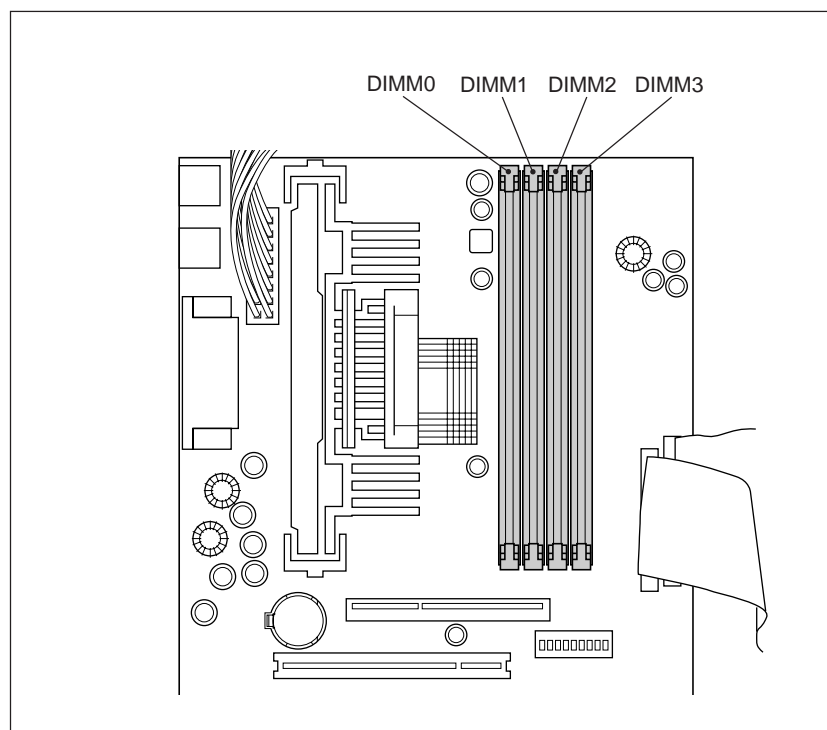


DIMMの増設

本機で、使用可能なDIMM(メモリ)の仕様とDIMMの取り付け方法について説明します。

DIMMの仕様

本機には、4本のDIMMソケットが用意されており、1枚ずつ増設が可能です。DIMM0ソケットから順番に取り付けます。DIMMを増やすことにより最大1GBまで拡張可能です。DIMM0ソケットにはあらかじめDIMMが取り付けられています(購入時の仕様により、他のDIMMソケットにも取り付けられている場合があります)。



本機で使用しているDIMMの仕様は次のとおりです。

168ピンDIMM(Dual Inline Memory Module)

3.3V SDRAM (Unbufferd SynchronousDRAM)

メモリ容量 32MB、64MB、128MB、256MB(販売予定)

上記仕様と一致するDIMMを、当社のオプション品から選択してください。

DIMMの取り付け



DIMMの取り付け作業をする場合は、必要に応じて本体を横置きにしても構いません。

1

本体カバーを外します。



p.50「本体カバーの外し方」

2

取り付け作業の妨げになる拡張カードを外します。

HDDベイが、作業の妨げになる場合は、必要に応じて外します。

3

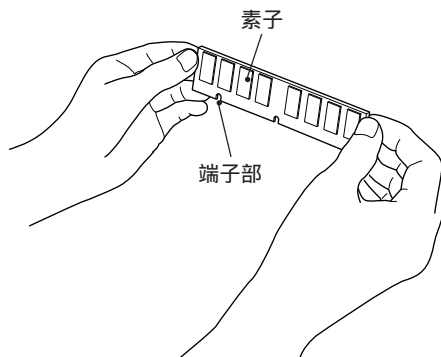
DIMMソケットの固定プラグを開きます。



固定プラグ

4

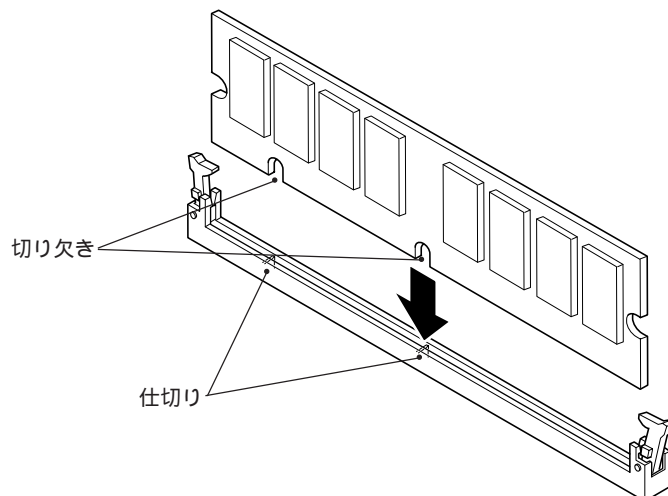
DIMMを静電防止袋から取り出します。DIMMの端子部や素子に触れないように注意します。



5

DIMMソケットにDIMMを差し込みます。

- ① DIMMには切り欠きが2つあり、これをDIMMソケット内の仕切りに合わせます。
- ② さらに押し込むと、固定プラグが閉じて、DIMMが固定されます。



6

取り外した拡張カードやHDDベイを取り付けます。

7

本体カバーを取り付けます。

 p.51「本体カバーの装着」

8

コンピュータを使用できるように、取り外したケーブル類を接続します。

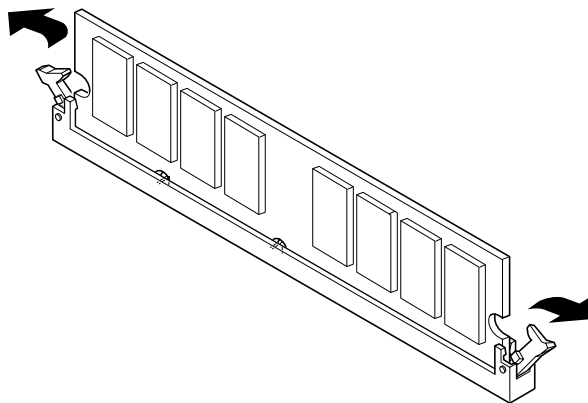
9

電源を入れて、起動時に表示される総メモリ容量を確認します。

装着したDIMMの容量だけメモリ容量が増えていればDIMMは正しく取り付けられています。増えていない場合は、正しく取り付けられていないことが考えられます。すぐに電源を切り、正しく取り付け直してください。

DIMMの外し方

DIMMの両端を固定している固定プラグを開きます。
取り外したDIMMは静電防止袋に入れて保管してください。



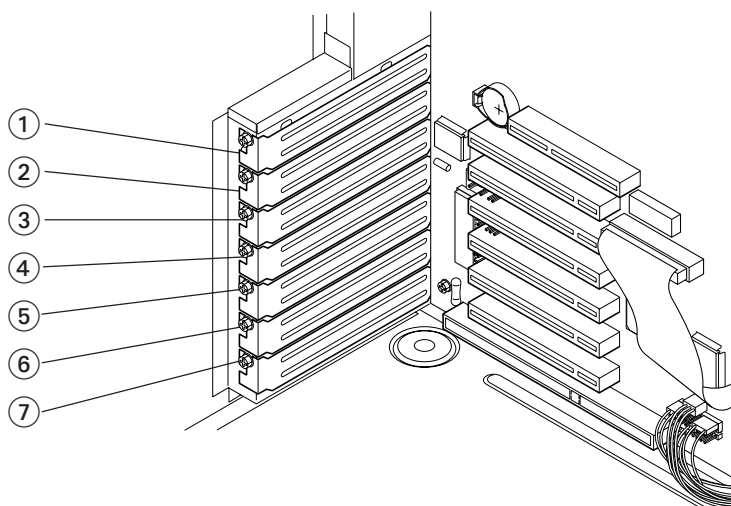
拡張カードの装着

拡張スロットの仕様と拡張カードを取り付ける方法について説明します。

拡張スロットの仕様

拡張カードには、AGPコネクタ、PCIコネクタおよびISAコネクタに接続する拡張カードがあります。


本機には7つの拡張スロットがあり、各スロットの仕様は次のとおりです。



スロット番号	コネクタ仕様	拡張カードサイズ
①	AGP	ハーフサイズ(175mm)
②	PCI	フルサイズ(312mm)
③	PCI	フルサイズ(312mm)
④	PCI	フルサイズ(312mm)
⑤	PCI	フルサイズ(312mm)
⑥	PCI	フルサイズ(312mm)
⑦	PCI/ISA	PCI:165mm, ISA:338mm

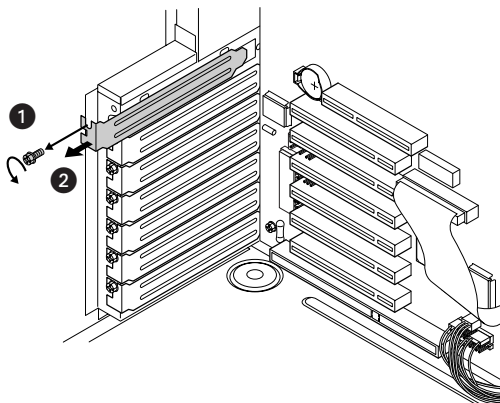
拡張カードの装着

拡張カードを装着する前に、必ず拡張カードに添付のマニュアルをご覧ください。
拡張カードによっては、コンピュータ内部のコネクタとの接続が必要な場合があります。

- 1 右側(本体背面から見て)の本体カバーを外します。
 p.50「本体カバーの外し方」

- 2 拡張カードを装着するスロットのスロットカバーを外します。

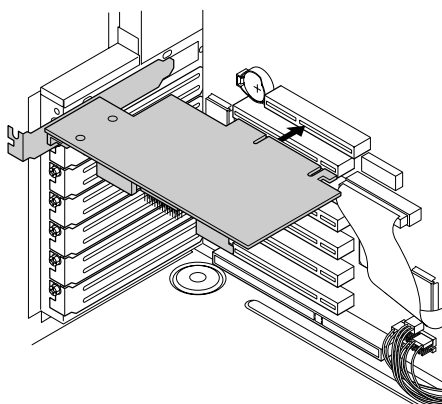
- ① スロットカバーを固定しているネジを外します。
- ② スロットカバーを手前に引き抜きます。



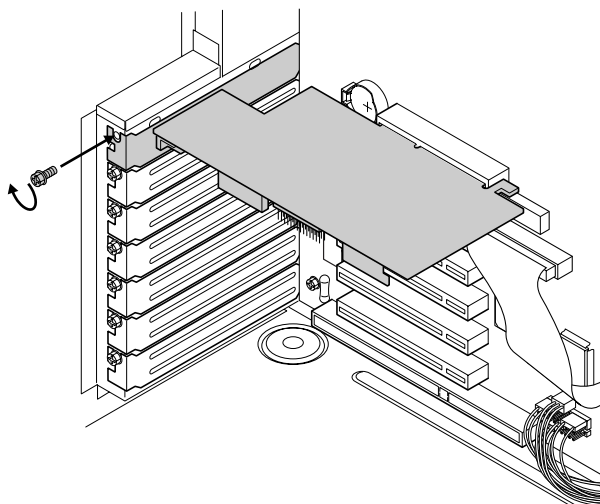
外したスロットカバーは大切に保管してください。拡張カードを外したときには、本体内部にほこりなどが入らないように再び装着してください。

- 3 拡張カードの端子部を、コネクタに軽く触れる程度に差し込みます。コネクタに無理がかかっていないことを確認してゆっくり押し込みます。

コンピュータを立てた状態で、拡張カードを取り付けにくい場合には、コンピュータを横にしてもかまいません。



- 4 拡張カードをネジで固定します。



- 5 本体カバーを装着します。
☞ p.51「本体カバーの装着」

取り外し

- 1 拡張カードを固定しているネジを外し、拡張カードを引き抜きます。
- 2 拡張カードを取り外したスロットに、別の拡張カードを装着しない時は、スロットカバーを取り付けておきます。

参考


拡張カードのリソース

ISAバス用拡張カードで、プラグアンドプレイ(PnP)に対応していない拡張カードを使用する場合にはBIOS Setupユーティリティで使用する割り込み(IRQ)や、DMAチャンネルを設定しなければ正常に動作しない場合があります。

☞ p.87「Advancedメニュー画面」の「PCI Configurationサブメニュー画面」
Windows NT 4.0インストールモデルをお使いの場合、拡張カードの資源(割り込み、DMAチャンネルなど)の確認をするためには、ICU(ISAコンフィグレーションユーティリティ)が必要です。ICUの実行方法については、付録の「使用中の資源(割り込み、DMAなど)を確認する」をご覧ください。

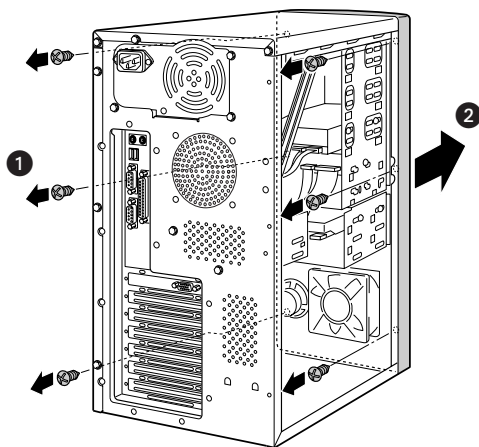
3.5 型ドライブベイへの装着

- 1 あらかじめ装着する装置に添付のマニュアルを読んで、装置に対して必要な作業(ジャンプスイッチやディップスイッチの設定など)を行います。
p.69「ドライブ装置の装着」も合わせてご覧ください。

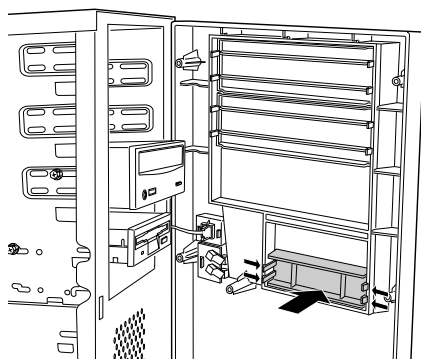
- 2 左右両側の本体カバーを外します。
 p.50「本体カバーの外し方」

- 3 前面パネルを外します。
前面パネルは、電源スイッチの裏側に、ケーブルが取り付けられているため、コンピュータ本体から完全には離れません。前面パネルを外す時は、ケーブルを引っ張らないように注意してください。

- ① 前面パネルを固定しているネジ(6本)を外します。
- ② 前面パネルを前方に引きます。

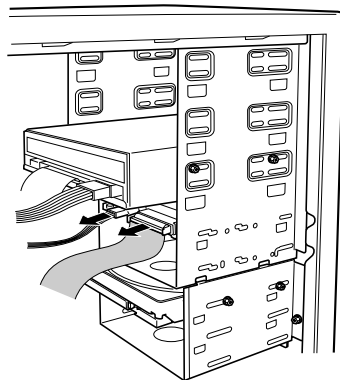


- 4 前面パネルから装置を装着する位置のフェイスプレートを外します。
前面パネルの裏側からフェイスプレートの両側のノッチを内側に押しながら、前面側に押し出します。

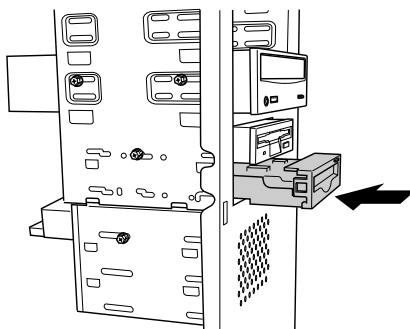


外したフェイスプレートは大切に保管してください。装着した装置を外した場合には、本体内部にほこりなどが入らないように再び装着してください。

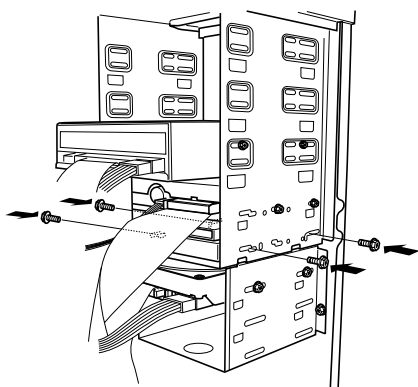
- 5 装置に接続されているケーブル類をすべて外します。




- 6 3.5 型ドライブベイに装置を差し込みます。装着する装置のネジ穴が、ドライブキャリアのネジ用の穴に一致するようにします。
3.5型ドライブベイには、2台のドライブを取り付けることができます。
上段には、3.5型FDDが取り付けられています。



- 7 側面からネジで固定します。



3.5型ドライブベイに取り付けた装置が、しっかりとネジで固定されていることを確認します。

- 8 あらかじめ接続されていた3.5型FDDなどのケーブル類と、あらたに装着した装置のケーブル類を接続します。
- 9 前面パネルを装着します。
前面パネルをネジ(6本)で固定します。
- 10 本体カバーを装着します。
 p.51「本体カバーの装着」

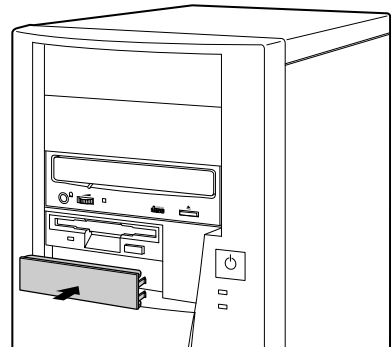
ドライブ装置の
取り外し

- 1 ドライブ装置に接続されているケーブル類を外します。
- 2 ドライブ装置を固定しているネジを外し、ドライブ装置を本体正面側または背面側から引き抜きます。

フェイスプレートの 取り付け


ドライブ装置を取り外した後、何も取り付けない場合やフェイスプレートを外しておく必要がない場合は、コンピュータ内部にほこりが入らないようにフェイスプレートを取り付けてください。

フェイスプレートは本体正面から、ノッチを内側に押さえるようにしてはめ込みます。
内側から、フェイスプレートのノッチが確実にはめ込まれていることを確認します。

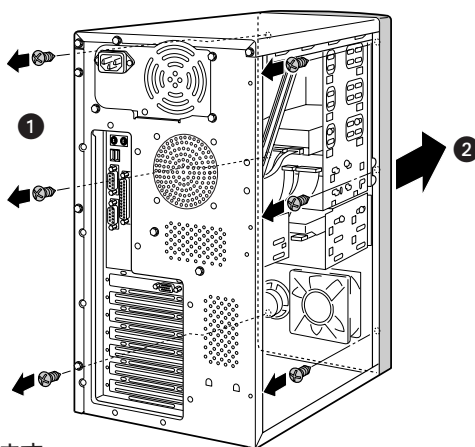


5.25型ドライブベイへの装着

- 1 あらかじめ装着する装置に添付のマニュアルを読んで、装置に対して必要な作業(ジャンプスイッチやディップスイッチの設定など)を行います。
p.69「ドライブ装置の装着」も合わせてご覧ください。

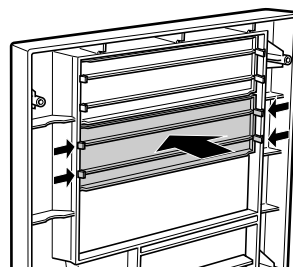
- 2 左右両側の本体カバーを外します。
 p.50「本体カバーの外し方」

- 3 前面パネルを外します。
前面パネルは、電源スイッチの裏側に、ケーブルが取り付けられているため、コンピュータ本体から完全には離れません。前面パネルを外す時は、ケーブルを引っ張らないように注意してください。



- ① 前面パネルを固定しているネジ(6本)を外します。
② 前面パネルを前方に引きます。

- 4 前面パネルから装置を装着する位置のフェイスプレートを外します。
前面パネルの裏側からフェイスプレートの両側のノッチを内側に押しながら、前面側に押し出します。



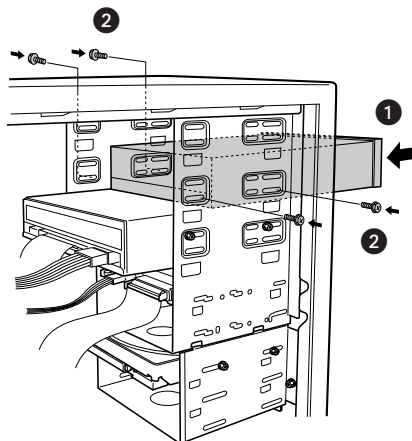
外したフェイスプレートは大切に保管してください。装着した装置を外した場合には、本体内部にほこりなどが入らないように再び装着してください。



5 ドライブベイに装置を取り付けます。

① 正面側から装置をドライブベイに静かに押し込みます。

② 側面からネジで固定します。



6 ケーブル類を接続します。

7 前面パネルを装着します。

8 本体カバーを装着します

 p.51「本体カバーの装着」

ドライブ装置の
取り外し

1

ドライブ装置に接続されているケーブル類を外します。

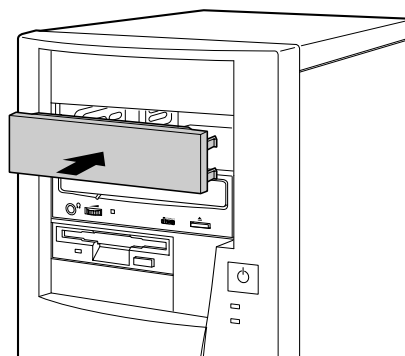
2

ドライブ装置を固定しているネジを外し、ドライブ装置を本体正面側から引き抜きます。

フェイスプレートの取り付け

ドライブ装置を取り外した後、何も取り付けない場合やフェイスプレートを外しておく必要がない場合は、コンピュータ内部にほこりが入らないようにフェイスプレートを取り付けてください。


フェイスプレートは本体正面から、ノッチを内側に押さえるようにしてはめ込みます。
内側から、フェイスプレートのノッチが確実にはめ込まれていることを確認します。



HDDベイへの装着

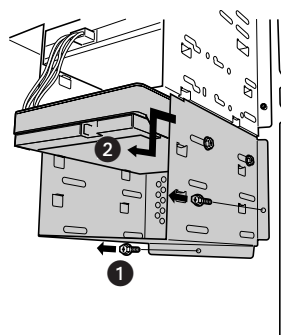
本体正面側HDDベイへの装着

- 1 あらかじめ装着するHDDに添付のマニュアルを読んで、必要に応じて、ジャンパススイッチやディップスイッチの設定などを行います。
p. 69「ドライブ装置の装着」も合わせてご覧ください。

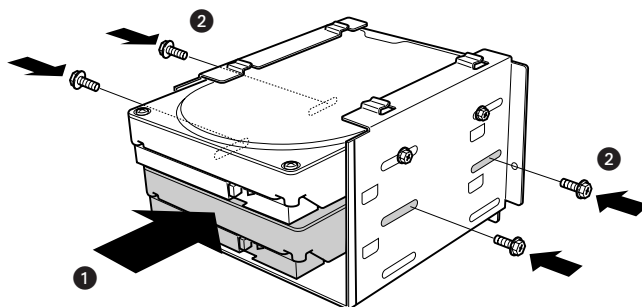
- 2 本体カバーを取り外します。
 p. 50「本体カバーの外し方」

- 3 ドライブキャリアに装着されているドライブ装置のケーブル類をすべて外します。通常はHDDが1台装着されています。

- 4 ドライブキャリアを取り外します。
- ① 固定しているネジ(2本)を外します。
 - ② ドライブキャリアを後ろにずらして外します。落下させないように必ず手を添えます。

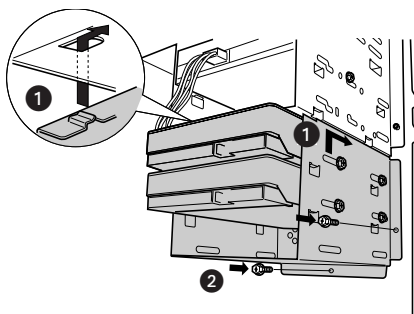


- 5 ドライブキャリアにドライブ装置を取り付けます。
- ① ドライブキャリアにドライブ装置を差し込みます。ドライブ装置のネジ穴と、ドライブキャリアのネジ穴を一致させます。
2段目と3段目に装着するHDDのネジ穴は、1番上のベイに装着されているHDDのネジ位置より、やや正面寄りの位置になります。
 - ② 側面からネジで固定します。



6 ドライブキャリアを取り付けます。

- ① ドライブキャリアのフックを、3.5型ドライブベイのフック穴に合わせ、前面側にずらしてはめ込みます。
- ② ドライブキャリアをネジ(2本)で固定します。



7 ドライブ装置にインタフェースケーブルや電源ケーブルを接続します。

8 本体カバーを取り付けます。

 p.51「本体カバーの装着」

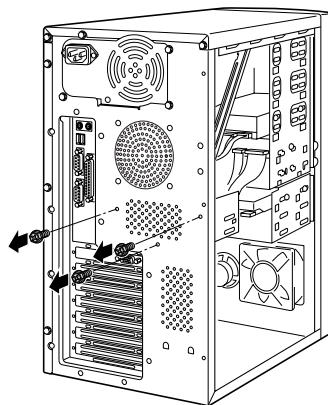
本体背面側HDDベイへの装着

- 1 あらかじめ装着するHDDに添付のマニュアルを読んで、必要に応じて、ジャンプスイッチやディップスイッチの設定などを行います。
p.69「ドライブ装置の装着」も合わせてご覧ください。

- 2 右側(本体背面から見て)の本体カバーを外します。

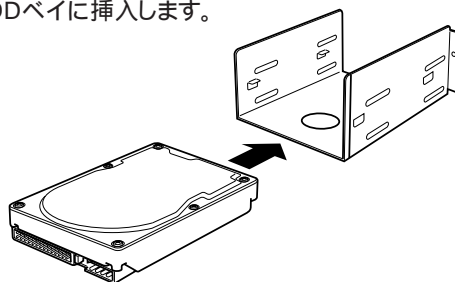
 p.50「本体カバーの外し方」

- 3 HDDベイを外します。
本体背面からHDDベイを固定しているネジ(3本)を外します。HDDベイを落下させないように手を添えます。

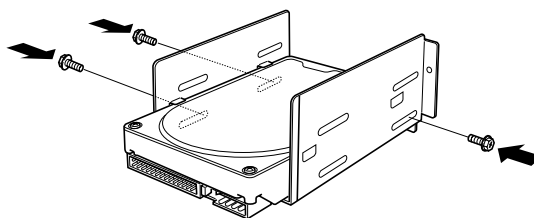


4 HDDベイにHDDを取り付けます。

- ① HDDをHDDベイに挿入します。

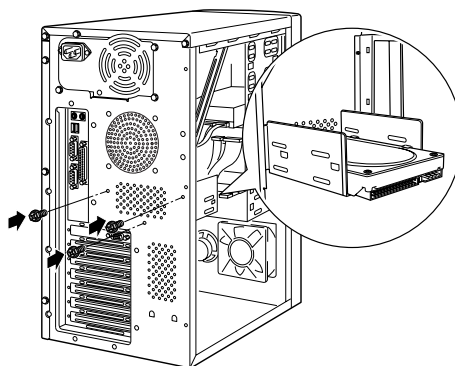


- ② HDDとHDDベイのネジ穴を合わせ、側面からネジ(3本)で固定します。



5 HDDベイをコンピュータに装着します。

HDDベイをコンピュータの次の位置にネジ(3本)で固定します。



6 HDDのケーブルを接続します。

 p.69「ドライブ装置の装着」

7 本体カバーを装着します。

 p.51「本体カバーの装着」

ドライブ装置の装着

ドライブ装置の種類

コンピュータ内部に取り付けるドライブ装置には、IDE仕様のドライブ装置(以降、IDE装置と記載します)とSCSI仕様のドライブ装置(以降、SCSI装置と記載します)があります。IDE装置は、本機の基板(メインボード)上にあるIDEコネクタにIDEケーブルを介して接続します。SCSI装置は、拡張スロットに取り付けたSCSIカードにSCSIケーブルを介して接続します。SCSI装置を接続する場合はSCSIカードが必要です。



参考

IDE仕様のHDDとSCSI仕様のHDD

IDE仕様のHDDとSCSI仕様のHDDを混在させて使用することができます。起動HDDは、BIOS Setupユーティリティの「Bootメニュー画面」で設定します。

IDE装置の設定

内蔵HDDなどのIDE装置を増設する場合、以下の点に注意して作業を進めてください。

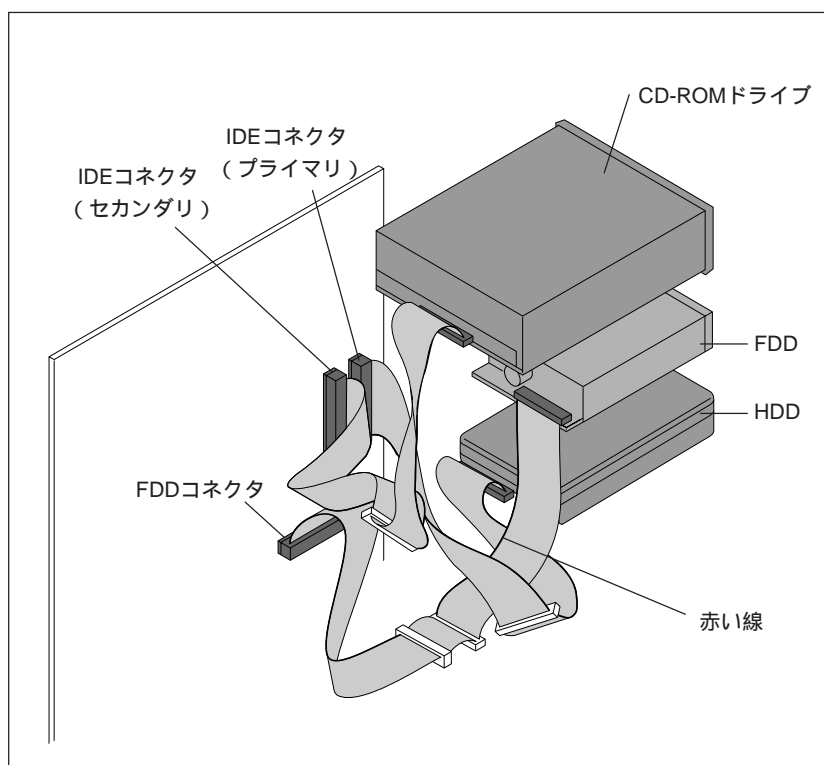
接続可能なIDE装置は合計4台です。

実際に接続可能な装置の数は、ドライブベイの空き数に依存します。

IDE装置の順番は接続するIDEケーブル(プライマリとセカンダリ)と装置の設定(マスタとスレーブ)によって決定されます。

プライマリ とセカンダリ

本機の基板(メインボード)上にはIDEケーブルを接続するためのIDEコネクタが2つあります。IDEコネクタには優先度があり優先度の高いものがプライマリコネクタ、低いものがセカンダリコネクタです。IDEケーブルにはそれぞれ2台のIDE装置を接続できます。



マスタ とスレイブ

IDEケーブルには2つのIDE装置接続用のコネクタがありますが、優先度はありません。IDE装置の優先度はIDE装置側のジャンパスイッチなどで設定します。優先度の高い設定がマスタ、低い設定がスレイブです。

IDEケーブルにIDE装置を1台しか接続しない場合は、マスタまたはシングルの設定にしてください。1台しか接続しない場合にスレイブの設定にするとIDE装置が認識されません。

IDE装置の接続例

メインボード上のIDEコネクタ	IDE装置の設定	IDE装置の優先度	一般的な設定
プライマリ	マスタ	1	HDD
	スレイブ	2	-
セカンダリ	マスタ	3	CD-ROMドライブ
	スレイブ	4	-

HDDの領域を2つ以上作成した場合には、それぞれの領域にドライブ名が割り当てられます。



制限

OSはプライマリIDEコネクタにマスタ設定で接続されたHDDにインストールしてください。

CD-ROMドライブは、HDDより優先度の低い設定にしてください。CD-ROMドライブより優先度の低い設定のHDDは認識されない可能性があります。

IDE装置の増設例

メインボード上のIDEコネクタ	IDE装置の設定	IDE装置の優先度	一般的な設定
プライマリ	マスタ	1	HDD
	スレイブ	2	増設HDD
セカンダリ	マスタ	3	CD-ROMドライブ
	スレイブ	4	-

SCSI装置の設定

1枚のSCSIカードにはSCSI装置を接続することができます。SCSI装置にはコンピュータ内部に取り付けるHDDやCD-ROMドライブのほかに外部コネクタに接続するスキャナなどの装置もあります。それぞれのSCSI装置はSCSI IDにより識別されます。またSCSIケーブルの両端のSCSI装置にはSCSIターミネータと呼ばれる終端抵抗を付ける必要があります。

SCSI ID

SCSI装置を識別するためにSCSI装置ごとに異なるSCSI IDを設定します。SCSI IDはSCSI装置上のジャンプスイッチやディップスイッチなどで設定します。一般的なSCSI IDの設定は以下のとおりです。

SCSI ID	ドライブ装置
0	HDD(1台目)
1	HDD(2台目)
3	CD-ROMドライブ
4	MO(光磁気ディスクドライブ)
7	SCSIカード

SCSIターミネータ

SCSIターミネータは正常にデータの入出力を行うために、SCSIケーブル両端のSCSI装置に設定する終端抵抗です。

SCSI装置が内蔵されている製品では、コンピュータ内部のSCSIケーブルの両端に接続しているドライブ装置とSCSIカードのターミネータ設定を有効にしています。SCSIカードは自動的にターミネータを有効にしたり無効にする機能を持っています。このためSCSIカードの外部コネクタにSCSI装置を接続すると、自動的にターミネータが無効になります。

SCSI装置の接続やSCSIカードの詳細についてはSCSIカードのマニュアルをご覧ください。

ドライブ装置の接続例

HDDの接続例

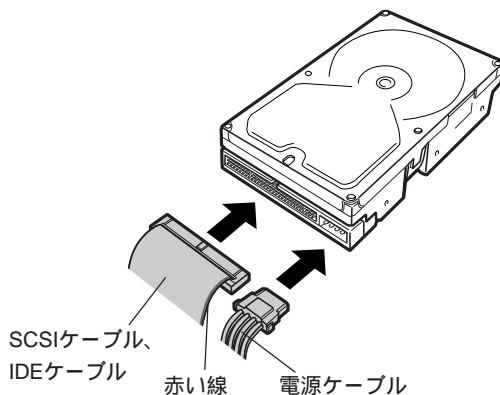
HDDの場合、次のとおり接続します。詳細についてはHDDに添付のマニュアルをご覧ください。

1

IDEケーブルまたはSCSIケーブルを接続します。
IDE仕様のHDDではIDEケーブルを、SCSI仕様のHDDではSCSIケーブルをHDDのインタフェースコネクタに接続します。

2

電源ケーブルを、電源コネクタに接続します。



CD-ROM ドライブの接続例

CD-ROMドライブの場合、次のとおり接続します。詳細についてはCD-ROMドライブに添付のマニュアルをご覧ください。

1

IDEケーブルまたはSCSIケーブルを接続します。
IDE仕様のCD-ROMドライブではIDEケーブルを、SCSI仕様のCD-ROMドライブではSCSIケーブルをCD-ROMドライブのインタフェースコネクタに接続します。

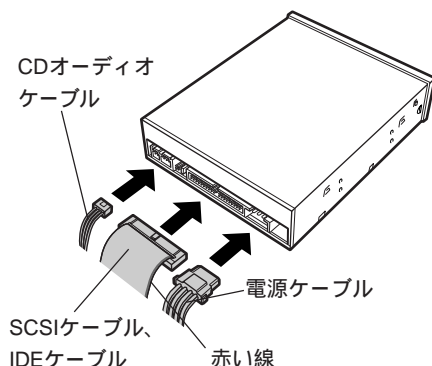
2

CDオーディオケーブルを接続します。

CDオーディオケーブルはサウンドカードに接続されています。このケーブルを接続しないと音楽CDを再生したときコンピュータのスピーカから音が聞こえません。

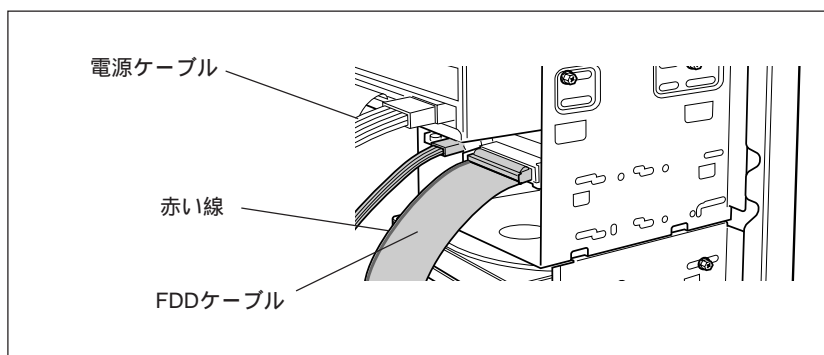
3

電源ケーブルを、電源コネクタに接続します。



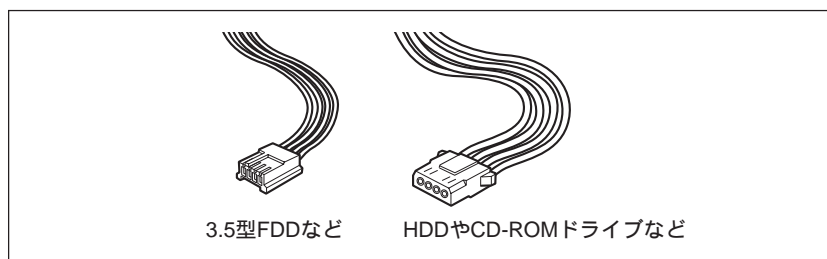
3.5型FDD の接続例

3.5型FDDの場合、次のとおり接続します。



電源ケーブル

電源ユニットからは、ドライブベイに装着する装置に電源を供給するために電源ケーブルが出ています。電源ケーブルには、大小2種類の電源コネクタがいくつか付いています。一般的に大きいコネクタは、HDDやCD-ROMドライブに、小さいコネクタは3.5型FDDに使用します。



BIOSの設定

BIOS Setupユーティリティを使用し、BIOSの設定を変更する方法について説明します。

BIOSの設定を始める前に

BIOSはコンピュータの基本的な入出力を行うプログラムの集まりで、メインボード上にROMとして搭載されています。BIOSの設定により、コンピュータの基本的な動作が決定されます。BIOSは、コンピュータのシステム構成に合わせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。BIOSの設定を変更するのは、次のような場合です。

内蔵HDD(IDE仕様)を交換した場合

パワーマネジメントの設定を変更したい場合

パスワードを設定する場合


BIOSの設定は、「BIOS Setupユーティリティ」を実行して変更します。BIOS Setupユーティリティで変更した内容はCMOS RAMと呼ばれる特別なメモリ領域に保存されます。このメモリはリチウム電池によってバックアップされているため、コンピュータの電源をオフにしたり、リセットしても消去されることはありません。



参考

リチウム電池の寿命

BIOS Setupユーティリティの内容は、リチウム電池で保持しています。本機のリチウム電池の寿命は数年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合にはリチウム電池の寿命が考えられます。リチウム電池を交換してください。

( p.133「リチウム電池の交換」)



制限

BIOS Setupユーティリティで、設定を変更する場合には、必ず購入時の設定値(初期設定値)と、変更後の設定値を記録しておいてください。万一、システムが動作しなくなった場合や、リチウム電池の寿命などでCMOS RAMのデータが失われた場合でも、もとに戻すことができます。

( p.91「BIOSの設定値」)

BIOS Setupユーティリティには、ハードウェアに依存した詳細な項目も含まれています。このような項目を誤って変更すると、システムが起動しなくなったり、動作が不安定になります。万一、システムが起動しなくなったり、動作が不安定になった場合には「Load Setup Defaults」(初期設定値)を実行してください。

BIOS Setupユーティリティの操作

BIOS Setupユーティリティの起動

- 1 コンピュータの電源を入れます。すでに電源が入っている場合はリセットします。
- 2 画面の下の方に次のメッセージが表示されます。このメッセージが表示されている間に **[Delete]** を押してください。 **[Delete]** を押さないとシステムが起動します。

Press DEL to enter SETUP

仕様が前回と異なるとき

コンピュータの状態が、前回使用していたときと異なる場合には次のメッセージが表示されます。

Press F1 to continue, DEL to enter SETUP

このメッセージが表示されたら **[Delete]** を押してBIOS Setupユーティリティを起動してください。 **[F1]** を押すとシステムが起動しますが、動作中に問題が発生する可能性があります。

BIOS Setupユーティリティの操作

BIOS Setupユーティリティが起動すると次のメニュー画面が表示されます。メニュー画面から、▶マークの付いている項目にカーソルを合わせて **[Enter]** を押すとサブメニュー画面が表示されます。





<メニュー画面>

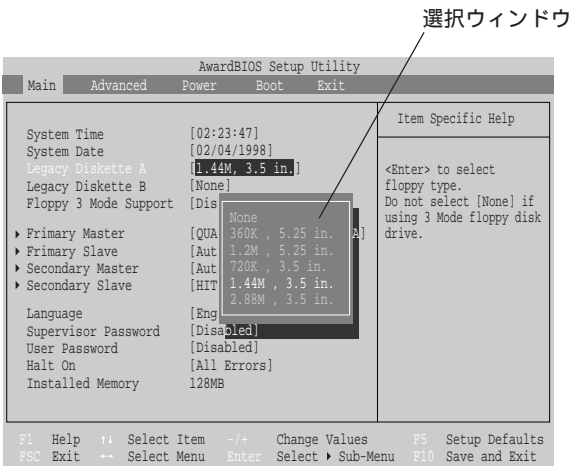


<サブメニュー画面>




















選択ウィンドウ

BIOS Setupユーティリティの画面上で、設定値が黒字表示されている項目は設定の変更が可能です(青字表示されている項目は設定を変更することができません)、黒字表示の項目にカーソルを合わせて  を押すと、「選択ウィンドウ」が表示されます。  キーで移動して  を押します。



キー操作

キー	操作できる内容
 ,  + 	ヘルプを表示します。
	「EXIT」画面を表示します。
 , 	設定を変更する項目を選択します。
 , 	処理メニューを選択します。
 , 	項目の値を変更します。
	処理メニュー中の▶マークの付いている項目で押すとサブメニューを表示します。
	全設定項目の値を、システムが最も高速に動作する設定(工場出荷時)に変更します。
	変更した設定値を保存して終了します。
 , 	画面の中の最初の項目に移動します。
 , 	画面の中の最後の項目に移動します。

BIOS Setupユーティリティの終了

BIOS Setupユーティリティを終了するには、次のどちらかの方法があります。

変更した内容を
保存し、終了する。
(Exit Saving
Changes)

- 1 または を押し、[EXIT]画面を選択します。
- 2 「Exit Saving Changes」を選択し を押します。次のメッセージが表示されます。

Setup confirmation	
Save configuration changes and exit now ?	
[Yes]	[No]
- 3 変更した設定値を保存して終了する場合は [Yes] を選択し、 を押します。この方法で終了しない場合は [No] を選択し、 を押します。

変更した内容を
破棄し、終了する。
(Exit Discarding
Changes)

- 1 または を押し、[EXIT]を選択します。
- 2 「Exit Discarding Changes」を選択し、 を押します。

Setup confirmation	
Discard configuration changes and exit now?	
[Yes]	[No]
- 3 変更した設定値を保存せずに終了する場合は [Yes] を選択し、 を押します。この方法で終了しない場合は [No] を選択し、 を押します。

BIOS Setupユーティリティの設定項目

本章では、BIOS Setupユーティリティで設定できる項目と、設定方法などについて説明します。BIOS Setupユーティリティのメニュー画面には、次の5つのメニューがあります。

Main メニュー画面： 日付、時間、FDD、HDDやパスワードなどの設定を行います。

Advancedメニュー画面： CPUに関する設定、I/O関係の動作設定やPCIバス関係の設定などを行います。

Powerメニュー画面： パワーマネージメント(省電力)に関する設定を行います。

Bootメニュー画面： システムを起動するドライブの順番の設定やコンピュータの動作状態の設定などを行います。

Exitメニュー画面： BIOS Setupユーティリティの終了方法などを設定します。

Mainメニュー画面

■ は初期設定値

*印は項目表示のみ

System Time(hh:mm:ss)時間の設定	時刻を設定します。
System Date(mm:dd:yy)日付の設定	日付を設定します。
Legacy Diskette A Legacy Diskette B (FDDの設定)	接続しているFDDのタイプを選択します。標準はLegacy Diskette Aに3.5型1.44MB対応FDDが接続されています。 None : FDD未接続 360K,5.25in. : 5.25型360KB対応FDD 1.2M,5.25in. : 5.25型1.2MB対応FDD 720K,3.5in. : 3.5型720KB対応FDD 1.44M,3.5in. : 3.5型1.44MB対応FDD 2.88M,3.5in. : 3.5型2.88MB対応FDD
Floppy 3 Mode Support (1.2MBフォーマットの フロッピーディスクの設定)	1.44MB対応FDDで1.2MBフォーマットのフロッピーディスクを使用するかを設定します。本機では3モードFDDドライバを組み込んで1.2MBフロッピーディスクを使用するため、ここは[Disabled]に設定します。 Disabled : 1.2MBフロッピーディスクを使用しません。 Drive A : Aドライブだけで使用します。 Drive B : Bドライブだけで使用します。 Both : A,Bドライブで使用します。

Primary Master Primary Slave Secondary Master Secondary Slave (IDE装置の設定) 表示される詳細項目は、選択するドライブにより異なります。	Type	IDE装置の仕様(諸元)を設定します。 IDE装置の仕様を設定します。通常は[Auto]を指定します。[Auto]で自動的に仕様が設定されない古いIDE装置を使用する場合には[User Type HDD]などを選択して各項目を設定します。 Auto : BIOSが自動的にIDE装置の仕様を設定します。 None : IDE装置を接続しない場合に選択します。 User Type HDD : 以降のHDDに関する項目を個別に設定することができます。 CD-ROM : CD-ROMドライブに関する項目を個別に設定することができます。 LS-120 : LS-120ドライブに関する項目を個別に設定することができます。 MO : MOドライブに関する項目を個別に設定することができます。 Other ATAPI Device : 上記ドライブ以外のATAPI機器に関する項目を個別に設定することができます。
	Translation Method	HDDの記憶容量のモードを設定します。 Normal : 容量が528MB以下のHDDを接続している場合に選択します。 LBA : 容量が528MB以上でLBA(Logical Block Addressing)をサポートしているHDDを接続している場合に選択します。 LARGE : 容量が528MB以上でLBAをサポートしていないHDDを接続している場合に選択します。 Match Partition Table : HDDの記憶容量のモードを自動的に判別して設定します。 Manual : 「Cylinders」、「Head」、「Sector」項目を個別に設定します。
	Cylinders	HDDのシリンダ数を設定します。
	Head	HDDのヘッド数を設定します。
	Sector	HDDのセクタ数(1シリンダ当たり)を設定します。
	*CHS Capacity	HDDの最大容量(CHS)を表示します。
	*Maximum LBA Capacity	HDDの最大容量(LBA)を表示します。
	Multi-Sector Transfers	1度に何セクタ転送するかを設定します。最適でない設定にすると、HDD転送速度が落ちる可能性があります。「Type」項目を[Auto]に設定すると自動的に設定されます。 Disabled : 複数のセクタを転送しません。 2,4,8,16,32 Sectors : 転送セクタを設定します。 Maximum : HDDがサポートする最大セクタサイズを設定します。
	PIO Mode	HDDの転送モード(PIO)を設定します。 0/ 1/ 2/ 3/ 4 : 転送モードを設定します。
	ULTRA DMA Mode	Ultra DMA /33対応装置の転送モードを設定します。 0/ 1/ 2 : 転送モードを設定します。 Disabled : 使用しません。
	Set Device as	「Type」項目で「 MO 」に設定した時のみ表示されます。 Auto : BIOSが自動的にMOのモードを設定します。 Floppy : MOドライブをフロッピーディスクモードで使用します。 Hard Disk : MOドライブをハードディスクモードで使用します。
	Language	BIOS Setupユーティリティの表示言語を設定します。設定できる言語は[English]のみです。

Supervisor Password User Password	コンピュータを使用するユーザーを限定するための機能です。 p.82「Passwordの設定」
Halt On (エラーチェックの設定)	システム起動時にチェックするエラーの種類を選択します。指定したエラーが発生するとシステムは起動を停止します。 All Errors : すべてのエラーチェックを行います。 No Error : エラーチェックを行いません。 All but Keyboard : キーボード関連以外のエラーチェックを行います。 All but Disk : FDD関連以外のエラーチェックを行います。 All but Disk/Keyboard : キーボード/FDD関連以外のエラーチェックを行います。
*Installed Memory	メモリ容量を自動的に表示します。設定を変更することはできません。

Passwordの設定

Supervisor /User Password

この機能は、コンピュータを使用するユーザーを限定するための機能です。システム起動時などにパスワードの入力が要求され、正しいパスワードを入力しないとコンピュータを使用することができなくなります。

パスワードには「Supervisor Password(管理者パスワード)」と「User Password(ユーザーパスワード)」の2種類があります。この機能は「Mainメニュー画面」の「Supervisor Password」および「User Password」項目で設定します。それぞれの「Password」の詳細は以下のとおりです。

	パスワード項目	設定値	BIOS Setup ユーティリティ 起動時	起動時 Windows
1	Supervisor Password	Enabled	○ (全項目*1変更可能)	○
	User Password	Enabled	○ (一部項目*2のみ変更可能)	○
2	Supervisor Password	Enabled	○ (全項目*1変更可能)	×
	User Password	Disabled		
3	Supervisor Password	Disabled	○ (全項目*1変更可能)	○
	User Password	Enabled		

○ : パスワード要求あり

× : パスワード要求なし

*1 : BIOS Setup ユーティリティの変更可能な全項目を指します。

*2 : 次の項目を指します。

「Mainメニュー画面」 - 「System Time」、「System Date」、「User Password」

「Exitメニュー画面」 - 「Exit Saving Changes」、「Exit Discarding Changes」

パスワードの設定・変更

パスワードの設定・変更方法は次のとおりです。

- 1 「Supervisor Password」または、「User Password」を選択して  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter Password:
- 2 パスワードを入力し、 を押します。
「*」が表示されない文字は、パスワードとして使用できません。アルファベットの
大文字と小文字は区別されません。パスワードは8文字まで入力可能です。
- 3 続いて次のメッセージが表示されます。確認のためにもう一度同じパスワードを入
力し、 を押します。同じパスワードを入力しないと、手順1のメッセージに戻
ります。

Confirm Password:
- 4 パスワードの設定が完了すると、設定したパスワード項目の値が「Enabled」に変
わります。





制限

登録したパスワードを忘れないようにしてください。パスワードは、書き移して保管して
おくことをおすすめします。

万一、パスワードを忘れた場合は、「CMOS RAMの初期化(p.132)」を実行します。

パスワードの削除

- 1 「Supervisor Password」または、「User Password」を選択して  を
押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter Password:
- 2 何も入力せずに  を押すと、選択したパスワード項目の値が「Disabled」に
変わります。これでパスワードが削除されます。

Advancedメニュー画面

*CPU Speed (CPUスピードの設定)	コンピュータに搭載されているCPUの周波数を自動的に表示します。
CPU Level 1 Cache (1次キャッシュメモリの設定)	CPUの1次キャッシュの有効/無効を設定します。 Disabled : 無効にします。 Enabled : 有効にします。
CPU Level 2 Cache (2次キャッシュメモリの設定)	CPUの2次キャッシュの有効/無効を設定します。 Disabled : 無効にします。 Enabled : 有効にします。
CPU Level 2 Cache ECC Check (2次キャッシュメモリのECCの設定)	CPUの2次キャッシュのECCの設定をします。 Disabled : 無効にします。 Enabled : 有効にします。
Processor Serial Number (プロセッサ・シリアル・ナンバーの設定)	プロセッサ・シリアル・ナンバーの有効/無効を設定します。 Disabled : 無効にします。 Enabled : 有効にします。
PS/2 Mouse Function Control (PS/2マウスの設定)	PS/2マウスを使用するかを設定します。この場合、IRQ12が常にPS/2マウス用に確保されます。 Enabled : PS/2マウスを使用します。 Auto : 自動的に設定します。
OS/2 Onboard Memory > 64M (OS/2のメモリサイズの設定)	OS/2で、64MB以上のメモリを使用する場合に[Enabled]を選択します。 Disabled : 64MB以上のメモリを使用しません。 Enabled : 64MB以上のメモリを使用します。

Chip Configurationサブメニュー画面

SDRAM Configuration (チップセットの設定)	初期設定[By SPD]のまま使用します。
SDRAM CAS Latency (チップセットの設定)	装着しているメモリによって自動的に設定します。
SDRAM RAS to CAS Delay (チップセットの設定)	装着しているメモリによって自動的に設定します。
SDRAM RAS Precharge Time (チップセットの設定)	装着しているメモリによって自動的に設定します。
DRAM Idle Timer (チップセットの設定)	装着しているメモリによって自動的に設定します。
SDRAM MA Wait State (チップセットの設定)	初期設定[Normal]のまま使用します。
Snoop Ahead (PCIバスの設定)	初期設定[Enabled]のまま使用します。
Host Bus Fast Data Ready (ホストクロックの設定)	初期設定[Disabled]のまま使用します。
16-bit I/O Recovery Time (16ビットISAバス用カードの設定)	16bit ISA バス用拡張カードのタイミングを設定します。初期設定のまま使用します。 4/1/2/3 BUSCLK
8-bit I/O Recovery Time (8ビットISAバス用カードの設定)	8bit ISA バス用拡張カードのタイミングを設定します。初期設定のまま使用します。 8/1/2/3/4/5/6/7 BUSCLK
Graphics Aperture Size (グラフィックアパチャーサイズの設定)	初期設定[64MB]のまま使用します。
Video Memory Cache Mode (ビデオBIOSのキャッシュ設定)	ビデオ BIOS のキャッシュ方法を設定します。初期設定の[UC]のまま使用します。 ビデオカードが[USWC]の機能をサポートしている場合には、[USWC]を選択できます。
PCI 2.1 Support (PCI2.1サポートの設定)	初期設定[Enabled]のまま使用します。
Memory Hole At 15M-16M (15M-16Mメモリ空間の設定)	15M-16MB メモリ空間をシステム予約するかを設定します。[Enabled]にすると使用可能なメモリが1MB 少なくなります。ISA バス用拡張カードでこの領域にリニアバッファを確保するようなボードを使用する場合に設定します。 Disabled : システム予約しません。 Enabled : システム予約します。
Onboard PCI IDE Enable (IDE コネクタの設定)	内蔵の IDE コネクタを使用するかを設定します。 Both : プライマリ / セカンダリ IDE コネクタを使用します。 Primary : プライマリ IDE コネクタを使用します。 Secondary : セカンダリ IDE コネクタを使用します。 Disabled : IDEコネクタを使用しません。
Data Integrity Mode	ECC機能付きのメモリを装着すると、自動的に表示されます。 Non-ECC : エラーの検出および訂正を行いません。 ECC : エラーの検出および訂正を行います。 EC-Only : エラーを検出するが訂正は行いません。

I/O Device Configurationサブメニュー画面

Onboard FDC Swap A&B (FDDの変換)	FDD のドライブ名を入れ替えます。FDD ケーブルを差し替えることなくドライブ名を入れ替えることができます。 No Swap : ドライブ名を入れ替えません。 SwapAB : ドライブ名を入れ替えます。
Floppy Disk Access Control (フロッピーディスクのアクセス設定)	フロッピーディスクのアクセス方法を設定します。この設定はBIOSを使用しないFormatコマンドなどでは機能しません。 R/W : 読み込み/書き込み可能 Read Only : 読み込みのみ可能
Onboard Serial Port 1 / Onboard Serial Port 2 (シリアルポートの設定)	シリアルポートのアドレスと IRQ 信号を設定します。 3F8H/IRQ4, 2F8H/IRQ3, 3E8H/IRQ4, 2E8H/IRQ10 Disabled : シリアルポートを使用しません。
Onboard Parallel Port (パラレルポートの設定)	パラレルポートが使用するアドレスを設定します。 Disabled : パラレルポートを使用しません。 378H/IRQ7, 278H/IRQ5, 3BCH/IRQ7
Parallel Port Mode (パラレルポートの設定)	パラレルポートの動作モードを設定します。接続する周辺装置で指示がある場合のみ変更します。 Normal : 標準の設定です。 EPP : EPP モードに設定します。 ECP : ECP モードに設定します ECP+EPP : EPP+ECP モードに設定します。
ECP DMA Select (パラレルポートのDMAの設定)	動作モードに ECP、ECP+EPP を選択した場合の DMA チャンネルを設定します。 Disabled : DMA チャンネルを使用しません。 1 : DMA チャンネル 1 を使用します。 3 : DMA チャンネル 3 を使用します。

PCI Configurationサブメニュー画面


Slot x IRQ (PCIスロットのIRQ設定)	<p>PCIバススロットごとで使用する割り込み(IRQ)を設定します。</p> <p>Auto : 自動設定します。</p> <p>NA : 使用しません。</p> <p>3/4/5/7/9/10/11/12/14/15 : IRQ3/4/5/7/9/10/11/12/14/15を使用します。</p>
PCI/VGA Palette Snoop (パレットスヌープの設定)	<p>ビデオパレットのスヌープ処理を行うか設定します。ビデオカードで指示があるときに[Enabled]を選択します。</p> <p>Disabled : スヌープ処理を行いません。</p> <p>Enabled : スヌープ処理を行います。</p>
PCI Latency Timer	システムの最適値32で使用します。
USB IRQ (USB IRQの設定)	<p>USB IRQの有効/無効を設定します。</p> <p>Disabled : USBのIRQを無効にします。</p> <p>Enabled : USBのIRQを有効にします。</p>
VGA BIOS Sequence	<p>PCIバス対応ビデオカードとAGPバス対応ビデオカードを使用する時の優先順位の設定を行います。</p> <p>AGP/PCI : AGPバス対応ビデオカードを優先します。</p> <p>PCI/AGP : PCIバス対応ビデオカードを優先します。</p>
PCI/PNP ISA IRQ Resource Exclusion IRQ x Used By ISA (非PnPカードのIRQ設定) x=3/4/5/7/9/10/11/12/14/15	<p>PnPに対応していないISAカードで使用する割り込みを設定します。</p> <p>No/ICU : ISAカードで使わないか、使用する場合でもICUで設定可能な場合に選択します。</p> <p>Yes : ISAカードで使用する場合に選択します。この場合は、ICUで使われなくなります。</p>
PCI/PNP ISA DMA Resource Exclusion DMA x Used By ISA (非PnPカードのDMA設定) x=1/3/5	<p>PnPに対応していないISAカードで使用するDMAチャンネルを設定します。</p> <p>No/ICU : DMAチャンネルをISAカードで使わないか、使用する場合でもICUで設定可能な場合に選択します。</p> <p>Yes : ISAカードで使用する場合に選択します。この場合は、ICUで使われなくなります。</p>
PCI/PNP ISA UMB Resource Exclusion ISA MEM Block BASE (非PnPカードのメモリ設定)	<p>PnPに対応していないISAカードで使用するメモリ領域C8000h ~ DFFFF hを設定します。</p> <p>No/ICU : メモリ領域を使用しないか、使用する場合ICUでも設定可能な場合に設定します。</p> <p>C800/ CC00/ D000/ D400/ D800/ DC00 : メモリ領域の先頭アドレスを指定します。</p>
ISA MEM Block SIZE (非PnPカードのメモリサイズ設定)	8K/16K/32K/64K : サイズを指定します。

Shadow Configurationサブメニュー画面

Video ROM BIOS Shadow (ビデオBIOSのシャドウ処理の設定)	ビデオBIOSをRAM上に転送して実行する(シャドウ処理)かを選択します。RAM上で実行すると処理スピードを上げることができます。 Disabled : RAMに転送せず、ROM上で実行します。 Enabled : RAMに転送して実行します。
C8000-CBFFF Shadow CC000-CFFFF Shadow D0000-D3FFF Shadow D4000-D7FFF Shadow D8000-DBFFF Shadow DC000-DFFFF Shadow (拡張BIOSのシャドウ処理の設定)	C8000hからDFFFFhまでに割り当てられる拡張カード上のBIOS ROMをRAMに転送して実行するかを設定します。 Disabled : RAMに転送せず、ROM上で実行します。 Enabled : RAMに転送して実行します。

Power メニュー画面

パワーマネージメント(省電力)の設定を行います。

( p.45「パワーマネージメント機能」)



- WindowsNT4.0では「Powerメニュー画面」の設定は機能しません。工場出荷時の設定のままでお使いください。
- Windows98では、「PWR Button < 4 Secs」と「Power Up Control」の各項目以外の設定は機能しません。Windows98の「電源の管理のプロパティ」でパワーマネージメント設定を行ってください。

Power Management (パワーマネージメントの設定)	省電力モードに移行する時間を設定します。 Max Saving : 省電力モードを有効にします。Min Savingと比べて省電力モードへの移行時間が短くなります。 Min Saving : 省電力モードを有効にします。Max Savingと比べて省電力モードへの移行時間が長くなります。 Disabled : 省電力モードを無効にします。 User Define : 省電力モードへの移行時間を設定します。
Video Off Option (ビデオ信号の設定)	ビデオ信号を停止するタイミングを選択します。 Suspend->Off : 省電力モード時に停止します。 Always On : ビデオ信号を停止しません。
Video Off Method (ビデオ信号の設定)	ビデオ信号を停止する方法を選択します。 V/H SYNC+Blank : 垂直/水平同期信号を停止し、ビデオ信号をブランク信号にします。 DPMS Standby / DPMS Suspend / DPMS OFF : DPMSに従ってビデオ信号を停止します。 Blank Screen : ビデオ信号をブランク信号にします。DPMSなどの省電力機能に対応していないディスプレイを使用する場合に選択します。

HDD Power Down (HDDモータの停止時間の設定)	HDDのモータを停止する時間を設定します。内蔵IDE HDDのみ有効です。SCSI HDDには機能しません。 Disabled : HDDを停止しません。 1 ~ 15 Min : 1分から15分を選択します。
Suspend Mode (サスペンドモードの設定)	サスペンドモードに移行する時間を設定します。 Disabled : 省電力モードに移行しません。 30Sec ~ 40Min : 30秒から40分を選択します。
PWR Button < 4 Secs (電源OFFの設定)	電源OFFのタイミングを設定します。 Soft Off : 4秒以下電源スイッチを押した時に、電源OFFになります。 Suspend : 4秒以下電源スイッチを押した時に、サスペンドモードになります。
Power Up Control (電源投入方法の設定)	電源をONにする方法や条件を設定します。
AC PWR Loss Restart (再起動時の電源の設定)	電源スイッチを押さずに、AC電源供給時に起動するかどうかを設定します。 Enabled : 電源ON時に電源断状態になった後、電源が再投入されるとシステムが起動します。 Disabled : 電源OFFの状態です。
PWR Up On Modem Act (モデム自動受信の設定)	電源OFF時、シリアルポートに接続したモデムに着信した時に電源ONするかどうかを設定します。 Enabled : 自動的に受信します。 Disabled : 設定しません。
Wake On LAN (LANからの起動設定)	電源OFF時、ネットワークからの信号により、電源ONするかどうかを設定します。AC電源が切れると無効になります。 Enabled : 設定します。 Disabled : 設定しません。
Automatic Power Up (自動電源ONの起動設定)	設定した日付と時間に応じて、自動的に電源をONにします。AC電源が切れると無効になります。Windows98 ACPIモードでは、機能しません。 Disabled : 設定しません。 Everyday : 設定した時間に、毎日電源がONします。 By Date : 設定した日付と時間に、電源がONします。

Bootメニュー画面

「Bootメニュー画面」では、システムを起動するドライブの順番を設定することができます。初期設定は、[1.Removable Device]、[2. IDE Hard Drive]、[3.ATAPI CD-ROM]、[4.Other Boot Device]です(ただし、システムの構成により異なる場合があります)。ドライブを選択して + を押すと、そのドライブの順番が1つ上がります。ドライブを選択して - を押すと、そのドライブの順番が1つ下がります。

1. Removable Device	この項目で設定したドライブから起動するかどうかを設定します。このドライブから起動したい時は、順番を上げます。 Disabled / Legacy Floppy / LS120
2. IDE Hard Drive	IDE HDDから起動するかどうかを設定します。このドライブから起動したい時は、順番を上げます。

3. ATAPI CD-ROM	ATAPI CD-ROM から起動するかどうかを設定します。このドライブから起動したい時は、順番を上げます。
4. Other Boot Device	SCSI装置から起動するかどうかを設定します。このドライブから起動したい時は、順番を上げます。 Disabled /SCSI Boot Device
Plug & Play O/S (Plug & Play対応OSの設定)	使用しているOSがPlug & Play対応OSの場合は[Yes]を選択します。 No : 非Plug & Play対応OS Yes : Plug & Play対応OS 使用するOSに合わせて正しく設定しないと、OSによっては正常に動作しない場合があります。
Reset Configuration Data (Plug & Playデータ初期化の設定)	PnPに関するデータを初期化するかどうかを設定します。 No : 初期化しません。 Yes : 初期化します。拡張カードを取り付けたり外した時、デバイスの認識が異常だったり、エラーが表示された場合などに一度この設定にしてください。
Boot Virus Detection (ウイルスチェックの設定)	ブートセクタに感染するウィルスをチェックします。 Disabled : チェックしません。 Enabled : チェックします。
Quick Power On Self Test (POSTの設定)	システム起動時のPower On Self Test(POST)の実行回数を選択します。 Disabled : 複数回実行します。 Enabled : 1回だけ実行します。起動時間を短くすることができます。
Boot Up Floppy Seek (シークの設定)	起動時にFDDのシーク動作を行うかを選択します。 Disabled : シーク動作を行いません。 Enabled : シーク動作を行います。
Boot Up NumLock Status (起動時の  の設定)	起動時の  の状態を設定します。 Off :  が押されていない状態にします。 On :  が押された状態にします。

Exitメニュー画面

「Exitメニュー画面」は、BIOS Setupユーティリティの終了方法などを設定する場合に使用します。設定項目と詳細は、次のとおりです。

Exit Saving Changes	変更した内容(設定値)を保存してから、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Exit Discarding Changes	変更した内容(設定値)を保存せずに、BIOS Setupユーティリティを終了します。
Load Setup Defaults	BIOS Setupユーティリティの設定値を、BIOSの初期設定値に戻します。
Discard Changes	BIOS Setupユーティリティを終了させずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。前回保存した設定値に戻す場合は[Yes] 設定変更をそのまま続けて行う場合は[No]を選択します。
Save Changes	変更した内容(設定値)をBIOS Setupユーティリティを終了させずに保存します。

BIOSの設定値

BIOS Setup ユーティリティで設定を変更した場合は、変更内容を下表に記録しておくと便利です。購入時の設定は必ず記録してください。

Main メニュー画面

項目	購入時の設定	変更内容
Legacy Diskette A	None 1.44M 3.5 in 2.88M 3.5 in 720K 3.5 in 360K 5.25 in 1.2M 5.25 in	None 1.44M 3.5 in 2.88M 3.5 in 720K 3.5 in 360K 5.25 in 1.2M 5.25 in
Legacy Diskette B	None 1.44M 3.5 in 2.88M 3.5 in 720K 3.5 in 360K 5.25 in 1.2M 5.25 in	None 1.44M 3.5 in 2.88M 3.5 in 720K 3.5 in 360K 5.25 in 1.2M 5.25 in
Floppy 3Mode Support	Disabled Drive A Drive B Both	Disabled Drive A Drive B Both
Supervisor Password	Disabled Enabled	Disabled Enabled
User Password	Disabled Enabled	Disabled Enabled
Halt On	All Errors No error All but Keyboard All but Disk All but Disk/Keyboard	All Errors No error All but Keyboard All but Disk All but Disk/Keyboard

項目	購入時の設定		変更内容	
	Master	Slave	Master	Slave
Primary				
Type				
Traslation Method				
Cylinders				
Head				
Sector				
CHS Capacity				
Maximum LBA Capacity				
Multi-Sector Transfers				
PIO Mode				
Ultra DMA Mode				
Set Device as				

項目	購入時の設定		変更内容	
Secondary	Master	Slave	Master	Slave
Type				
Traslation Method				
Cylinders				
Head				
Sector				
CHS Capacity				
Maximum LBA Capacity				
Multi-Sector Transfers				
PIO Mode				
Ultra DMA Mode				
Set Device as				

Advanced メニュー画面

項目	購入時の設定		変更内容	
CPU Level 1 Cache	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
CPU Level 2 Cache	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
CPU Level 2 Cache ECC Check	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Processor Serial Number	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
PS/2 Mouse Function Control	Auto	Enabled	Auto	Enabled
OS/2 Onboard Memory > 64M	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

Chip Configuration サブメニュー画面

項目	購入時の設定				変更内容			
Video Memory Cache Mode	UC		USWC		UC		USWC	
Memory Hole At 15M-16M	Disabled		Enabled		Disabled		Enabled	
Onboard PCI IDE Enable	Both	Primary	Secondary	Disabled	Both	Primary	Secondary	Disabled

I/O Device Configuration サブメニュー画面

項目	購入時の設定				変更内容			
Onboard FDC Swap A&B	No Swap		Swap AB		No Swap		Swap AB	
Floppy Disk Access Control	R/W		Read Only		R/W		Read Only	
Onboard Serial Port 1	3F8H/IRQ4 2F8H/IRQ3 3E8H/IRQ4 2E8H/IRQ10 Disabled				3F8H/IRQ4 2F8H/IRQ3 3E8H/IRQ4 2E8H/IRQ10 Disabled			
Onboard Serial Port 2	3F8H/IRQ4 2F8H/IRQ3 3E8H/IRQ4 2E8H/IRQ10 Disabled				3F8H/IRQ4 2F8H/IRQ3 3E8H/IRQ4 2E8H/IRQ10 Disabled			
Onboard Parallel Port	Disabled 378H/IRQ7 278H/IRQ5 3BCH/IRQ7				Disabled 378H/IRQ7 278H/IRQ5 3BCH/IRQ7			
Parallel Port Mode	Normal EPP ECP ECP+EPP				Normal EPP ECP ECP+EPP			
ECP DMA Select	Disabled 1		3		Disabled 1		3	

PCI Configuration サブメニュー画面

項目	購入時の設定				変更内容			
Slot 1 IRQ	Auto	NA	3/4/5/7/9/10/11/12/14/15		Auto	NA	3/4/5/7/9/10/11/12/14/15	
Slot 2 IRQ	Auto	NA	3/4/5/7/9/10/11/12/14/15		Auto	NA	3/4/5/7/9/10/11/12/14/15	
Slot 3/6 IRQ	Auto	NA	3/4/5/7/9/10/11/12/14/15		Auto	NA	3/4/5/7/9/10/11/12/14/15	
Slot 4/5 IRQ	Auto	NA	3/4/5/7/9/10/11/12/14/15		Auto	NA	3/4/5/7/9/10/11/12/14/15	
PCI/VGA Palette Snoop	Disabled		Enabled		Disabled		Enabled	
USB IRQ	Disabled		Enabled		Disabled		Enabled	
VGA BIOS Sequence	No		Yes		No		Yes	
PCI/PNP ISA IRQ Resource Exclusion								
IRQ 3 Used By ISA	No/ICU		Yes		No/ICU		Yes	
IRQ 4 Used By ISA	No/ICU		Yes		No/ICU		Yes	
IRQ 5 Used By ISA	No/ICU		Yes		No/ICU		Yes	
IRQ 7 Used By ISA	No/ICU		Yes		No/ICU		Yes	
IRQ 9 Used By ISA	No/ICU		Yes		No/ICU		Yes	
IRQ 10 Used By ISA	No/ICU		Yes		No/ICU		Yes	
IRQ 11 Used By ISA	No/ICU		Yes		No/ICU		Yes	
IRQ 12 Used By ISA	No/ICU		Yes		No/ICU		Yes	
IRQ 14 Used By ISA	No/ICU		Yes		No/ICU		Yes	
IRQ 15 Used By ISA	No/ICU		Yes		No/ICU		Yes	
PCI/PNP ISA DMA Resource Exclusion								
DMA 1 Used By ISA	No/ICU		Yes		No/ICU		Yes	
DMA 3 Used By ISA	No/ICU		Yes		No/ICU		Yes	
DMA 5 Used By ISA	No/ICU		Yes		No/ICU		Yes	
PCI/PNP ISA UMB Resource Exclusion	No ICU	C800/CC00 /D000/ D400/ D800/ DC00			No ICU	C800/CC00 /D000/ D400/ D800/ DC00		
ISA MEM Block BASE	8K	16K	32K	64K	8K	16K	32K	64K

Shadow Configuration サブメニュー画面

項目	購入時の設定				変更内容			
Video ROM BIOS Shadow	Disabled		Enabled		Disabled		Enabled	
C8000-CBFFF Shadow	Disabled		Enabled		Disabled		Enabled	
CC000-CFFFF Shadow	Disabled		Enabled		Disabled		Enabled	
D0000-D3FFF Shadow	Disabled		Enabled		Disabled		Enabled	
D4000-D7FFF Shadow	Disabled		Enabled		Disabled		Enabled	
D8000-DBFFF Shadow	Disabled		Enabled		Disabled		Enabled	
DC000-DFFFF Shadow	Disabled		Enabled		Disabled		Enabled	

Power メニュー画面

項目		購入時の設定			変更内容		
Power Management		Max Saving	Min Saving	Disabled User Define	Max Saving	Min Saving	Disabled User Define
Video Off Option		Suspend->Off	Always On		Suspend->Off	Always On	
Video Off Method		V/H SYNC+Blank	DPMS Standby	DPMS Suspend DPMS OFF Blank Screen	V/H SYNC+Blank	DPMS Standby	DPMS Suspend DPMS OFF Blank Screen
HDD Power Down		Disabled	()Min	Disabled	()Min
Suspend Mode		Disabled	()Min	Disabled	()Min
PWR Button < 4 Secs		Soft Off	Suspend		Soft Off	Suspend	
Power Up Control	AC PWR Loss Restart	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	
	PWR Up On Modern Act	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	
	Wake On LAN	Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	
	Automatic Power Up	Disabled	Everyday	By Date	Disabled	Everyday	By Date

Boot メニュー画面

項目		購入時の設定			変更内容		
() Removable Device		LegacyFloppy	LS-120	Disabled	LegacyFloppy	LS-120	Disabled
() IDE Hard Drive		Disabled	()		Disabled	()	
() ATAPI CD-ROM		Disabled	()		Disabled	()	
() Other Boot Device		Disabled	SCSI Boot Device		Disabled	SCSI Boot Device	
Plug & Play O/S		No	Yes		No	Yes	
Reset Configuration Data		No	Yes		No	Yes	
Boot Virus Detection		Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	
Quick Power On Self Test		Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	
Boot Up Floppy Seek		Disabled	Enabled		Disabled	Enabled	
Boot Up NumLock Status		Off	On		Off	On	

ソフトウェアの 再インストール


ソフトウェアを再インストールする
手順について説明します。

Windows 98 を使う場合

Windows98 やユーティリティソフトのインストール方法を説明します。
インストールは、お客様の使用条件に合わせて行うことができます。購入時とまったく同じ状態には戻りませんので注意が必要です。

インストールの準備

再インストールが必要な場合 Windows98インストールモデルで、Windows98の再インストールが必要なのは、次の場合です。

- 何らかの原因でWindows98が起動しなくなったとき
- お客様の好みに応じてデバイスドライバやソフトウェアなどをインストールし直したいとき
- HDD領域の構成を変更したいとき ( p.137「HDD領域の変更」)

本章のインストール手順は、工場出荷時のシステム構成を前提にしています。本機を購入後に市販の拡張カードなどを取り付けた場合には、インストール手順が異なる可能性があります。正常にインストールできない場合には、購入時のシステム構成に戻して実行してみてください。

必要なメディア ソフトウェアをインストールするには、次のフロッピーディスクとCD-ROMが必要です。

- Windows98起動ディスク
- FDISKコマンドやFORMATコマンドが登録されているディスクです。
- Microsoft Windows98 CD-ROM
- Microsoft Windows98が登録されているCD-ROMです。
- IntelliPointドライバディスク
- マウスドライバが登録されているディスクです。
- 3モードFDDドライバディスク
- 3モードFDDドライバが登録されているディスクです。
- ユーティリティCD
- コンピュータウイルスを検出・駆除するソフトウェアおよびVirusScan for Windows ユーザーズガイド(電子マニュアル)を表示するためのソフトウェア「Adobe Acrobat Reader」が登録されているCD-ROMです。
- 使用するオプション類に必要な各種ドライバディスク
- ディスプレイドライバやサウンドドライバなど、必要なドライバディスクは、お使いになるシステム構成によって異なります。

インストールの順番

ソフトウェアのインストールは次の順番で行います。



インストール時の注意

インストールを始める前に、次の点に注意してください。

- ドライブ名

本章の説明では、ドライブ構成が次のようになっているものとします。CD-ROMドライブのドライブ名は、HDD領域の数によって異なります。

Aドライブ:FDD

Cドライブ:HDD(基本MS-DOS領域)

Dドライブ:CD-ROMドライブ

- メーカー情報

Windows98を再インストールすると、コントロールパネルのシステムのプロパティに表示されていたメーカーロゴとサポート情報は消去されますので、あらかじめご了承ください。











基本MS-DOS領域のフォーマット

Windows98をインストールする領域(MS-DOS領域)をフォーマットします。
Windows98は、基本MS-DOS領域をフォーマットしてからインストールすることをお勧めします。







- 領域をフォーマットすると、その領域のデータはすべて消失します。必要なデータは、あらかじめバックアップを取ってからフォーマットを行ってください。
- フォーマットする前に、必ずWindows98のプロダクトキーを確認してください。Windows98をインストールする際には、プロダクトキーの入力が必要です。プロダクトキーは『Microsoft Windows98ファーストステップガイド』の表紙に記載されています。

基本MS-DOS領域をフォーマットするには、FORMATコマンドを使用します。
FORMATコマンドはWindows98起動ディスクに登録されています。

- 1 Windows98起動ディスク1をFDDにセットして、コンピュータを起動させます。
- 2 「Microsoft Windows98 Startup Menu」が表示されたら「2.Start computer without CD-ROM support」を選択して  を押します。
- 3 「キーボードのタイプを判定します。」と表示されたら、 を押します。
- 4 メッセージにしたがってWindows98起動ディスク2に入れかえます。
- 5 コマンドプロンプト(A:¥>)が表示されたら、次のとおり入力して  を押します。
FORMAT C:
- 6 「フォーマットしますか(Y/N)? 」と確認のメッセージが表示されたら、 を押して  を押します。フォーマットが開始されます。
- 7 フォーマットが終了すると、「ボリュームラベルを入力してください。」と表示されます。ボリュームラベルを入力して  を押します。
ボリュームラベルの初期設定は「WINDOWS_98」です。「WINDOWS_98」と入力して  を押します。(_ は  +  を押します)。必要のない場合は、そのまま  を押します。コマンドプロンプト(A:¥>)に戻り、フォーマットの処理が終了します。

Windows 98のインストール

Windows98のインストールは、次の手順で行います。

- 1 Microsoft Windows 98 起動ディスク1をFDDにセットします。
- 2 コンピュータの電源を入れるか再起動させます。
- 3 「Microsoft Windows 98 Startup Menu」が表示されます。「1. Start Computer with CD-ROM Support」を選択します。
- 4 「キーボードのタイプを判定します。」と表示されたら  を押します。
- 5 Microsoft Windows 98 起動ディスク2に入れ替え、どれかキーを押します。
- 6 コマンドプロンプト(A:¥>)が表示されたら、Windows 98 CD-ROMをCD-ROMドライブにセットして、「E:」と入力し、 を押します。
(ここでは一時的にCD-ROMドライブのドライブレターが変わります。たとえば、CD-ROMドライブがDドライブの場合、Eドライブになります。)
- 7 コマンドプロンプトが「E:¥>」に変わったら、次のとおり入力して  を押します。
SETUP /PJ (は、スペースを意味します。)
ACPI機能を使用しない場合は、「SETUP」と入力します。
ACPI機能
ACPI(Advanced Configuration and Power Interface)とは、コンピュータのハードウェア、OS、周辺機器が省電力に関するインタフェースを決めて、直接OSが電源管理を行うものです。工場出荷時の設定は有効になっています。
- 8 「Microsoft Windows 98 セットアップ」画面が表示されたら、画面の指示にしたがってセットアップを行います。
 『Microsoft Windows 98ファーストステップガイド』の「Windows 98のインストール」

- 起動ディスクの作成
起動ディスクはすでに作成してあるので、[次へ]をクリックし、「ディスクの挿入」画面が表示されたら[キャンセル]をクリックします。
- 9 「コピー開始」が表示されたら、[次へ]をクリックします。Windows98ファイルのコピーが始まります。
- 10 ファイルのコピーが終了すると、コンピュータが自動的に再起動します。
- 11 コンピュータが再起動したら、各項目の設定をします。
- ユーザー情報
ここでは「名前」を必ず入力してください。
 - 使用許諾契約
画面に表示された契約内容に同意するかしないかを設定します。
 - プロダクトキー
プロダクトキーは、「Windows98ファーストステップガイド」の表紙に記載されている英数字を入力します。
- 12 「ウィザードの開始」が表示されたら、[完了]をクリックします。ハードウェアの設定が終了すると、コンピュータが自動的に再起動します。
- 13 画面の指示にしたがって、「Windows98セットアップ」を行います。Windowsのセットアップが終了すると、コンピュータが自動的に再起動します。これでWindows98のインストールは終了です。

DMA転送の設定

IDE HDDとIDE CD-ROMドライブへの転送処理速度を上げるために、次の設定を行います。HDDやCD-ROMドライブのほかにもATAPI IDE機器が接続されている場合も、同様の手順で設定を行ってください。

- 1 コントロールパネルの[システム]アイコンをダブルクリックします。
- 2 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 3 「ディスクドライブ」項目をダブルクリックします。
- 4 「GENERIC IDE DISK TYPE 47」をダブルクリックします。
- 5 「設定」タブをクリックします。
- 6 オプションの「DMA」にチェックをつけると、「サポートされていないハードウェアの注意」画面が表示されます。[OK]をクリックします。
- 7 もう一度 [OK] をクリックしてプロパティ画面を閉じます。
- 8 「CD-ROM」項目をダブルクリックします。
- 9 表示されたデバイス名をダブルクリックします。
デバイス名は、使用しているモデルにより異なります。
- 10 「設定」タブをクリックします。
- 11 オプションの「DMA」にチェックをつけると、「サポートされていないハードウェアの注意」画面が表示されます。[OK]をクリックします。
- 12 もう一度 [OK] をクリックしてプロパティ画面を閉じます。
- 13 [閉じる] をクリックすると、「再起動しますか?」とメッセージが表示されます。[はい] をクリックします。Windowsが再起動したら、設定は完了です。

マウスドライバのインストール

ホイール付きマウスドライバのインストールは、次の手順で行います。

- 1 IntelliPoint ドライバディスクをFDDにセットします。
- 2 コントロールパネルの「システム」をダブルクリックします。
- 3 「デバイスマネージャ」タブの「マウス」をダブルクリックし、「PS/2 互換マウスポート」をダブルクリックします。
- 4 「ドライバ」タブの[ドライバの更新]をクリックします。
- 5 「デバイスドライバの更新ウィザード」で、[次へ]をクリックします。
- 6 「特定の場所にある…」にチェックを付けて、[次へ]をクリックします。
- 7 [ディスク使用]をクリックし、「ファイルのコピー元」に「A:¥AT」と入力して[OK]をクリックします。
- 8 モデルから「Microsoft PS/2 Mouse with Wheel」を選択して、[次へ]をクリックします。
- 9 「ドライバ更新の警告」画面で「...選択したドライバを使用しますか?」と表示されたら、[はい]をクリックします。
- 10 「次のデバイス用のドライバファイルを検索します。」と表示されたら[次へ]をクリックします。ファイルのコピーが始まります。
- 11 「ハードウェアデバイス用に選択したドライバがインストールされました。」と表示されたら[完了]をクリックします。
- 12 「...今すぐ再起動しますか?」と表示されたらFDを抜き [はい] をクリックします。
- 13 Windowsが再起動したら IntelliPoint ドライバディスクを再びFDDにセットします。

- 14 [スタート]をクリックし、「ファイル名を指定し実行」をクリックします。
- 15 「名前」に「A:¥SETUP」と入力して、[OK]をクリックします。
- 16 「Microsoft IntelliPoint セットアップ」画面が表示されたら、画面の指示にしたがってインストールを続行します。
- 17 「Microsoft IntelliPointのセットアップを完了するためには...。」と表示されたら、FDを抜き、[コンピュータを再起動する]をクリックします。

3モードFDDドライバのインストール

Windows 98用3モードFDDドライバのインストールは次の手順で行います。

- 1 [スタート] - [設定]のサブメニューから「コントロールパネル」をクリックします。
- 2 コントロールパネルの「ハードウェアの追加」アイコンをダブルクリックします。
- 3 「新しいハードウェアの追加ウィザード」画面が表示されたら、[次へ]をクリックします。
- 4 「システムにあるプラグアンドプレイ機器を検索します...」と表示されたら、[次へ]をクリックします。
- 5 「新しいハードウェアを自動的に検出しますか」に対して[いいえ]をクリックし、[次へ]をクリックします。
- 6 「ハードウェアの種類」の表示をスクロールして「フロッピーディスクコントローラ」をクリックし、[次へ]をクリックします。
- 7 [ディスク使用]をクリックします。
- 8 「3モードFDDドライバディスク」をFDDに挿入し、「配布ファイルのコピー元」欄に「A:¥」と表示されている状態で[OK]をクリックします。



- 9 「モデル」の表示をスクロールしてお使いの機種用のドライバ名をクリックし、[次へ]をクリックします。
- 10 [完了]をクリックすると、必要なファイルのコピーが行われます。
- 11 「今すぐ再起動しますか?」と表示されたらFDを抜き、[はい]をクリックして、Windows 98を再起動します。
- 12 コントロールパネルの「システム」アイコンをダブルクリックし、「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
- 13 「フロッピーディスクコントローラ」をダブルクリックします。ここで、手順9で選択したドライバ名が追加されていれば、インストールは完了です。

各種ドライバのインストール

お使いになるシステム構成によって、ドライバやユーティリティのインストールが必要です。本機でお使いになるオプション類のマニュアル、Windowsのヘルプやファーストステップガイドをご覧ください。各ドライバのインストール作業を行ってください。



参考

必要なドライバやユーティリティはお客様がお使いになる仕様によって異なります。たとえば、次のようなドライバやユーティリティが必要になります。

- ビデオカードを装着する場合：ディスプレイドライバ
- サウンドカードを装着する場合：サウンドドライバやオーディオアプリケーションユーティリティなど
- ネットワークカードを装着する場合：ネットワークドライバ
- SCSIカード・SCSI機器を装着する場合：SCSIドライバやSCSIユーティリティなど

WindowsNT4.0を使う場合

WindowsNT4.0や各種ソフトウェアのインストール方法について説明します。インストールは、お客様の使用条件に合わせて行うことができます。購入時とまったく同じ状態には戻りませんので注意が必要です。

インストールの準備

再インストールが必要な場合 WindowsNT4.0インストールモデルで、WindowsNT4.0の再インストールが必要なのは、次の場合です。

何らかの原因でWindowsNT4.0が起動しなくなったとき

お客様の好みに応じてデバイスドライバやソフトウェアなどをインストールし直したいとき

HDD領域の構成を変更したいとき

本章のインストール手順は、工場出荷時のシステム構成を前提にしています。本機を購入後に市販の拡張カードなどを取り付けた場合には、インストール手順が異なる可能性があります。正常にインストールできない場合には、購入時のシステム構成に戻して実行してみてください。

必要なメディア ソフトウェアをインストールするには、次のFDとCD-ROMが必要です。

- WindowsNT4.0 CD-ROM

Microsoft Windows NTが登録されているCD-ROMです。

- WindowsNT4.0 Service Pack5 CD-ROM

WindowsNT4.0を最新版にアップデートするCD-ROMです。

- Microsoftインテリマウスセットアップディスク

マウスドライバが登録されているディスクです。

- 3モードFDDドライバディスク

3モードFDDドライバが登録されているディスクです。

- ユーティリティCD

コンピュータウイルスを検出・駆除するソフトウェアおよびVirusScan for Windowsユーザーズガイド(電子マニュアル)を表示するためのソフトウェア「Adobe Acrobat Reader」が登録されているCD-ROMです。

- 使用するオプション類に必要な各種ドライバディスク

ディスプレイドライバやサウンドドライバなど、必要なドライバディスクは、お使いになるシステム構成によって異なります。

インストールの順番



制限

ネットワークカードを使用する場合、ネットワークドライバのインストールは、必ず Windows NT 4.0のアップデートをする前に行ってください。順番が違っているとシステムが正常に動作しない場合があります。

ソフトウェアのインストールは次の順番で行います。



インストール時の注意

インストールを始める前に、次の点に注意してください。

- HDD領域のサイズ
 - 購入時に2GBを越えるHDDが搭載されている場合は、先頭の2GBに基本MS-DOS領域を作成してあります。Windowsはこの領域にインストールしてあります。


- 8GBを越える容量のHDDを装着している場合、WindowsNT4.0上ではHDDの容量が8GBと表示されます。HDD容量を正しく表示させるには、WindowsNT4.0のインストール後にService Pack5をインストールする必要があります。
- ドライブ名
本章の説明では、ドライブ構成が次のようになっているものとします。CD-ROMドライブのドライブ名は、HDD領域の数によって異なります。
Aドライブ:FDD
Cドライブ:HDD(基本MS-DOS領域)
Dドライブ:CD-ROMドライブ
- 複数のCD-ROM装着時
本機に、IDE接続のCD-ROMまたはCD-RW、DVD-ROMなどを複数装着している場合、WindowsNT4.0のインストールは、必ずマスタ設定のドライブから行ってください。スレーブ設定のCD-ROMからは、インストールすることができません。








WindowsNT4.0のインストール

基本MS-DOS領域にWindowsNT4.0をインストールします。

インストール中にHDD領域の変更や、フォーマットが行えます。HDDの領域変更は、通常行う必要がありません。

WindowsNT4.0のインストールの詳細については『WindowsNT4.0ファーストステップガイド』をご覧ください。

- 1 CD-ROMドライブから起動させるため、CD-ROMドライブの起動優先順位を上げます。
通常は、BIOS Setupユーティリティの「Bootメニュー画面」で「1.Removable Device」「2.ATAPI CD-ROM」「3.IDE Hard Drive」「4.Other Boot Device」の順番に変更します。システムの構成により、異なる場合があります。
 p.89「Bootメニュー画面」
- 2 「Microsoft WindowsNT4.0 CD-ROM」をCD-ROMドライブにセットします。

- 3 コンピュータの電源を入れるか再起動させます。
- 4 「セットアップへようこそ」画面が表示されたら、を押して続行します。
- 5 大容量記憶装置を追加して指定するかどうかを選択します。通常は  を押します。
- 6 「WindowsNT ライセンス契約」が表示されたら、契約内容に同意するか、しないかを設定します。
- 7 HDDにWindowsNT 4.0がインストールされている場合は次のメッセージが表示されます。
「ハードディスクドライブの次のディレクトリにWindowsNTが見つかりました。」
新規でインストールする場合は、を押します。
上書きでインストールする場合は  を押します。この場合は手順13に移ります。
- 8 「キーボードの種類を特定するために、以下のいずれかのキーを押してください」と表示されたら、を押します。
- 9 コンピュータ内のハードウェアとソフトウェアの確認を行います。
一覧の項目がすべて正しい場合は「上記の一覧は使用中のコンピュータと一致します。」を選び、を押します。
- 10 「Windowsをインストールするパーティションを選択してください...。」と表示されます。通常は「C:」を選択して  を押します。
HDDの領域変更を行う場合はここで、画面のメッセージにしたがってパーティションの削除と作成を行ってください。
購入時のHDD領域は、FATファイルシステムを使用して、2GB(2047MB)で作成してあります。
- 11 選択したパーティションをフォーマットします。工場出荷時の設定は「FATファイルシステム」です。
WindowsNT4.0がインストールされている場合に「現在のファイルシステムをそのまま使用する」を選択すると上書きインストールを行います。

- 12 「WindowsNTのインストール先を指定します。通常はこのまま を押します。
- 13 「セットアップはハードディスクに壊れたファイルがあるかどうか検査します。」と表示されます。
 詳細な二次検査を実行する場合は 、スキップする場合は を押します。
- 14 「ここまでのセットアップは正常に終了しました」と表示されたらCD-ROMを取り出して を押し、コンピュータを再起動させます。
- 15 コンピュータが再起動したら、「Microsoft WindowsNT4.0 CD-ROM」をCD-ROMドライブにセットします。
- 16 「WindowsNT Workstation セットアップ」画面が表示されます。画面の指示にしたがってセットアップを行います。
 名前と組織名
 ここでは「名前」を必ず入力してください。
 登録
 「WindowsNT4.0ファーストステップガイド」の表紙に記載されている「プロダクトID」を入力します。
 コンピュータ名
 必ず入力してください。
 パスワード
 システム修復ディスクの作成
 このディスクは、セットアップ後にも作成できますが、ここで作成することをおすすめします。
 ネットワークへの参加
 「まだネットワークに接続しない」を選択して をクリックします。
 検出されたディスプレイ
 をクリックして「画面のプロパティ」を閉じます。
- 17 「WindowsNT 4.0は正常にインストールされました」と表示されたら、CD-ROMを取り出し、コンピュータを再起動します。これでWindowsNT 4.0のインストールは終了です。
- 18 BIOS Setup ユーティリティの「Bootメニュー画面」を元の順番に戻します。

WindowsNT4.0のアップデート



ネットワークカードを使用する場合は、ネットワークドライバをインストール後に、必ずService Pack5のインストールを行ってください。

WindowsNT4.0を最新版にアップデートします。

Service Pack5 のインストール

- 1 「WindowsNT4.0 Service Pack5 CD Disk1」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 「WindowsNT4.0 SP5」の画面が表示されたら、画面右上の ☐ をクリックして画面を閉じます。
- 3 [スタート] をクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
- 4 「名前」に「D:¥I386¥UPDATE¥UPDATE」と入力し、[OK] をクリックします。(¥I386 の I はアルファベット)
- 5 画面の指示にしたがってセットアップを行います。
「WindowsNT4.0 Service Pack5ようこそ」画面下の「後でこのServicePackをアンインストールできるように...。」には次のとおりチェックをつけます。
WindowsNT4.0のインストール後に初めてSP5をインストールする場合
：チェックをつけます。
ドライバなどをインストール後に再度SP5をインストールする場合
：チェックをつけません。
- 6 「インストールは完了しました。」と表示されたら[再起動]をクリックして、Windowsを再起動します。

Internet Explorer (IE) 4.01 SP2の インストール

- 1 「WindowsNT4.0 Service Pack5 CD Disk1」をCD-ROMドライブにセットします。
- 2 [スタート] をクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。

- 3 「名前」に「D:¥MSIE401¥I386¥IE4SETUP」と入力し、[OK]をクリックします。(¥I386のIはアルファベット)
- 4 画面の指示にしたがってセットアップを行います。
デスクトップのアップデートを行うと、アクティブデスクトップが有効になります。
- 5 「コンピュータを再起動する必要があります。…」と表示されたら[OK]をクリックします。再起動するとIE4.01SP2のインストールは完了です。

マウスドライバのインストール

ホイール付きマウスドライバのインストールは次の手順で行います。

- 1 「Microsoftインテリマウスセットアップディスク」をFDDにセットします。
- 2 [スタート]をクリックし、「ファイル名を指定し実行」をクリックします。
- 3 「名前」に「A:¥SETUP」と入力して、[OK]をクリックします。
- 4 画面の指示にしたがってインストールを続行します。
- 5 「IntelliPointのセットアップを完了するためには…」と表示されたら、FDを抜き、[コンピュータを再起動する]をクリックします。
- 6 コントロールパネルの[キーボード]をダブルクリックします。
- 7 「全般」タブをクリックし、続けて[変更]をクリックします。
- 8 「すべてのデバイスを表示」にチェックを付けます。
- 9 一覧から「PC/AT 106日本語(A01)キーボード(Ctrl+英数)」を選択して[OK]をクリックします。

- 10 「ディスクの挿入」画面が表示されたら、WindowsNT4.0 CD-ROMをセットします。
- 11 「WindowsNTセットアップ」画面が表示されたら、画面右上の ☐ をクリックして画面を閉じます。
- 12 「ディスクの挿入」画面で をクリックします。ファイルがコピーされます。
- 13 「キーボード」画面を閉じると「...今すぐ再起動しますか?」と表示されたら をクリックします。
- 14 Windowsが再起動したら再び「Microsoftインテリマウスセットアップディスク」をFDDにセットします。
- 15 コントロールパネルの をダブルクリックします。
- 16 「全般」タブをクリックし、続けて をクリックします。
- 17 をクリックし、ファイルのコピー元に「A:¥AT」と入力します。
- 18 モデルから「Microsoft PS/2 Mouse with Wheel」を選択して をクリックします。
- 19 コピーが終了したら「マウス」画面を閉じます。
- 20 「再起動しますか?」と表示されたらFDを抜いて をクリックします。
- 21 Windowsから再起動したらマウスドライバのインストールは終了です。

3モード FDD ドライバのインストール

WindowsNT4.0 用3モードFDDドライバのインストールは、次の手順で行います。

- 1 「スタート」をクリックし、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。
名前に「C:¥WINNT¥SYSTEM32¥DRIVERS」と入力して[OK]をクリックします。
- 2 driversフォルダの中の「floppy.sys」を「floppy.org」にファイル名の変更をします。
「floppy.sys」が表示されていない場合は、「表示」メニューの「フォルダオプション」-「表示」タブをクリックして、「すべてのファイルを表示」をクリックし、表示させます。
- 3 3モードFDDドライバディスクをFDDにセットします。
- 4 ドライバディスクの中の「floppy.sys」をHDDの「¥WINNT¥SYSTEM32¥DRIVERS」にコピーします。
- 5 FDを抜いてWindowsNTを再起動します。これで3モードFDDドライバが有効になります。
3モードFDDドライバを無効にする場合は、「floppy.sys」を削除したのちに、もとのFDDドライバ「floppy.org」を「floppy.sys」にファイル名の変更をしてWindowsNTを再起動してください。

各種ドライバのインストール

お使いになるシステム構成によって、ドライバやユーティリティのインストールが必要です。本機でお使いになるオプション類のマニュアル、Windowsのヘルプやファーストステップガイドをご覧になって、各ドライバのインストール作業を行ってください。



参考

必要なドライバやユーティリティはお客様がお使いになる仕様によって異なります。たとえば、次のようなドライバやユーティリティが必要になります。

- ビデオカードを装着する場合：ディスプレイドライバ
- サウンドカードを装着する場合：サウンドドライバやオーディオアプリケーションユーティリティなど
- ネットワークカードを装着する場合：ネットワークドライバ
- SCSIカード・SCSI機器を装着する場合：SCSIドライバやSCSIユーティリティなど

こんなときは

困ったときに
警告メッセージが表示されたら

困ったときに

困ったときの確認事項と対処方法を説明します。不具合が発生した場合に参考にしてください。

起動時の不具合



制限

電源スイッチをオフにしてからオンにする場合には、オンにするまで20秒程度の間隔を開けてください。本機には電源電圧などを管理するシステム管理機能が搭載されています。このため20秒以内に電源をオンにすると、電源が異常と判断され、正常にシステムが起動しなくなることがあります。このような場合には、一度電源をオフにし20秒以上待ってから電源をオンにすれば正常に起動します。

現象

電源ランプが点灯しない。

確認と対処

電源コードが正しく接続されているか確認します。

 p.8「コンピュータの設置」

電源コンセントに電源が供給されているか確認します。ほかの電気製品を接続して確認してください。

電源コード、電源コンセントに問題がない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

現象

ディスプレイに何も表示されない。

確認と対処

ディスプレイの電源ランプが点灯しているか確認します。ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

ディスプレイの接続コードがコンピュータに正しく接続されているか確認します。

 p.8「コンピュータの設置」


ディスプレイの画面の明るさやコントラストを調節してください。ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

現象

画面にエラーメッセージが表示される。

確認と対処

起動時の自己診断テストの結果、ハードウェアに問題が発生している可能性があります。

 p.127「警告メッセージが表示されたら」

エラーメッセージを確認して問題点が解決できない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

現象


次のようにパスワードの入力が要求される。また、パスワードを入力しても起動しない。


Enter Password:

確認と対処

BIOS Setupユーティリティでパスワードを解除してください。

 p.82「Passwordの設定」

パスワードを正しく入力しているか確認します。数値キーを使用している場合、 の状態により数値キーが正しく入力されていない場合があります。

 p.26「キーボードを使う」

パスワードを忘れてしまった場合には、強制的に解除することができます。

 p.132「CMOS RAMの初期化」

現象

次のようなメッセージが表示されてWindowsなどのOSが起動しない。

DISK BOOT FAILURE,INSERT SYSTEM DISK AND PRESS ENTER

確認と対処

システムが登録されたFDをセットして、HDDが正常に認識されているか確認してください。

 p.122「HDDの不具合」

HDDを増設したあと起動しなくなった場合には、HDDが正しく装着されているか確認します。

 p.122「HDDの不具合」


キーボードの不具合

現象

数値キーを押しても数値が入力されない。

確認と対処

数値キーは  の状態により機能が変わります。

 p.26「キーボードを使う」

現象

どのキーを押しても応答がない。

確認と対処

キーボードが正しく接続されているか確認します。キーボードの接続は電源を入れる前に行ってください。

 p.8「コンピュータの設置」

アプリケーションソフトが時間のかかる処理を実行している可能性もあります。アプリケーションソフトのマニュアルをご覧ください。

マウスを操作してください。マウスで操作できる場合もあります。

プログラムが暴走している可能性もあります。このような場合には **Ctrl** + **Alt** + **Delete** でリセットしてください (WindowsNTは除く)。OSによってはメッセージを表示する場合がありますので指示にしたがってください。

 p.22「電源の切り方」

リセットしても反応がない場合には、電源スイッチをオフにして再起動してください。

 p.22「電源の切り方」

マウスの不具合

現象

OSやアプリケーションソフトでマウスカーソルが表示されない。

確認と対処

マウスが正しく接続されているか確認します。

 p.8「コンピュータの設置」


MS-DOSアプリケーションでマウスを使用する場合は、マウスドライバをインストールする必要があります。

現象

マウスカーソルの動きが悪い。

確認と対処

マウスのクリーニングを行ってください。

 p.130「マウスのお手入れ」


ディスプレイの不具合

現象

使用中に何も表示されなくなった。

確認と対処

ディスプレイが省電力モードになっている可能性があります。キーボードのスペースキーを押すか、または電源ランプ点滅時に電源スイッチを押すと復帰します。

 p.45「パワーマネジメント機能」

ディスプレイの画面の明るさやコントラストを調節してください。ディスプレイに添付のマニュアルをご覧ください。

ディスプレイの接続コードがコンピュータに正しく接続されているか確認します。

 p.8「コンピュータの設置」

ディスプレイの故障の場合には、ディスプレイの販売会社などにご確認ください。

現象

画面の解像度などを変更したあと、画面が乱れたり何も表示しなくなった。

確認と対処

ディスプレイの選択を誤っている可能性があります。ディスプレイのマニュアルを参照して確認してください。

使用中のディスプレイでは、表示できない解像度を選択した可能性があります。Windows98の場合はSafeモードで、Windows NTの場合はVGAモードで起動し直してみてください。

Windows98をSafe modeで起動する方法は、次のとおりです。Safe modeは、Windows98を基本的な設定で起動するモードです。

Safe modeでの
起動（Windows
98の場合）

- 1 コンピュータの電源を切り、20秒程放置した後、電源を入れた直後に **Ctrl** を押し続けます。
- 2 「Microsoft Windows98 Startup Menu」が表示されたら、「3.Safe mode」を選択し、**↵**を押します。
- 3 画面の指示にしたがって、操作します。

Windows NT4.0をVGAモードで起動する方法は、次のとおりです。

VGAモードでの
起動（Windows
NT4.0の場合）

- 1 コンピュータの電源を切り、20秒程放置した後、電源を入れます。
- 2 「オペレーティングシステムの起動」が表示されたら「Windows NT...[VGA mode]」を選択します。

FDDの不具合

現象

FDに正常にアクセスできない。

確認と対処

次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FDが正しくセットされていない可能性があります。正しくセットし直してください。

A:¥
デバイスの準備ができていません。
[OK]

A:¥にアクセスできません。
デバイスの準備ができていません。
[再試行] [キャンセル]

次のようなエラーメッセージが表示される場合には、FDがフォーマットされていないか、DOS/V機以外のコンピュータで使用しているFDの可能性があります。

ドライブAのディスクはフォーマットされていません。
今すぐフォーマットしますか？
[はい] [いいえ]

新しいFDを使用する場合はフォーマットする必要があります。FDをフォーマットする前には、必ず重要なデータが登録されていないことを確認してください。

現象

正常に読み書きできない。

確認と対処


別のFDで読み書きを行ってください。正常に読み書きできる場合は、最初のFDに異常があることが考えられます。


現象

FDに書き込みできない。



確認と対処

ライトプロテクトされていないか確認します。

 p.30「フロッピーディスクドライブ(FDD)を使う」

現象	3.5型1.2MBフォーマットのFDが使用できない。
確認と対処	<p>1.2MBフォーマットのFDを使用するには3モードFDDドライバをインストールする必要があります。</p> <p> p.30「フロッピーディスクドライブ(FDD)を使う」</p>
現象	FDDから異常な音がする。
確認と対処	販売店、サービスセンターまたは修理センターにご連絡ください。

HDDの不具合

現象	それまで問題なく使用していたHDDが認識されなくなった。
確認と対処	<p>HDDに問題が発生している可能性があります。IDE HDDの場合はBIOS Setupユーティリティを実行してHDDの設定を確認してください。</p> <p> p.80「Mainメニュー画面」</p>
現象	特定のファイルのみ読み書きできなくなった。
確認と対処	ファイルのデータが壊れているおそれがあります。HDDのメンテナンスユーティリティなどを実行してください。
現象	上記のような現象が頻繁に発生する。
確認と対処	<p>必要なファイルのバックアップを取ってから、HDDをフォーマットし直してください。HDDをフォーマットしても改善されない場合には販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターにご連絡ください。</p>
現象	増設したHDDが使用できない。
確認と対処	<p>HDDを使用するにはHDDを初期化する必要があります。初期化には領域確保とフォーマットがあります。また確保した領域は「使用可能」状態に設定する必要があります。</p> <p>増設したHDDの設定(マスタ/スレイブ)、接続しているコネクタ(プライマリ/セカンダリ)、HDDの電源ケーブルを確認します(IDE HDDの場合)。</p> <p> p.69「ドライブ装置の装着」</p>

IDE HDDを増設した場合は、BIOS SetupユーティリティでHDDの仕様を設定してください(IDE HDDの場合)。

 p.80「Mainメニュー画面」

現象 HDDからWindowsなどのOSが起動しない。

確認と対処 起動するHDDの順番が正しく設定されているか確認してください。

 p.89「Bootメニュー画面」

SCSI HDDだけ接続している場合には、起動するSCSI HDDのSCSI IDを設定する必要があります。詳しくはSCSIカードのマニュアルをご覧ください。

CD-ROMドライブの不具合

現象 セットしたCDにアクセスできない。

確認と対処 CDには、CD-ROM、音楽CD、ビデオCD、フォトCDなどがあります。コンピュータの記録メディアとしてそのまま利用可能なのはCD-ROMだけです。そのほかのCDをアクセスするためには専用のソフトウェアが必要になります。Windows には音楽CDを再生するソフトウェアとして「CDプレイヤー」が標準で添付されています。

現象 音楽用CDの音が聞こえない。

確認と対処 CD-ROMドライブのオーディオコネクタとサウンドカードが接続されているか確認します。

ボリュームコントロールが「ミュート」または「レベル0」に設定されていないか確認します。

アプリケーションソフトの不具合

現象

アプリケーションソフトの使用中に突然停止(ハングアップ)した。

確認と対処

過度の電源ノイズ、瞬時電圧低下などが発生した可能性があります。電源ノイズによる現象には、ディスプレイのノイズ、システムの再起動、停止(ハングアップ)などが含まれます。アプリケーションソフトを再度実行してみてください。

ケーブルの接続不良や、キーボード内のごみやほこり、電源の出力不安定、もしくはその他の部品の不良によって不具合が発生する場合があります。点検を行ってみてください。

HDDに対するデータの読み書きの最中に振動が加わると、システムがハングアップする場合があります。

現象

アプリケーションソフトが起動しない。

確認と対処

アプリケーションソフトの起動に必要とされるシステムリソース(メモリ容量やHDDの使用可能な容量など)が整っているか確認してください。エラーメッセージなどが表示される場合は、アプリケーションソフトのマニュアルを参照して必要な対処を行ってから、再度起動してみてください。

アプリケーションソフトを正しい方法でインストールしたか、アプリケーションソフトの起動手順を正しく実行しているか確認してください。

実行しようとしているディレクトリが正しいか確認してください。FDから起動しようとしている場合は、ドライブおよびディレクトリの指定が正しく行われているか確認してください。

アプリケーションソフトのコピーを作成し、同じ現象が起こるか確認してください。

アプリケーションソフトの使用許諾を受けていない場合(違法コピーなど)、アプリケーションソフトが動作しないことがあります。アプリケーションソフトの正式版を使用してください。


アプリケーションソフトの使用方法をもう一度確認してください。それでもアプリケーションソフトの不具合が解決できないときは、アプリケーションソフトの販売元にお問い合わせください。

メモリの不具合

現象 メモリチェックで表示されるメモリ容量が実際の容量と違っている。

確認と対処 DIMMを増設した場合は、DIMMのタイプが合っているか、ソケットの奥までしっかりと差し込まれているか確認してください。

BIOS Setupユーティリティを実行し、メモリ仕様を確認してください。

 p.84「Advancedメニュー画面」

購入時から不具合がある場合は、販売店、サービスセンターまたは修理センターまでご連絡ください。

拡張カード、周辺装置の増設に関する不具合

現象 拡張カード、周辺装置を増設したらコンピュータの動作がおかしくなった。

確認と対処 増設した装置が対応する拡張スロットおよびコネクタに正しく装着されているか確認してください。

増設した装置のジャンプスイッチやディップスイッチの設定が正しいことを確認してください。例えば、同じIRQ信号を2つ以上の拡張カードで重複して設定しているとコンピュータは正しく動作しません。詳細は拡張カード、周辺装置に添付のマニュアルをご覧ください。

Windows98 では、「コントロールパネル」-「システム」-「デバイスマネージャ」でIRQ信号やDMAがどのように設定されているか確認することができます。

周辺装置を追加するために拡張カードを装着した場合、周辺装置と拡張カードの接続が正しいか、正しいケーブルを使用しているかを確認してください。

拡張カードによっては、拡張スロットに装着するだけでなく、メインボードやコンピュータのコネクタとの接続が必要な場合があります。拡張カードのマニュアルを確認してください。

拡張カードを使用するアプリケーションソフトが正しく実行されているか確認してください。アプリケーションソフトのマニュアルをご覧ください。

プリンタの不具合

現象

印刷できない。

確認と対処

プリンタの電源および印刷するための準備が完了していることを確認してください。

プリンタのディップスイッチまたはコントロールパネルの設定が正しいかどうか、プリンタのマニュアルで確認してください。

Windowsではプリンタドライバをインストールする必要があります。プリンタドライバのインストール方法についてはプリンタに添付のマニュアルをご覧ください。

スピーカの不具合

現象

システムは正常に動作しているのにブザーの音がしない。

確認と対処

スピーカの不良が考えられます。販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。


その他の不具合

現象

BIOS Setupユーティリティの情報、日付、時間などの設定が変わってしまう。



確認と対処

本体内部のリチウム電池の残量が少なくなり、データを保持できなくなっている可能性があります。リチウム電池を交換してください。

 p.133「リチウム電池の交換」

警告メッセージが表示されたら

本機は、起動時に本体内蔵の自己診断テストを行い、内部ハードウェアの状態を診断します。起動時に次の警告メッセージが表示された場合には、各警告メッセージの処置を行ってください。それでも直らない場合には、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

警告メッセージ	説明
BIOS ROM checksum error - System halted.	BIOS ROM内のアドレスF0000H-FFFFFHの領域に不具合があります。コンピュータの電源を切り、約20秒待ってから再起動してみてください。それでもこのエラーが生じるときは、リチウム電池の残量が少なくなっている可能性があります。リチウム電池を交換してみてください。  p.133「リチウム電池の交換」
CMOS BATTERY HAS FAILED	データ保持用のリチウム電池の残量が少なくなっており、交換が必要です。リチウム電池を交換してください。  p.133「リチウム電池の交換」
CMOS CHECKSUM ERROR	BIOS RAMの設定値のエラー検出のためのチェックサムと、実際の設定値のチェックサムが違っています。BIOS Setupユーティリティを実行してください。それでもこのエラーが生じるときは、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。
FLOPPY DISK(S) fail(80)	FDDが初期化できません。コンピュータの電源をオフにし、約20秒待ってから再起動してみてください。
FLOPPY DISK(S) fail(40)	BIOS Setupユーティリティで指定したFDDのドライブタイプと、装着されているFDDが異なっています。BIOS Setupユーティリティを起動し、FDDのドライブタイプを正しく設定し直してください。
Hard Disk(s) fail(80)	HDDの初期化に失敗しました。コンピュータの電源をオフにし、約20秒待ってから再起動してみてください。
Hard Disk(s) fail(40)	HDDコントローラに異常が見つかりました。コンピュータの電源をオフにし、約20秒待ってから再起動してみてください。
Hard Disk(s) fail(20)	HDD初期化ができません。コンピュータの電源をオフにし、約20秒待ってから再起動してみてください。
Hard Disk(s) fail(10)	HDDのキャリブレーションができません。コンピュータの電源をオフにし、約20秒待ってから再起動してみてください。
Hard Disk(s) fail(08)	HDDのセクタのベリファイができません。コンピュータの電源をオフにし、約20秒待ってから再起動してみてください。
Keyboard error or no keyboard present	キーボードを初期化できません。キーボードが正しく接続されているか確認してください。コンピュータの起動中はキーボードのキーは押さないでください。意図的にキーボードなしで使用する場合には、BIOS Setupユーティリティで、エラーチェックの設定を"Halt On: All but Keyboard(キーボード関連以外のエラーチェックを行う)"に設定します。これで、キーボードが接続されていなくてもコンピュータは正常に起動します。

警告メッセージ	説 明
Memory test fail	メモリのテスト中にエラーが発生しました。コンピュータの電源をオフにし、約20秒待ってから再起動してみてください。
Hardware Monitor found an error, enter POWER MANAGEMENT SETUP for details	電源電圧に異常が発生しました。コンピュータの電源をオフにし、コンピュータ内部が冷えるまで10分以上待ってから電源をオンにしてください。それでもこのエラーが生じるときは、販売店、サービスセンターまたはテクニカルセンターまでご連絡ください。

付 録

お手入れ方法、CMOS RAMの初期化、
リチウム電池の交換、HDD領域の変更方
法、仕様などについて説明しています。

お手入れ

本機のお手入れ

コンピュータ本体やキーボード、マウスなどの外装の汚れを拭き取るときは、柔らかい布に中性洗剤を滴らない程度に染み込ませて、軽く拭き取ってください。



制限

ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。変色や変形の可能性があります。

マウスのお手入れ

マウスを長い間使っていると、マウスボールにホコリやゴミが付着します。マウスボールの汚れをそのままにして使い続けると、誤動作や故障の原因となります。マウスボールが汚れてきたらクリーニングを行ってください。

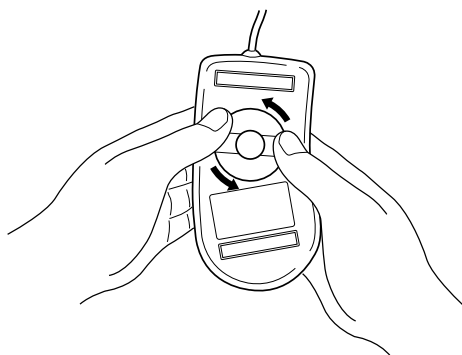
クリーニングはコンピュータ本体の電源を切ったあと、マウスをコンピュータから取り外した状態で行ってください。

クリーニングの手順は、次のとおりです。

1

マウス底面のボールフレームをはずします。

ボールフレームの滑り止め部分に親指を置いて、左回りに回します。



2

マウスボールを取り出します。

マウス底面を静かに下に向けると、ボールフレームとマウスボールが外れます。

- 3 マウスボールの汚れを乾いた布で拭き取ります。
マウスボールの汚れがひどい場合は、中性洗剤をうすめた溶液で洗い、水でよくすすぎます。水洗い後は、マウスボールを乾いた布で拭き、十分乾燥させてから装着します。
クリーニング中は、マウス本体内部にゴミなどが入らないように注意してください。
- 4 マウスボールをマウス底面の穴に入れます。
- 5 ボールフレームを元どおりに取り付けます。
右回りに回してマウス本体に装着します。



マウスボールの着脱を必要以上に繰り返さないでください。故障の原因となります。

FDDのお手入れ

FDDのヘッドのお手入れには、FDD専用のクリーナディスクをお使いください。



クリーナディスク(乾式、湿式のどちらも)は使いすぎるとFDDのヘッドを傷める原因となります。使用は必要最小限にしてください。

湿式のクリーナディスクを使ったときは、ヘッドをよく乾かしてから本機をご使用ください。

CMOS RAMの初期化

CMOS RAMにはBIOS Setupユーティリティで設定した各種情報などが保存されています。通常はCMOS RAMを初期化する必要はありません。しかしBIOS Setupユーティリティで設定したパスワードを忘れたり、BIOS の設定を誤ったりして、コンピュータが起動しなくなった場合にはCMOS RAMを初期化することで動作が可能になる場合があります。



制限

CMOS RAMを初期化すると、現在のBIOSの設定情報がクリアされます。CMOS RAMを初期化する前に、BIOSの設定値を記録しておくことをおすすめします。👉 p.91「BIOSの設定値」

CMOS RAMの初期化の手順は以下のとおりです。

- 1 本体カバーを外します。
👉 p.50「本体カバーの外し方」
- 2 作業の妨げになる拡張カード、ケーブル類や電源コネクタなどを外します。
- 3 リチウム電池を抜きます。
👉 p.133「リチウム電池の交換」
- 4 約1分間放置します。
- 5 リチウム電池を取り付けます。
👉 p.133「リチウム電池の交換」
- 6 外した拡張カード、ケーブル類や電源コネクタなどを取り付けます。
- 7 本体カバーを装着します。
- 8 電源ケーブルや外したケーブル類を接続します。
- 9 コンピュータの電源スイッチを入れます。再起動すると、「CMOS checksum error-Defaults loaded」とメッセージが表示されます。**[Delete]**を押して、BIOS Setupユーティリティを実行し、内容を保存してから終了します。

リチウム電池の交換

BIOS Setupユーティリティで設定した情報は、本体内部のリチウム電池により保持されます。


本機のリチウム電池の寿命は数年です。リチウム電池の残量が少なくなると情報を保持できなくなり、設定した値が何もしないのになってしまいます。このような場合、リチウム電池を交換してください。

本機で使用するリチウム電池は次のとおりです。

CR2032 または同等品



制限


リチウム電池を取り外すと、BIOS Setupユーティリティで設定した値はすべて初期設定値に戻ってしまいます。リチウム電池を交換したら、BIOS Setupユーティリティを実行してください。BIOS RAMの設定値を「LOAD SETUP DEFAULTS」などから、もとの値に戻してください。  p.90「Exitメニュー画面」



警告

小さなお子様の手の届く場所で、リチウム電池の着脱、保管をしないでください。飲み込むと化学物質による被害の原因となります。万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。

リチウム電池の交換は次の手順で行います。

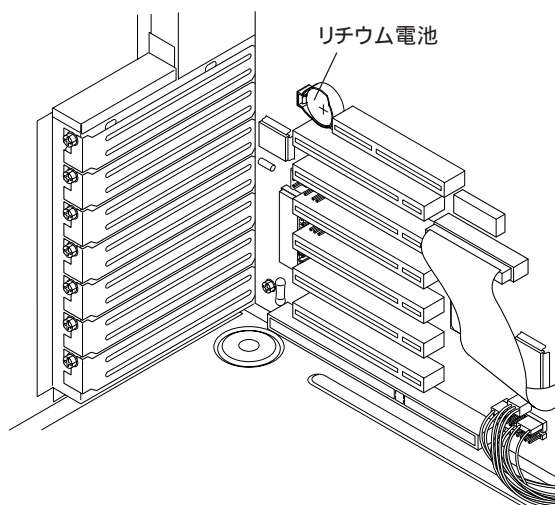
- 1 本体カバーを外します。
 p.50「本体カバーの外し方」
- 2 作業の妨げになる拡張カードを外します。
必要に応じて、ケーブル類を外します。



3

リチウム電池の位置を確認します。

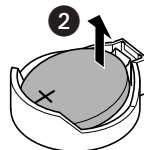
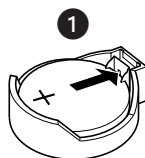
リチウム電池はメインボード上の次の位置にあります。



4

リチウム電池を抜きます。

- ① 電池ホルダの留め金を押します。
- ② リチウム電池が浮き上がったら、電池を抜きます。

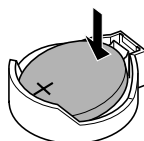


5

新しいリチウム電池を取り付けます。

刻印面(+ 側)が上側にくるようにして、新しいリチウム電池を取り付けます。

取り付ける時には、「カチッ」と音が鳴ります。



6

取り外した拡張カードやケーブル類を取り付けます。

7

本体カバーを装着します。

 p.51「本体カバーの装着」

使用中の資源(割り込み、DMAなど)を確認する






ICU(ISAコンフィグレーションユーティリティ)はWindowsNT4.0用です。
Windows98をお使いになる場合は使用しません。

ICUを使用すると、拡張カードが使用している割り込み(IRQ)やDMA、I/Oアドレスなどの資源の設定を確認することができます。プラグアンドプレイに対応した拡張カードは、別の拡張カードが装着されると、使用する資源などを自動的に変更することがあります。この拡張カードをプラグアンドプレイに対応していないデバイスドライバで使用していると、正常に使用できなくなります。このような場合に本ユーティリティを実行し、使用している資源を確認してください。その後、確認した資源の設定でデバイスドライバを再インストールすれば再び拡張カードが使用できるようになります。

ICUの実行

ICUの実行方法は次のとおりです。

- 1 「MS-DOS 6.2Vシステムディスク」をFDDにセットし、コンピュータの電源を入れます。
- 2 MS-DOSが起動したら、「MS-DOS 6.2Vシステムディスク」をFDDから抜いて、「ICUディスク」をセットします。
- 3 コマンドプロンプト (A:\>) から次のとおり入力して  を押します。
ICU
- 4 しばらくすると、「Card Configured In System」が表示され、本機に内蔵している拡張カードの一覧が表示されます。
- 5 使用している資源を確認したいカードを選択して  を押します。
「Card Configured In System」のカードが選択できない場合は  を押してください。

- 6 選択した拡張カードが使用している割り込み(IRQ)、DMA、メモリ I/Oポートが表示されますので、記録します。 を押すと前の画面に戻ります。
- 7 + を押し[Exit]を選択し を押します。ICUを終了します。
- 8 「Press any key Continue...」と表示されたら、「MS-DOS 6.2Vシステムディスク」をFDDにセットし、 を押します。
- 9 FDDから「MS-DOS 6.2Vシステムディスク」を抜いてWindowsを起動し、確認した資源の設定でデバイスドライバを再インストールします。

HDD領域の変更



本章での説明はWindows98の場合です。WindowsNT4.0での領域変更はWindowsNT4.0インストール時、または「ディスクアドミニストレータ」で行います。詳しくはWindowsのヘルプや『ファーストステップガイド』をご覧ください。

MS-DOS領域の種類

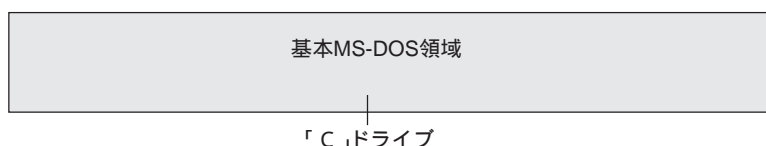
MS-DOS領域には、「基本MS-DOS領域」と「拡張MS-DOS領域」の2種類があります。Windowsの起動は基本MS-DOS領域からしか行えません。拡張MS-DOS領域は、HDD上に複数のドライブを作成する場合に必要になります。

Windowsを使用する場合には、これらの領域は「C」ドライブや「D」ドライブなどの論理ドライブ名で区別されます。これらの論理ドライブもMS-DOS領域の作成時に決められます。

基本MS-DOS領域は必ず「C」ドライブです。基本MS-DOS領域にHDDの最大サイズを割り当てた場合は、基本MS-DOS領域のみが作成され、HDD上はすべて「C」ドライブとなります。これに対して、「C」「D」「E」ドライブなどの複数のドライブをHDD上に作成したい場合は、使用できる最大サイズを割り当てずにHDDの領域を残しておき、この残った領域を拡張MS-DOS領域に割り当てます。拡張MS-DOS領域は、さらに論理MS-DOSドライブとして区分けされ、「D」「E」などの論理ドライブになります。

基本・拡張MS-DOS領域および論理MS-DOSドライブの関係をまとめると次のようになります。

基本MS-DOS領域のみを作成した場合



基本MS-DOS領域と拡張MS-DOS領域に1つの論理MS-DOSドライブを作成した場合



基本MS-DOS領域と拡張MS-DOS領域に複数の論理MS-DOSドライブを作成した場合



HDD領域の変更

MS-DOS領域の構成を変更する手順を説明します。通常はこのような作業を行う必要はありません。HDD領域の変更が必要なのは次のような場合です。

MS-DOS領域のドライブ数や、各ドライブのサイズを変更したいとき。
フォーマットの形式を変更したいとき。

HDD領域の設定を変更するには、いったんHDD上の領域を削除してから、新たに領域を確保しなくてはなりません。

HDD領域の設定を変更する手順の概要は、次のとおりです。



領域を削除したりフォーマットする前に、必ずプロダクトキーを確認してください。Windowsをインストールする際には、プロダクトキーの入力が必要です。プロダクトキーは『Microsoft Windowsファーストステップガイド』の表紙に記載されています。

領域を削除すると、その領域上のデータは消失します。必要なデータは、あらかじめバックアップを取ってから、次の作業を行ってください。

MS-DOS領域の削除



最初に既存の領域を削除します。HDD領域は「拡張MS-DOS領域内の論理ドライブ」「拡張MS-DOS領域」「基本MS-DOS領域」の順番で削除します。

MS-DOS領域の作成



使用環境に合わせてMS-DOS領域を作成します。HDD領域は「基本MS-DOS領域」「拡張MS-DOS領域」「拡張MS-DOS領域内の論理ドライブ」の順番で作成します。

MS-DOS領域のフォーマット

フォーマットはFORMATコマンドを使用します。

FDISKコマンド

HDD領域の設定を変更するには、FDISKコマンドを使用します。FDISKコマンドは「Windows起動ディスク」に登録されています。Windows起動ディスクの作成方法は、p.17「Windows98起動ディスクの作成」をご覧ください。

大容量ディスク サポートとは

大容量HDDを効率的に管理する方法で、FAT32フォーマットの事です。
大容量ディスクサポートを行わない場合(FAT16フォーマット)の基本MS-DOS領域の最大サイズは2GBです。そのため2GBを超えるHDDに対しては複数のドライブ作成が必要です。FAT32フォーマットでは2GBを超えたHDDでも1つのHDD領域で使用できます。

既存領域の削除

次の方法で起動し、コマンドプロンプトを表示させます。

起動方法 (Windows 98 の場合)

- 1 Windows98起動ディスク1をFDDにセットして、コンピュータを起動させます。
- 2 「Microsoft Windows98 Startup Menu」が表示されたら「2. Start Computer Without CD-ROM Support」を選択して を押します。
- 3 「キーボードのタイプを判定します。」と表示されたら、 を押します。
- 4 メッセージにしたがって、Windows98 起動ディスク2に入れかえます。
- 5 コマンドプロンプト(A:¥)が表示されたら、Windows98起動ディスク1に入れかえます。


既存領域の 削除

- 1 コマンドプロンプト(A:¥)が表示されたら、次のとおり入力して を押します。
FDISK
- 2 「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますが(Y / N)」と表示されます。 または を押して を押します。
大容量ディスクサポートをすると2GB以上のドライブを作成できますが、MS-DOSから使用できません。通常は と入力されている状態で を押します。

- 3 処理メニューから「3. 領域または論理MS-DOSドライブを削除」を選択します。を押してから を押します。
- 4 「MS-DOS 領域または論理MS-DOSドライブを削除」画面で、削除する領域を指定します。
基本MS-DOS領域は、論理MS-DOS領域があると削除できません。「拡張MS-DOS領域内の論理ドライブ」「拡張MS-DOS領域」「基本MS-DOS領域」の順番で削除することができます。
ここでは基本MS-DOS領域を削除する手順を説明します。(基本MS-DOS領域以外の削除については画面のメッセージにしたがってください。)
を押してから を押します。
- 5 削除する領域の確認メッセージが表示されます。「1」と表示されていることを確認して を押します。
- 6 削除する領域のボリュームラベルを入力します。
初期設定は「WINDOWS_98」です。「WINDOWS_98」と入力して を押します。(は + を押します。)
- 7 確認メッセージが表示されたら、を押して を押します。
基本MS-DOS領域が削除されます。
- 8 を押して「FDISKオプション」画面に戻ります。
- 9 を押してFDISKを終了します。
- 10 Windows起動ディスク1をセットしたまま、 + + を押して、コンピュータを再起動させます。
再起動後の手順は、p.139「起動方法(Windows98の場合)」を参照してください。
これでMS-DOS領域の削除は終了です。続いて、MS-DOS領域の作成を行います。

MS-DOS領域の作成

基本MS-DOS 領域の作成

- 1 Windows98起動ディスクを使ってコンピュータを起動します。
( p.139 起動方法(Windows98の場合))
- 2 コマンドプロンプト(A:¥>)が表示されたら、次のとおり入力して を押します。
FDISK
- 3 「大容量ディスクのサポートを使用可能にしますか？」と表示されます。
 または を押して を押します。
Windows98モデルの出荷時の設定は (使用する) です。
大容量ディスクサポートをすると2GB以上のドライブを作成できますが、MS-DOSから使用できません。
- 4 処理メニューから「1.MS-DOS 領域または論理MS-DOSドライブを作成」を選択します。 を押してから を押します。
- 5 「MS-DOS 領域または論理MS-DOSドライブを作成」画面で、「1. 基本 MS-DOS領域を作成」を選択します。 を押してから を押します。
- 6 「基本 MS-DOS 領域に使用できる最大サイズを…」とメッセージが表示されます。
大容量ディスクサポートを行っていない場合の最大サイズは2GBです。
- 7 を入力した場合と を入力した場合で次のように作業が異なります。
 を入力して を押した場合
基本 MS-DOS領域が最大サイズで作成されます。FDISKを終了させてから + + を押して、コンピュータを再起動させます。
これでMS-DOS領域の作成は終了です。つづいてフォーマットを行います。p.98「基本MS-DOS領域のフォーマット」に進みます。
 を入力して を押した場合
 を押すと「領域のサイズを…入力してください。」とメッセージが表示されます。割り当てるサイズを入力し、手順8に進みます。


- 8 基本 MS-DOS 領域が作成されます。を押して、「FDISKオプション」画面を表示させます。
- 9 処理メニューから「2. アクティブな領域を設定」を選択します。を押してから を押します。
- 10 「アクティブにしたい…」とメッセージが表示されます。を押してから を押します。
- 11 「領域1がアクティブになりました」とメッセージが表示されます。を押して、「FDISKオプション」画面を表示させます。
- 12 再び、処理メニューから「1. MS-DOS領域または論理MS-DOSドライブを作成」を選択します。を押してから を押します。
- 13 「2. 拡張 MS-DOS領域を作成」を選択します。を押してから を押します。
- 14 「領域のサイズを…入力してください。」とメッセージが表示されます。MS-DOS以外のOSをインストールするような場合を除いて、ここではそのまま を押してください。
- 15 拡張 MS-DOS 領域が作成されます。を押すと、論理ドライブの定義画面が表示されます。
- 16 「論理ドライブのサイズを…入力してください。」とメッセージが表示されます。論理ドライブを複数(基本 MS-DOS 領域と合わせて3つ以上)設定する場合は、ここですべてを割り当てないようにします。使い方に合わせてサイズを入力し、を押します。
- 17 すべての拡張 MS-DOS 領域に論理ドライブを割り当てたら、を数回押して、FDISKを終了します。

- 18 Windows98起動ディスクをセットしたまま + + を押して、コンピュータを再起動させます。
- 再起動後の手順は、p.139「起動方法(Windows98の場合)」を参照してください。
- これでMS-DOS領域の作成は終了です。続いて、MS-DOS領域のフォーマットを行います。

MS-DOS領域のフォーマット

HDD領域の変更をした場合は、各領域のフォーマットが必要です。

フォーマットの手順は次のとおりです。

- 1 Windows98起動ディスクを使ってコンピュータを起動します。
( p.139 起動方法(Windows98の場合))
- 2 コマンドプロンプト(A:¥>)が表示されたら、次のとおり入力して を押します。(Cドライブをフォーマットする場合)
FORMAT C:
- 3 「フォーマットしますか(Y/N)? 」と確認のメッセージが表示されたら、
 を押して を押します。フォーマットが開始されます。
- 4 フォーマットが終了すると、「ボリュームラベルを入力してください。」と表示されます。ボリュームラベルを入力して を押します。必要のない場合は、そのまま を押します。コマンドプロンプト(A:¥>)に戻り、フォーマットの処理が終了します。

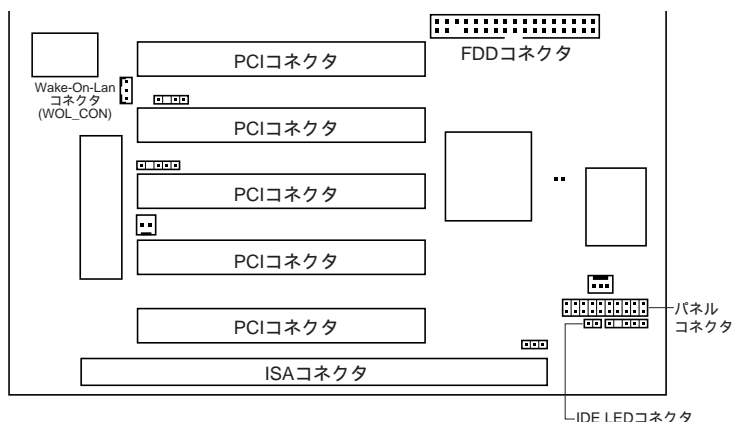
コンピュータ内部のケーブル接続

コンピュータ内部には何本かのケーブルがあり、メインボードなどと接続されています。通常はこれらのケーブルを外したり接続したりする必要はありません。誤って、これらのケーブルを外してしまった場合には本項の内容にしたがって正しく接続してください。

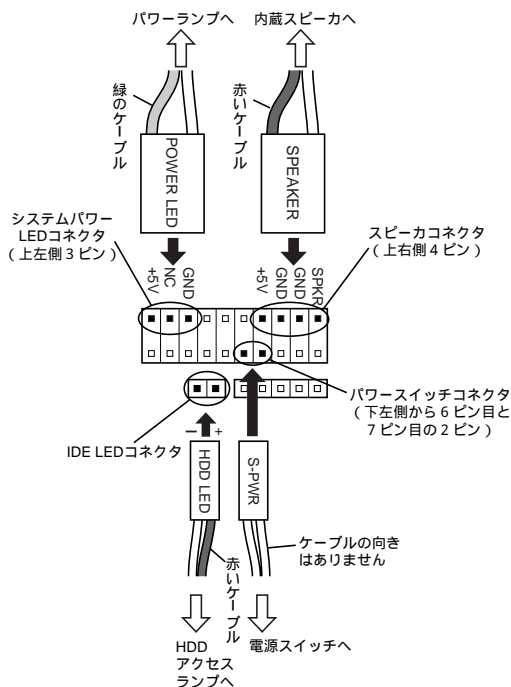


各種ケーブルは、本書で指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、ケーブルが異常発熱し故障の原因となります。

コネクタ位置(メインボード上)



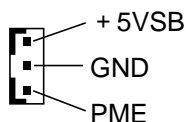
パネルコネクタの詳細と接続方法



ネットワークカードとの接続
(WOL機能付きネットワークカード使用の場合)

「ネットワークウェイクアップ機能」を装備しているネットワークカードで「ネットワークウェイクアップ機能」を使用するためには、ネットワークカードのWOLコネクタとコンピュータのメインボードのWOLコネクタをWOLケーブルで接続します。


コンピュータ側のWOLコネクタのピン配列は下図のとおりです。



ネットワークカードのコネクタ位置については、お使いのネットワークカードのマニュアルをご覧ください。

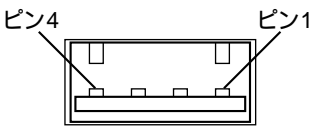
【BIOSの設定】

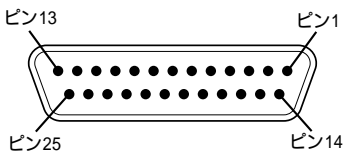
「ネットワークウェイクアップ機能」を使用する場合、BIOS Setupユーティリティの「Powerメニュー画面」-「Power Up Control」-「Wake On LAN」項目を、[Disabled]から[Enabled]へ変更する必要があります。

( p.88「Powerメニュー画面」)

コネクタ仕様

キーボード・マウスコネクタ		ピン番号	信号	意味
		1	DATA	データ信号
		2	Reserved	システム予約
		3	GND	接地
		4	+5V	電源
		5	CLK	クロック
		6	Reserved	システム予約

USBコネクタ		ピン番号	信号	意味
		1	VCC	電源
		2	- Data	信号
		3	+ Data	信号
		4	Ground	グラウンド

パラレルコネクタ			ピン番号	信号	意味
			7	D5	Data Bit5
			8	D6	Data Bit6
			9	D7	Data Bit7
			10	$\overline{\text{ACK}}$	データ受信
			11	BUSY	データ受信不可
ピン番号	信号	意味	12	PE	用紙切れ
1	STROBE	D0 ~ D7有効信号	13	SLCT	プリンタセレクト
2	D0	Data Bit0 (印字データ)	14	$\overline{\text{AUTFD}}$	オートフィードモード
3	D1	Data Bit1	15	$\overline{\text{ERROR}}$	エラー
4	D2	Data Bit2	16	$\overline{\text{INIT}}$	初期化
5	D3	Data Bit3	17	$\overline{\text{SLCTIN(DIR)}}$	プリンタセレクトイン(データ方向)
6	D4	Data Bit4	18 ~ 25	GND	接地

シリアルコネクタ			ピン番号	信号	意味
			3	TXD	送信データ
			4	DTR	データ端末レディ
			5	GND	各信号線の接地
			6	DSR	データセットレディ
ピン番号	信号	意味	7	RTS	送信要求
1	DCD	キャリア検出	8	CTS	送信可
2	RXD	受信データ	9	RI	被呼表示

機能仕様一覧

CPU	キャッシュメモリ	Pentium III プロセッサ 32KB内蔵(命令16KB + データ16KB)
	ROM	BIOS 他 256KB EEPROM(Award BIOS)
メモリ	メインメモリ	最大1GBまで搭載可能
	内部キャッシュメモリ	CPU内蔵
キーボード		日本語対応109キーボード
マウス		ホイール付きPS/2マウス
記憶装置	内蔵FDD	1.44MB/1.2MB/720KB 3モード対応3.5インチFDDを1基内蔵
	内蔵HDD	IDE HDD 1基内蔵
	CD-ROMドライブ	CD-ROMドライブを1基内蔵
インターフェイス	パラレルインタフェース	1(セントロニクス社準拠 D-SUB 25ピン マルチモード双方向 ECP/EPP サポート)
	シリアルインタフェース	2(RS-232C準拠 D-SUB 9ピン)
	キーボードインタフェース	1(IBM PS/2互換 ミニDIN 6ピン)
	マウスインタフェース	1(IBM PS/2互換 ミニDIN 6ピン)
	E-IDEインタフェース	2 最大4台接続可能、接続可能台数は、購入時の仕様により異なります)
	USBインタフェース	2(Windows 98インストールモデルで使用可能)
ドライブベイ	3.5型ドライブベイ	2(FDDで1ベイ使用済み)
	5.25型ドライブベイ	3(CD-ROMドライブで1ベイ使用済み)
	ハードディスクベイ	5(HDDで1ベイ使用済み)
外部拡張スロット		AGP対応スロット×1(ハーフサイズ : 175mm)
		PCIバス対応スロット×5(フルサイズ : 312mm)
		PCI/ISA共用スロット×1(PCI : 165mm, ISA : 338mm)
カレンダー時計		内蔵(内蔵電池によりバックアップ)
電源容量		200W
入力電圧		AC 100 V ± 10 V (50/60 Hz)
温湿度条件		温度:10 ~ 35
		湿度:20 ~ 80%(ただし、結露しないこと)
外形寸法		本体:約217(幅)×438(奥行)×438(高さ)mm
		キーボード:約455(幅)×167(奥行)×40(高さ)mm
重量		本体:約12Kg
		キーボード:約0.9Kg
消費電力		最大350W(パワーマネージメントモードあり)
省エネ法に基づくエネルギー消費効率		55W(待機時消費電力)

用語集

本書で使用している用語で、本文中で説明がなかったもの、あるいは難しいものを簡単に解説します。詳細については市販の書籍などを利用してください。

ACPI

Advanced Configuration and Power Interfaceの略。コンピュータの電源の状態を、Windowsのアプリケーションからコントロールするための電源管理機能の規格です。

AGP

CPUとビデオチップを接続するための拡張ポート。PCIバスのデータ転送方法を最大限に残し、ビデオ関係の性能を強化しています。

BIOS(バイオス)

Basic Input Output Systemの略。コンピュータの基本的な入出力を行うプログラムを集めたもの。コンピュータ内部にROMで提供されています。またBIOS Setupユーティリティで設定する内容を含める場合もあります。

【使用例】 BIOSの設定を行ってください。
= BIOS Setupユーティリティを実行して設定を変更してください。

【類義語】 CMOS RAM

BIOS Setupユーティリティ

コンピュータの動作状態やBIOSの動作を設定したり変更するためのプログラム。BIOSとセットでROMで提供されています。BIOS Setupユーティリティで設定した値はCMOS RAMに保存されます。

CPU

Central Processing Unitの略。コンピュータの処理の中心、頭脳。

DIMM

Dual Inline Memory Moduleの略。メインボードの所定のソケットに差し込むことで、コンピュータのメモリを拡張できます。DIMMは、表と裏の端子を別々の信号として認識できるため、1枚単位で増設が可能です。

DMA転送

Direct Memory Accessの略。CPUを介さずに、周辺装置とメモリ間で直接データ転送を行うこと。

【使用例】 DMA転送により高速なデータの出入力が可能。

DMAチャンネル

DMAでデータを転送する場合の通り道のこと。複数のDMA転送を行う装置が接続されている場合には、別々のチャンネルを使用するように設定する必要があります。

【使用例】 サウンドカードで使用するDMAチャンネルを設定する。

DRAM(ディーラム)

メモリの種類。Dynamic Random Access Memoryの略。コンピュータで最も一般的に使用されるメモリです。

メインメモリには、DRAMが使用されます。コンピュータの電源を切ると、DRAMのデータは消失します。DRAMにはFastPageモード、EDOモードなどの種類があります。

FAT32

Windowsがデータの読み書きに利用しているファイルの配置情報(File Allocation Table)を

32ビットに拡張したファイルシステム。2GB以上のディスク容量を1つのドライブとして使用することができます。(FAT16では2GBまで)。

I/Oポートアドレス

CPUと周辺機器(回路)とでデータを入出力するためのアドレス(番地)のことです。

【使用例】 SCSIカードで使用するI/Oポートアドレスは330hです。

ICU

ISA Configuration Utilityの略。ISAバス用拡張カードでプラグアンドプレイを実現するためにリソース管理を行うソフトウェア。Windows98は、この機能を含んでいます。

IDE

Integrated Device Electronicsの略。コンピュータ本体とHDDのデータの入出力方法(インタフェース)を定めた規格の一種。最近HDDだけではなく、CD-ROMドライブなどもIDEで接続するのが一般的です。

【使用例】 IDEインタフェースのHDD(IDE HDD)

IRQ

Interrupt Requestの略。周辺装置からCPUに対して処理を依頼するための信号。DOS/V機では16本あり、コンピュータ内部や、拡張カードなどで使用されます。

IRQ番号

IRQの信号を区別するための名前。16本の信号にIRQ0からIRQ15までの名前が付いています。IRQ信号を使用する場合には、重複しないよ

うに設定する必要があります。

【使用例】 サウンドカードではIRQ7を使用します。

ISAバス

拡張バス的一种。DOS/V機には必ず設けられている拡張バスで、接続できる拡張カードの種類が多い。

OS

Operating Systemの略。コンピュータ全体を管理するソフトウェアのこと。WindowsやMS-DOSなどのことです。

PCIバス

拡張バス的一种。Pentiumが搭載されたコンピュータで一般的に採用されている拡張バス。ISA拡張バスに比べて高速、プラグアンドプレイに対応などメリットが多い。

高速性を要求される拡張カードに使用されます。

SCSI

Small Computer System Interfaceの略。コンピュータと周辺装置間のデータの入出力方法(インタフェース)を定めた規格の一種。良く使用されるものとして大容量HDD、MOドライブ、スキャナなどがあります。

【使用例】 SCSIインタフェースのHDD(SCSI HDD)

USB

Universal Serial Busの略。比較的低速な装置をシリアル通信で接続するための規格。USB対応のキーボードやマウス、ジョイスティックなどが接続されます。

VGA

640×480ドット16色を表示するビデオ表示機能。DOS/V機の基本的な表示機能です。

アクセス

データの読み書きなど、入出力動作一般のことです。

使用例 HDDにアクセスする。= HDDのデータを読み書きする。

アクセスランプ

HDDやFDDにアクセスしていることを示すランプのことです。

使用例 HDDアクセスランプ

アドレス

メモリやI/Oポートに付けられた番地(場所)のことです。一般的に16進数で示されます。

使用例 メモリアドレス、I/Oポートアドレス

アプリケーションソフト

プログラムのなかで、ワードプロセッサや表計算など目的のはっきりしたソフトウェアのことです。

インストール

ソフトウェアをコンピュータで実行できるようにHDDなどへコピーすることを言います。ソフトウェアごとに専用のインストールプログラムが付いているのが普通です。ソフトウェアを「組み込む」とも言います。

使用例 サウンドドライバをインストールします。

インタフェース

コンピュータと周辺装置の間でデータを入力するための回路や手順などを定めた規格のことです。

使用例 IDEインタフェース、インタフェースコネクタ、インタフェースケーブル

解像度

画面表示の細かさのことです。

使用例 1024×768ドットの解像度で表示する。

外部キャッシュメモリ

CPUとメインメモリ間のデータ転送を高速化し、コンピュータの処理速度を向上させるメモリです。本機のキャッシュメモリには高性能なパイプラインバーストSRAMを採用しています。

類義語 キャッシュRAM、L2キャッシュ、2次キャッシュ

拡張スロット

拡張カードを装着するためのスロットです。拡張カードには、ISAバス用拡張カード、PCIバス用拡張カードがあります。

カーソル

文字やデータなどが入力される場所を示す画面上の印です。

使用例 マウスカーソル

起動する

コンピュータの電源スイッチを入れて、コンピュータを使用できる状態にすることを「起動する」と言います。

類義語 立ち上げる。

キャッシュ処理、キャッシュ機能

一度読み込んだデータを保持し、コンピュータの処理速度を上げるための機能です。

使用例 メモリキャッシュ、ディスクキャッシュ

コマンド

コンピュータに与える命令です。

命令は、文字を入力したり、マウスによってアイコンをダブルクリックしたりして行います。

使用例 次のコマンドを入力してください。

システム

コンピュータ(ハードウェア)、OS、アプリケーションソフト(ソフトウェア)など全体のことを示します。

使用例 システムを起動する。=コンピュータの電源スイッチを入れて、OSを立ち上げてコンピュータを使用できる状態にすることです。

ジャンパススイッチ

コンピュータの機能を制御する基板上の小さなスイッチのこと。ジャンパススイッチの設定はジャンパクリップと呼ばれる部品を差し替えて変更します。

ディスプレイ

表示装置のことです。

類義語 CRTディスプレイ、モニタ

ドット

表示画面のひとつひとつの点の単位です。

使用例 1024×768ドットの解像度=画面上に1024×768個の点を表示することができます。

内部キャッシュ

CPU内部のキャッシュ

バス

コンピュータ内部でデータの入出力を行う電気的な通り道およびデータの集合のこと。拡張スロットのコネクタ部を指すこともあります。

使用例 PCIバス、ISAバス

パラメータ

コマンドや項目に対して付加する数値や、文字列などです。

使用例 パラメータを設定します。

ハングアップ

コンピュータが暴走し、コマンドを受け付けない状態になることです。

ヒートシンク

放熱板など動作中に発熱する素子を冷やす装置のこと。CPUの発熱量は大きいいため熱暴走しないようにヒートシンクがCPU上部に付いています。ヒートシンクには、板状のもの(自然空冷)や放熱ファンを回す(強制空冷)のものがあります。

ファイル

コンピュータで扱うすべてのプログラムやデータの総称です。

使用例 ファイルをコピーする。データファイルを作成する。

物理ドライブ

HDD1台や、CD-ROMドライブ1台など、物理的なドライブ装置のことです。

プラグアンドプレイ

取り付ける(Plug)だけで動作する(Play)こと。PnP、Plug and Playなどとも記載されます。

拡張カードや周辺装置などをコンピュータに取り付けるだけで、自動的に検出して使用できる状態にする機能。

この機能により、従来拡張カード上で設定していたI/Oポート、IRQ、DMAの設定などが不要になります。

完全なプラグアンドプレイを実現するためには拡張カードや周辺装置、BIOSやOSなど、それぞれでサポートする必要があります。PCIバス用拡張カードではプラグアンドプレイに対応していますが、古いISAバス用拡張カードは対応していないものがあります。

プログラム

コンピュータで処理を行うための命令の集まりのことです。

【類義語】 ソフトウェア、アプリケーションソフト

ポート

コネクタまたは、そのコネクタに対するインタフェース回路全般のことです。

メッセージ

コンピュータが入力されたコマンドに対して出力する回答のことです。「処理が正しく実行された」「このエラーが発生した」など種類はさまざまです。

メインメモリ

メモリのなかで、最初にプログラムやデータなどが読み込まれるメモリのこと。主記憶。コンピュータのメモリ容量といえば、メイン

メモリの容量のことを示します。

【使用例】 本機のメモリ容量(=メインメモリ)は32MBです。

メモリ

実行するプログラムや、データを一時的に保存する素子のことです。コンピュータはHDDなどからプログラムやデータをメモリに読み込みながら実行します。一般的にメモリ容量が多ければより高速にコンピュータを利用することができます。

メモリチェック

コンピュータ起動時に装着されているメモリに異常がないか検査する動作のことです。

モデム

電話回線を通じてデータを送受信するための周辺機器です。最近ではFAX機能の付加した製品が多くなっています。

リソース

拡張カードや周辺機器で使用するIRQ、DMA、I/Oポートアドレスなどをまとめて表現する用語。

【類義語】 システム資源

論理ドライブ

OSによって管理される論理的な区分けです。HDDには、1台の物理ドライブ上に複数の論理ドライブを作成することができます。

MEMO



付録

MEMO

ご注意

- (1) 本書の内容の一部、または全部を無断で転載することは固くお断りいたします。
- (2) 本書の内容について、将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書の内容は万全を期して作成いたしました但、万一誤り・お気付きの点 ございましたら、ご連絡くださいますようお願いいたします。
- (4) 運用した結果の影響につきましては、(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

使用限定について

本製品は、O A 機器として使用されることを目的に開発・製造されたものです。

本製品を航空機・列車・船舶・自動車などの運行に直接関わる装置・防災防犯装置・各種安全装置など機能・精度などにおいて高い信頼性・安全性が必要とされる用途に使用される場合は、これらのシステム全体の信頼性および安全性維持のためにフェールセーフ設計や冗長設計の措置を講じるなど、システム全体の安全設計にご配慮頂いた上で本製品をご使用ください。

本製品は、航空宇宙機器、幹線通信機器、原子力制御機器、生命維持に関わる医療機器などの極めて高い信頼性・安全性が必要とされる用途への使用を意図しておりませんので、これらの用途にはご使用にならないでください。

本製品を日本国外へ持ち出す場合のご注意

本製品は日本国内でご使用いただくことを前提に製造・販売しております。したがって、本製品の修理・保守サービスおよび不具合などの対応は、日本国外ではお受けできませんのでご了承ください。また、日本国外ではその国の法律または規制により、本製品を使用できないこともあります。このような国では、本製品を運用した結果罰せられることがあります但、当社といたしましては一切責任を負いかねますのでご了承ください。

電波障害について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

漏洩電流自主規制について

本装置は、社団法人日本電子工業振興協会のパソコン業界基準（PC-11-1988）に適合しております。

高調波ガイドライン適合品

本製品は、家電・汎用品高調波抑制対策ガイドラインに適合しております。

商標について

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、WindowsNTは米国Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Pentium、MMX は Intel Corporation の登録商標です。

IBM、PS/2 は International Business Machines の登録商標です。

Adobe Acrobat ReaderはAdobe Systems Incorporated (アドビシステム社) の登録商標です。

そのほかの社名、製品名は一般にそれぞれの会社の商標または登録商標です。

EPSON

